

楢葉町 住民意向調査 報告書

平成26年3月

楢葉町

福島県

復興庁

檜葉町 住民意向調査 報告書

目 次

I 調査の概要	1
1-1 調査目的	3
1-2 調査内容	3
1-3 調査設計	3
1-4 回収結果	3
1-5 報告書の見方	3
II 回答者の属性	5
2-1 回答者の属性	7
III 調査結果	11
3-1 現在の状況	13
3-1-1 現在の避難先自治体	13
3-1-2 世帯構成・人数	15
3-1-3 職業	20
3-1-4 現在の住居形態	35
3-2 震災発生当時の住宅の状況	37
3-2-1 震災発生当時の住宅の状況	37
3-2-2 震災発生当時の住宅の現況	38
3-2-3 震災発生当時の住宅の具体的な被害内容	38
3-2-4 震災発生当時の持ち家の今後の予定	39
3-2-5 震災当時の持ち家の修繕方法	39
3-3 将来の意向	40
3-3-1 今後の職業についての意向	40
3-3-2 職場を選ぶ際に重要視すること	50
3-3-3 檜葉町への帰還意向	54
3-3-4 檜葉町へ帰還する場合に求める支援	59
3-3-5 檜葉町への帰還を判断する上で必要と思う情報	61
3-3-6 避難指示解除から帰還への年数	69
3-3-7 帰還後の家族構成	71
3-3-8 帰還する場合の住居形態	73
3-3-9 帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由	77
3-3-10 現時点で戻らないと決めている理由	79
3-3-11 帰還しない場合に居住したい自治体	82
3-3-12 帰還せず別の自治体に転居する場合の住居形態	87

3-3-13 帰還しない場合に今後の生活において求める支援	89
3-4 意見・要望	92
IV 参考資料	109
4-1 使用調査票	111

I 調査の概要

1-1 調査目的

本調査は、楡葉町民の避難生活の現況及び意向を把握し、町の復興及び生活再建に向けた諸施策を適切に実施するための基礎資料とすることを目的とする。

1-2 調査内容

※4-1 使用調査票を参照のこと

1-3 調査設計

(1) 調査地域	楡葉町
(2) 調査対象と標本数	世帯の代表者 3,686 世帯
(3) 調査手法	郵送にて配布・回収（自記式）
(4) 調査期間	平成 26 年 1 月 9 日（木）～1 月 23 日（木）
(5) 調査主体	楡葉町、福島県、復興庁
(6) 調査機関	株式会社サーベイリサーチセンター

1-4 回収結果

有効回収数 2,188 世帯（有効回収率 59.4%）

1-5 報告書の見方

- ・調査数（n=Number of cases）とは、回答者総数あるいは分類別の回答者数のことである。
- ・回答の構成比は百分率であらわし、小数点第 2 位を四捨五入して算出している。従って、回答比率の合計が 100%にならない場合がある。
- ・回答者が 2 つ以上の回答をすることができる多肢選択式の質問においては、全ての選択肢の比率を合計すると 100%を超える。
- ・図表において、比率が少ない選択肢については、比率の表示を省略している場合がある。
- ・図表および文章中で、選択肢の語句等を一部簡略化している場合がある。
- ・調査数（n 値）が少数（概ね 30 を下回る）のものは、回答構成比の信頼性が低いため、文章中の分析では言及していない。

II 回答者の属性

2-1 回答者の属性

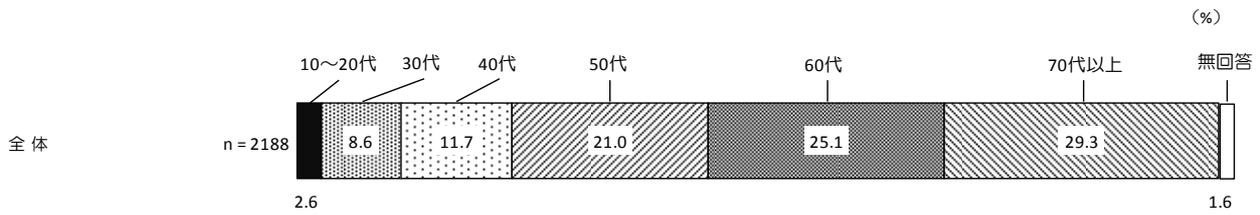
(1) 性別

<図表2-1-1 性別>



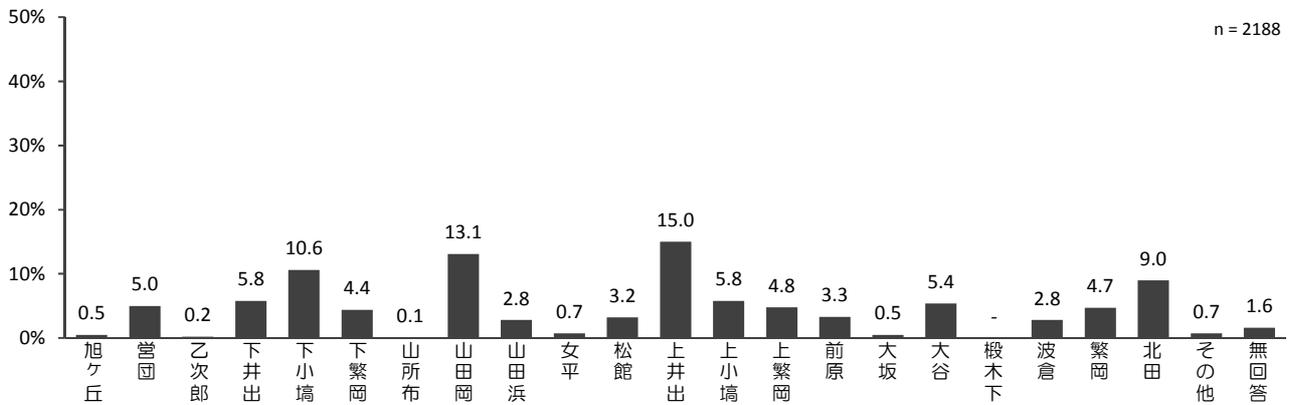
(2) 年齢

<図表2-1-2 年齢>



(3) 震災発生当時居住していた行政区

<図表2-1-3 居住行政区>



II 回答者の属性

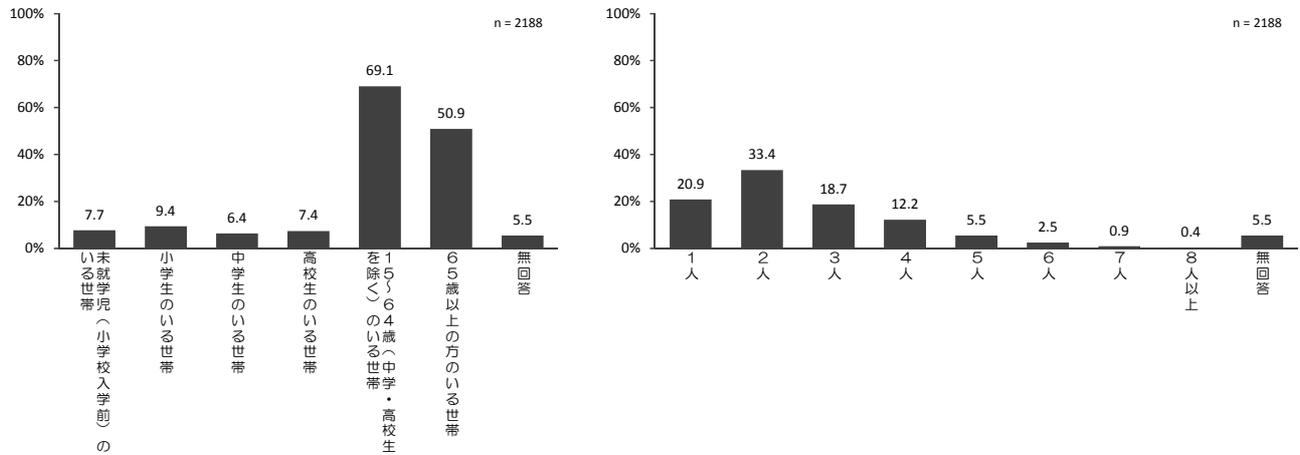
(4) 震災発生当時の世帯での立場

<図表2-1-4 震災発生当時の世帯での立場>



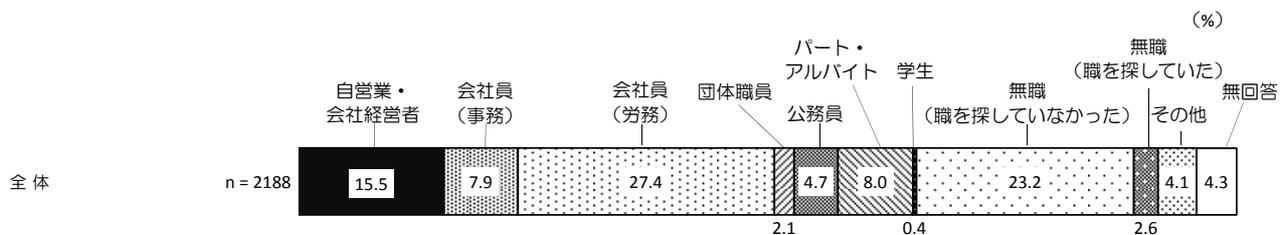
(5) 現在の世帯構成・人数

<図表2-1-5 世帯構成・人数>

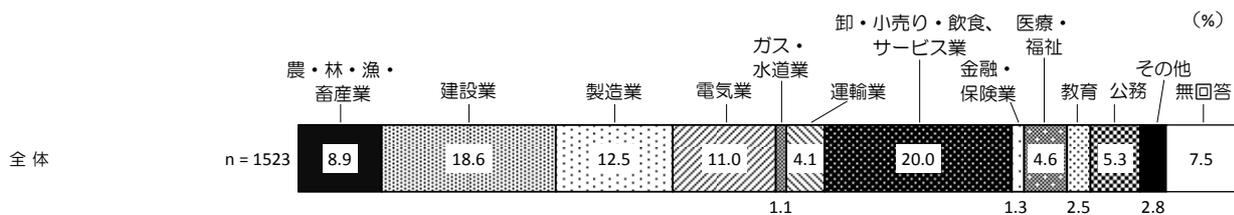


(6) 職業

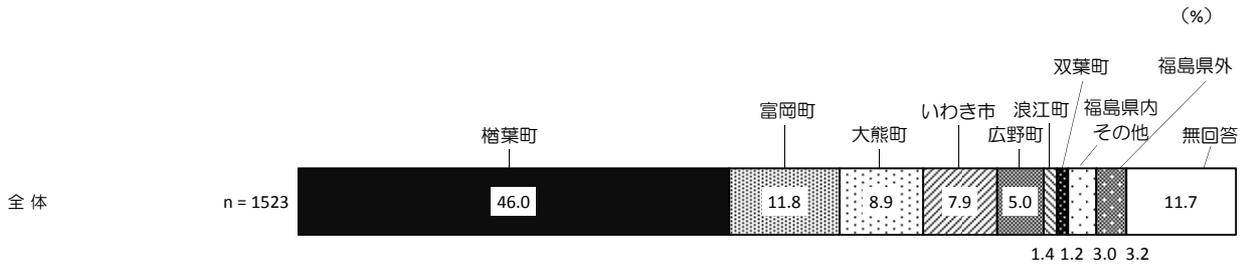
<図表2-1-6 震災発生当時の職業（就業形態）>



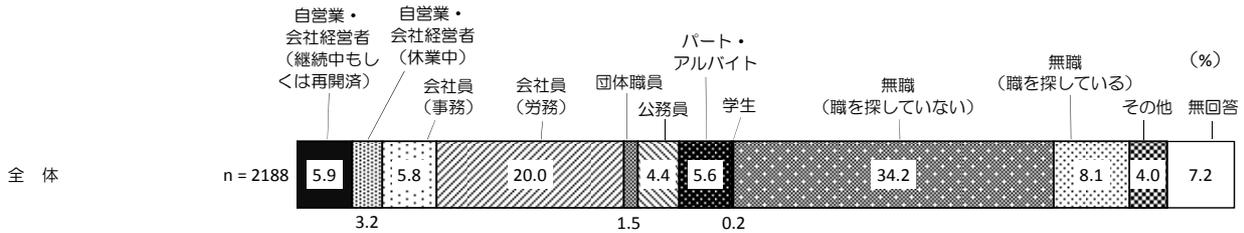
<図表2-1-7 震災発生当時の業種>



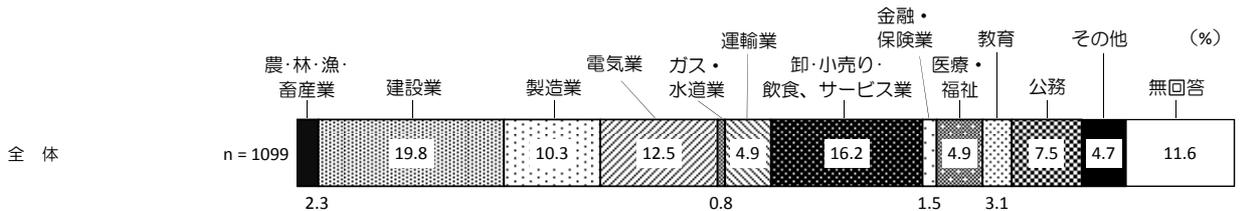
<図表2-1-8 震災発生当時の就業先>



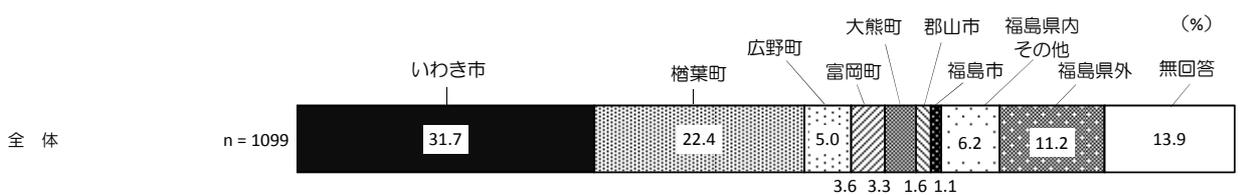
<図表2-1-9 現在の職業（就業形態）>



<図表2-1-10 現在の業種>



<図表2-1-11 現在の就業先>

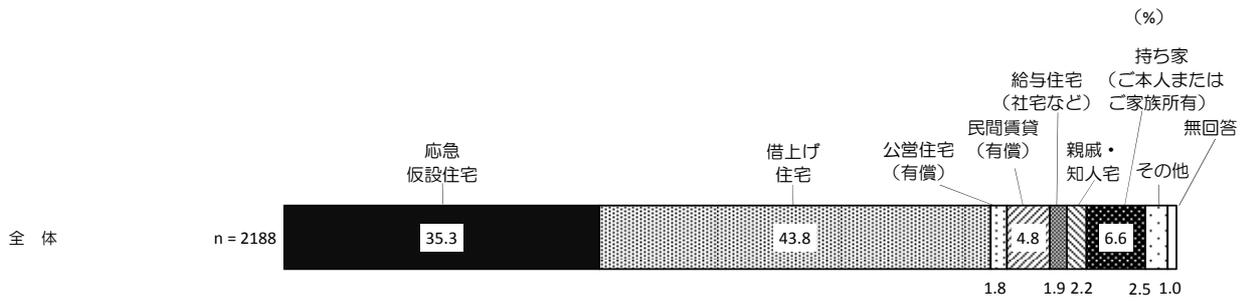


(7) 住居形態

<図表2-1-12 震災発生当時の住居形態>



<図表2-1-13 現在の住居形態>



III 調査結果

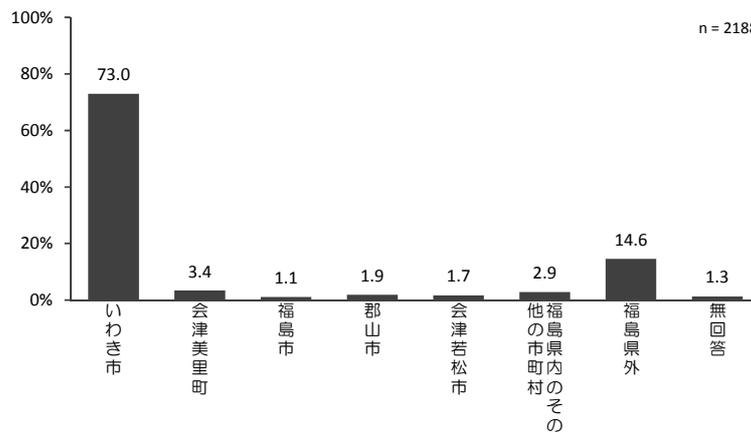
3-1 現在の状況

3-1-1 現在の避難先自治体

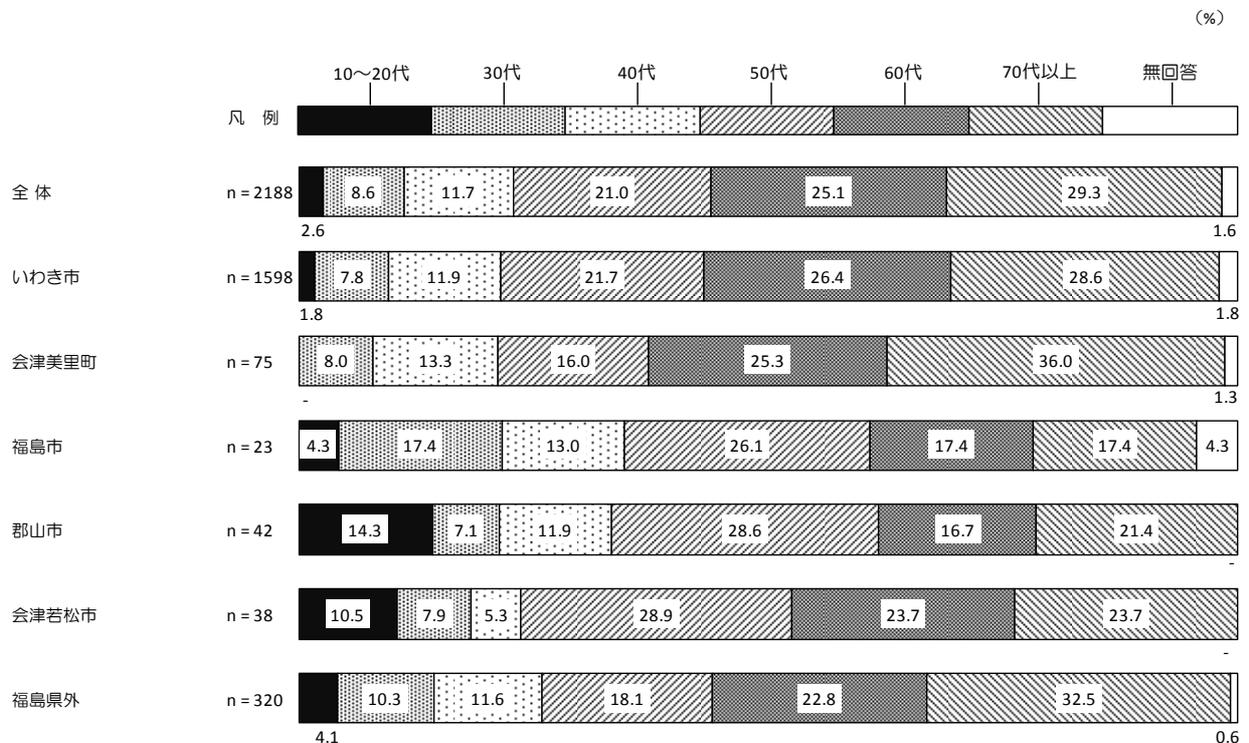
問6 あなたが現在避難されている先の自治体名を教えてください。(〇は1つ)

避難先自治体については、「いわき市」が73.0%と最も高く、次いで「福島県外」が14.6%となっている。

<図表3-1-1-1 現在の避難先自治体>



<図表3-1-1-2 主要な避難先自治体の世帯主の年齢構成>



Ⅲ 調査結果

震災発生時の居住行政区別にみても、全ての行政区で「いわき市」が半数を超えている。

＜図表3-1-1-3 避難先自治体（居住行政区別）＞

	n	(%)					
		いわき市	会津美里町	福島市	郡山市	会津若松市	福島県外
全体	2188	73.0	3.4	1.1	1.9	1.7	14.6
旭ヶ丘	12	58.3	16.7	-	8.3	-	16.7
営団	110	65.5	2.7	-	3.6	1.8	20.0
乙次郎	4	50.0	25.0	-	-	-	-
下井出	127	70.1	2.4	-	2.4	1.6	18.1
下小湊	231	74.5	2.2	0.9	0.9	0.9	17.3
下繁岡	96	67.7	5.2	3.1	-	3.1	16.7
山所布	2	50.0	-	-	-	-	50.0
山田岡	286	72.4	3.8	-	1.7	1.7	15.7
山田浜	62	85.5	-	3.2	-	1.6	9.7
女平	16	87.5	12.5	-	-	-	-
松館	70	81.4	1.4	1.4	-	1.4	10.0
上井出	328	65.5	6.7	0.6	2.4	3.0	18.0
上小湊	127	72.4	3.1	3.1	2.4	3.1	15.0
上繁岡	104	79.8	2.9	-	2.9	-	9.6
前原	73	76.7	1.4	4.1	-	1.4	8.2
大坂	11	90.9	-	-	-	-	9.1
大谷	118	78.8	0.8	-	3.4	0.8	11.0
楢木下	-	-	-	-	-	-	-
波倉	61	77.0	3.3	1.6	1.6	1.6	8.2
繁岡	102	75.5	-	-	2.9	-	15.7
北田	198	74.7	4.0	1.5	1.5	1.5	13.6
その他	15	73.3	-	6.7	6.7	6.7	-

3-1-2 世帯構成・人数

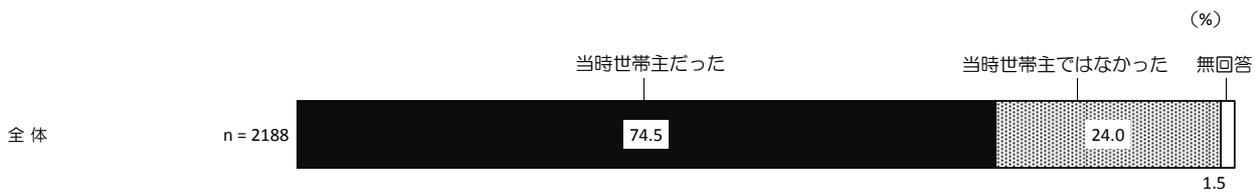
(1) 震災発生当時の世帯での立場

問5 あなたは、震災発生当時、世帯主でしたか。(〇は1つ)

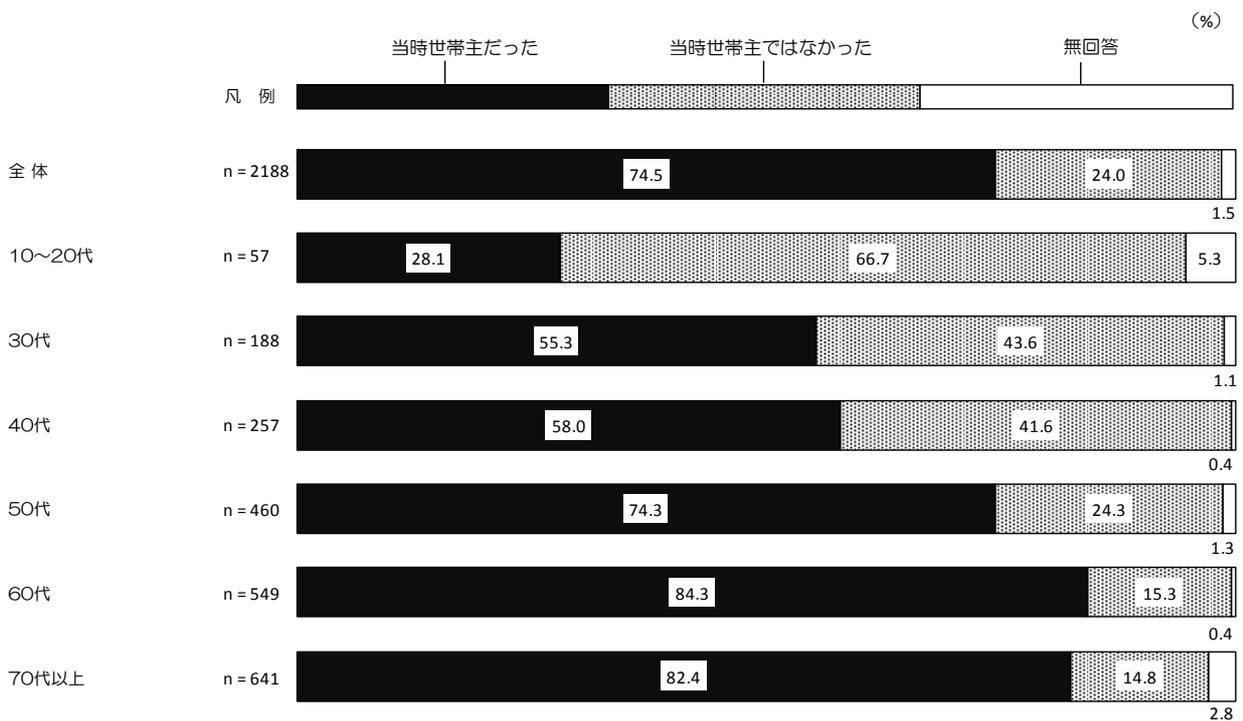
震災発生当時の世帯での立場について、「当時世帯主だった」(74.5%)が高く、7割を超えている一方で、震災発生以後新たに世帯主となった「当時世帯主ではなかった」(24.0%)も高い。

世帯主の年齢別にみると、概ね年齢が高くなるに従って「当時世帯主だった」方の割合も高くなっており、60代(84.3%)、70代以上(82.4%)では8割を超えている。

<図表3-1-2-1 震災発生当時の世帯での立場>



<図表3-1-2-2 震災発生当時の世帯での立場(世帯主の年齢別)>



III 調査結果

(2) 現在の世帯構成・人数

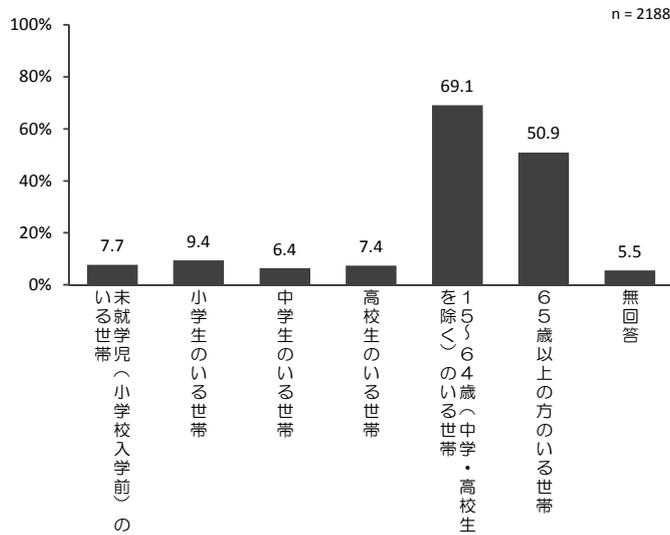
問7 現在の世帯構成についてうかがいます。現在、あなたを含めて一緒に住んでいる方の人数を教えてください。あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

①現在の世帯構成

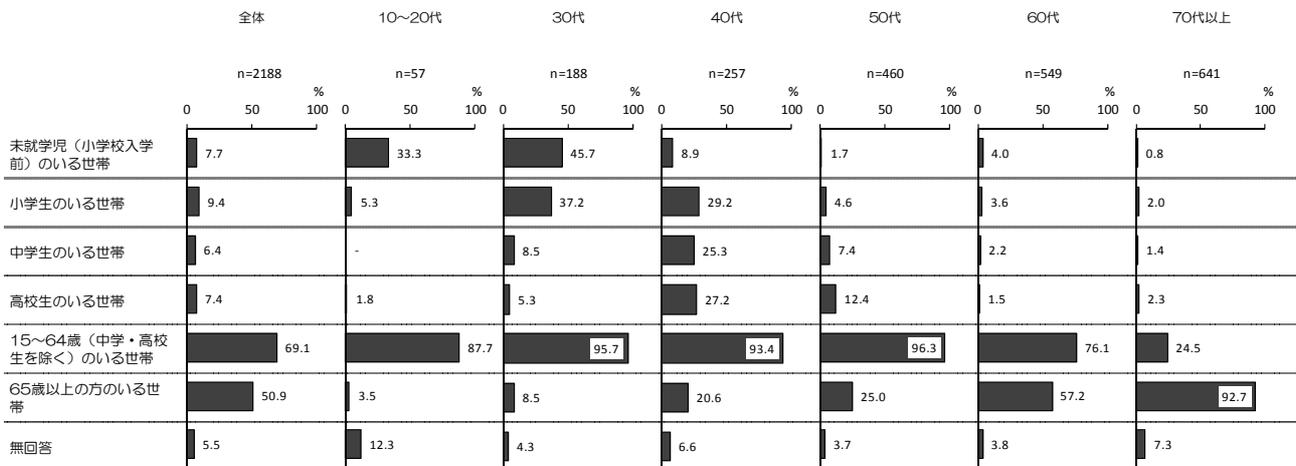
現在の世帯構成は、高校生以下(「未就学児」「小学生」「中学生」「高校生」)が同居する世帯は、それぞれ10%未満である。一方で「65歳以上の方のいる世帯」は50.9%となっている。

世帯主の年齢別にみると、「15～64歳(中学・高校生を除く)のいる世帯」が、概ねいずれの年齢層でも高くなっているが、30代では「未就学児(小学校入学前)のいる世帯」(45.7%)、「小学生のいる世帯」(37.2%)が他の年代と比較して高くなっている。

<図表3-1-2-3 現在の世帯構成>



<図表3-1-2-4 現在の世帯構成(世帯主の年齢別)>

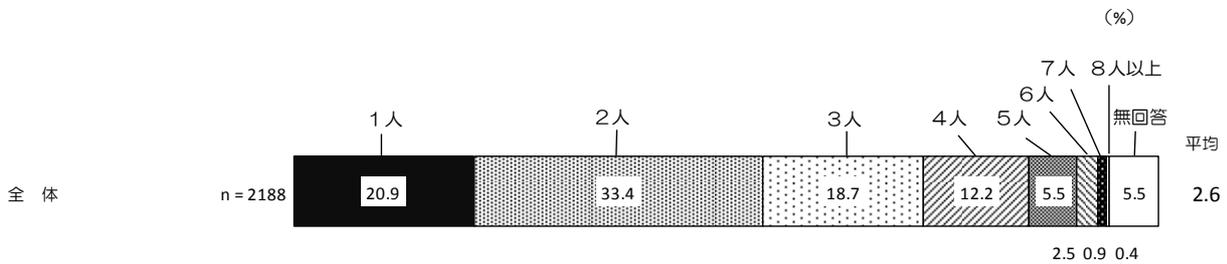


②現在の世帯人数

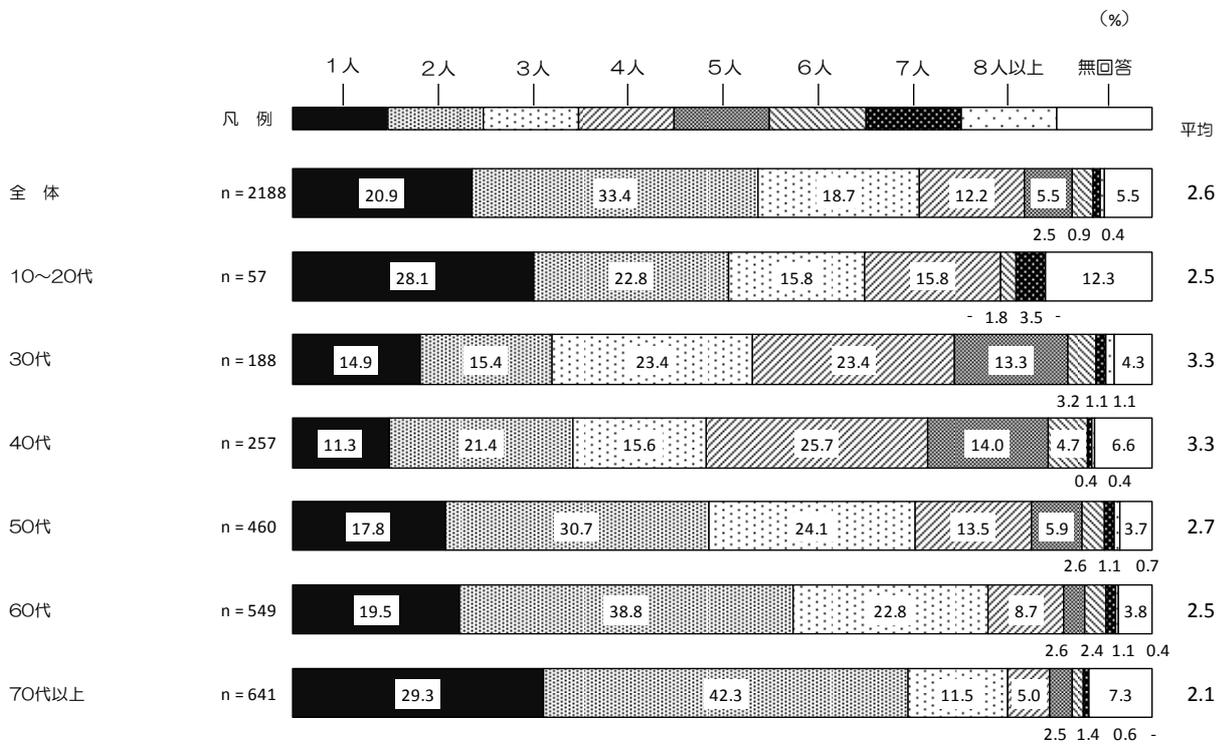
現在の世帯人数について、「2人」(33.4%)が最も高く、次いで「1人」(20.9%)、「3人」(18.7%)となり平均人数は2.6人となっている。

世帯主の年齢別にみると、10~20代と70代以上では「1人」が3割弱となっており、他の年齢層に比べ割合が高い。また50代以上では「2人」が50代(30.7%)、60代(38.8%)、70代以上(42.3%)で3割を超えている。

<図表3-1-2-5 現在の世帯人数>



<図表3-1-2-6 現在の世帯人数(世帯主の年齢別)>



III 調査結果

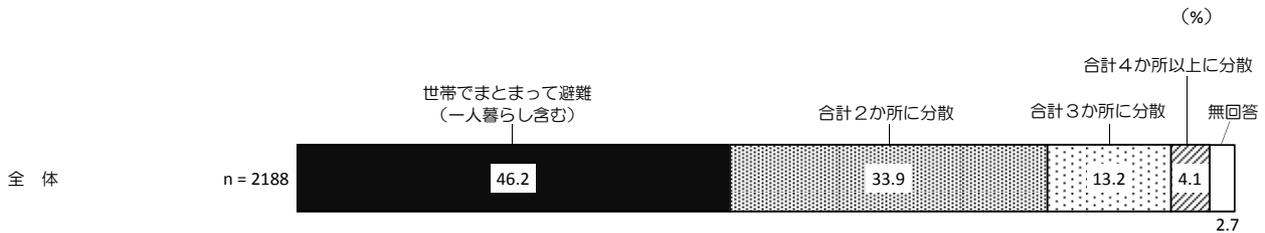
(3) 世帯の分散状況

問8 震災発生当時ご一緒にお住まいであった家族は、現在、何か所に分散してお住まいですか。(〇は1つ)

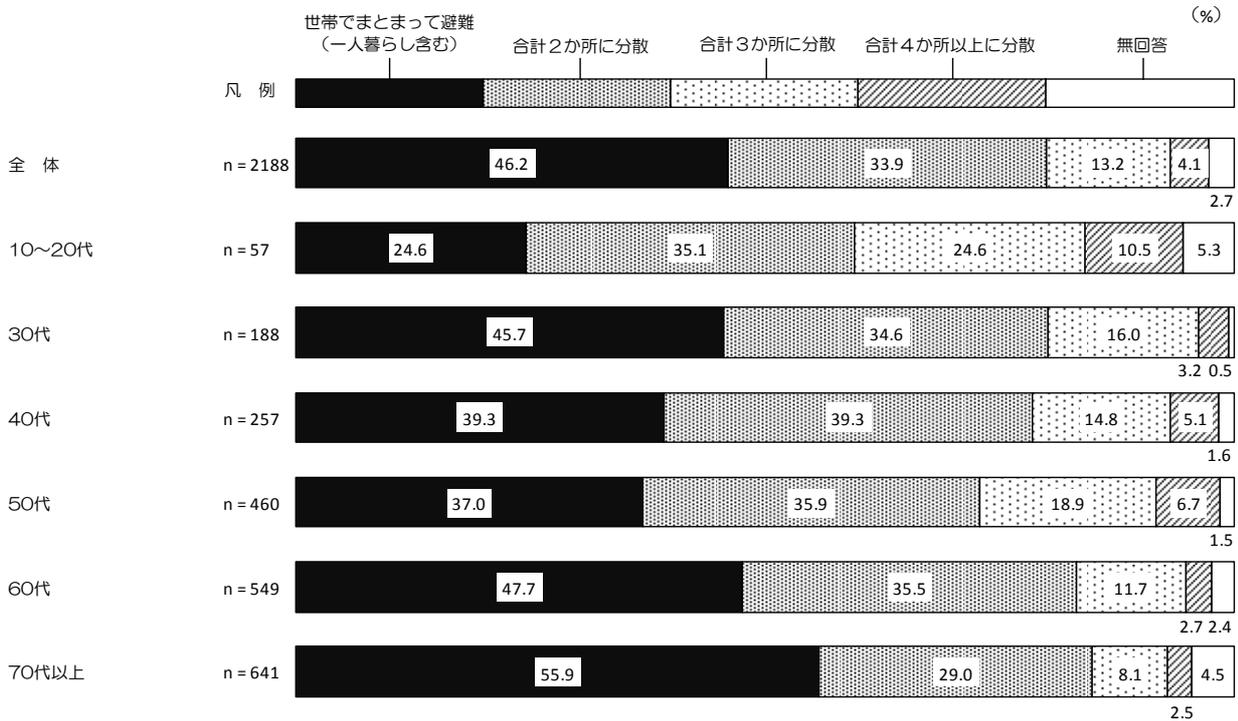
世帯の分散状況について、「世帯でまとまって避難（一人暮らし含む）」(46.2%) が最も高く、以降「合計2か所に分散」(33.9%)、「合計3か所に分散」(13.2%)と続いており、分散している世帯が半数を超えている(51.2%)。

世帯主の年齢別にみると、「世帯でまとまって避難（一人暮らし含む）」が30代、50代以上では最も高くなっているが、10～20代では「合計2か所に分散」が35.1%と最も高い。

<図表3-1-2-7 世帯の分散状況>

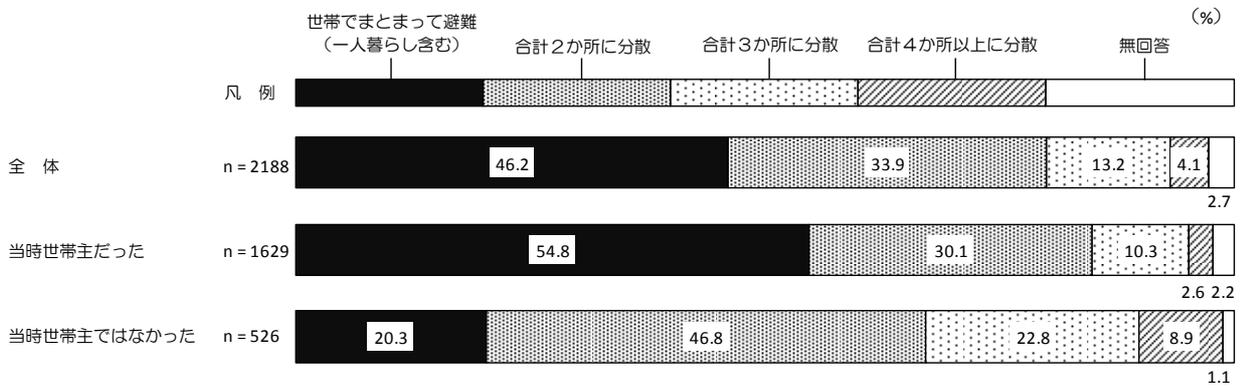


<図表3-1-2-8 世帯の分散状況（世帯主の年齢別）>



震災発生時の世帯での立場別にみると、「世帯でまとまって避難（一人暮らし含む）」は、当時世帯主だった世帯（54.8%）では過半数となる一方、当時世帯主ではなかった世帯（20.3%）では約 2 割にとどまっている。当時世帯主ではなかった世帯では、「合計2か所に分散」が46.8%と5割弱、「合計3か所に分散」も22.8%となっており、2か所以上に分散している世帯は78.5%となり、8割弱を占めている。

<図表3-1-2-9 世帯の分散状況（当時の世帯での立場別）>



3-1-3 職業

(1) 震災発生当時の職業（就業形態）

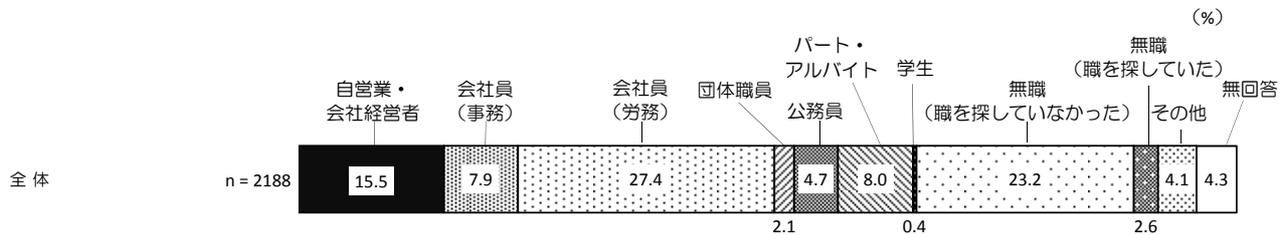
問4 震災発生当時のあなたの職業を教えてください。当時、仕事に就いていた方は、業種及び就業先の所在自治体も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っていた場合には、主な収入源になっていたものを選択してください。

(1) 職業（就業形態）(〇は1つ)

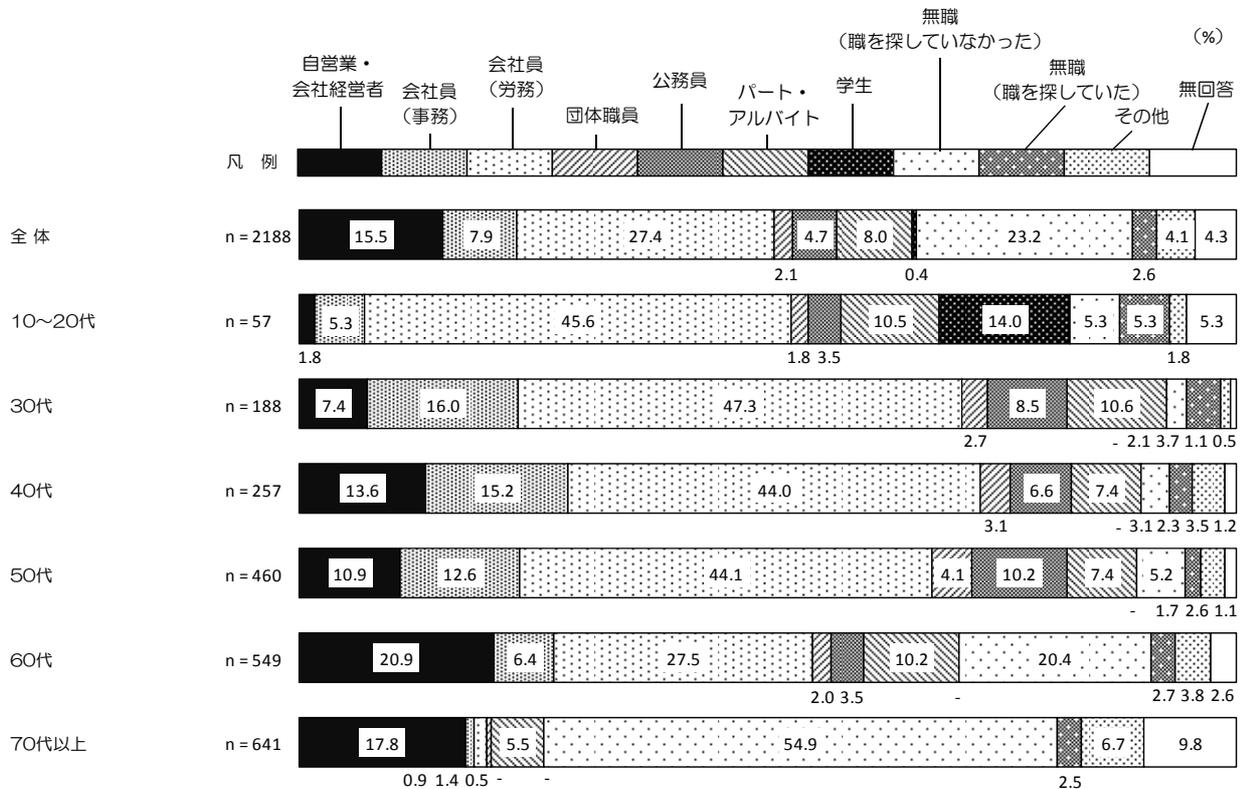
震災発生当時の職業について、「会社員（労務）」(27.4%)が最も高く、以降「無職（職を探していなかった）」(23.2%)、「自営業・会社経営者」(15.5%)となっている。

世帯主の年齢別にみると、10代~60代は「会社員（労務）」の割合が高い。一方、70代以上では「無職（職を探していなかった）」(54.9%)が、他の年齢層に比べ割合が高い。

<図表3-1-3-1 震災発生当時の職業>



<図表3-1-3-2 震災発生当時の職業（世帯主の年齢別）>



(2) 震災発生当時の業種

問4 震災発生当時のあなたの職業を教えてください。当時、仕事に就いていた方は、業種及び就業先の所在自治体も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っていた場合には、主な収入源になっていたものを選択してください。

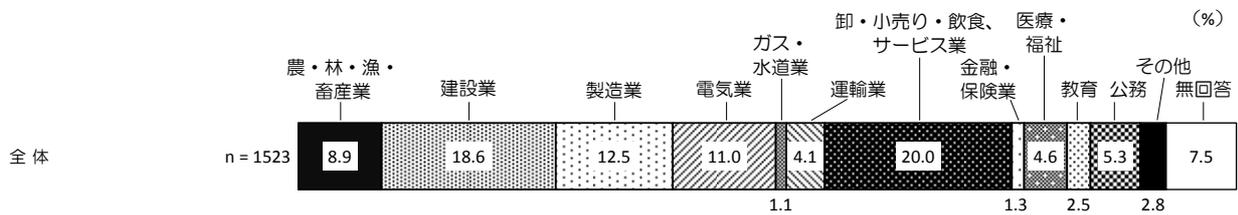
【就業していた方にうかがいます。】

(2) 業種 (〇は1つ)

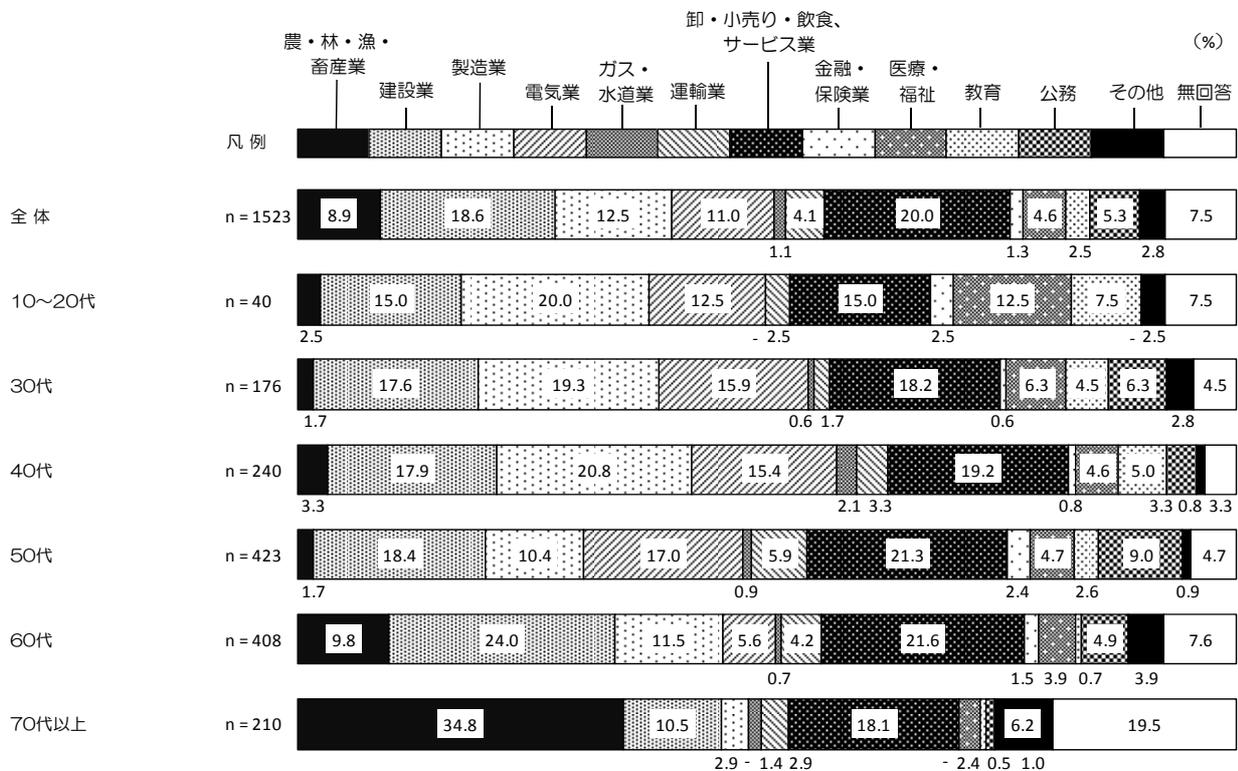
震災発生当時の業種について、「卸・小売り・飲食、サービス業」(20.0%)が最も高く、次いで「建設業」(18.6%)、「製造業」(12.5%)となっている。

世帯主の年齢別にみると、10代~40代は「製造業」の割合が最も高い。一方、70代以上は「農・林・漁・畜産業」(34.8%)の割合が高くなっている。

<図表3-1-3-3 震災発生当時の業種>



<図表3-1-3-4 震災発生当時の業種(世帯主の年齢別)>



III 調査結果

(3) 震災発生当時の就業先

問4 震災発生当時のあなたの職業を教えてください。当時、仕事に就いていた方は、業種及び就業先の所在自治体も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っていた場合には、主な収入源になっていたものを選択してください。

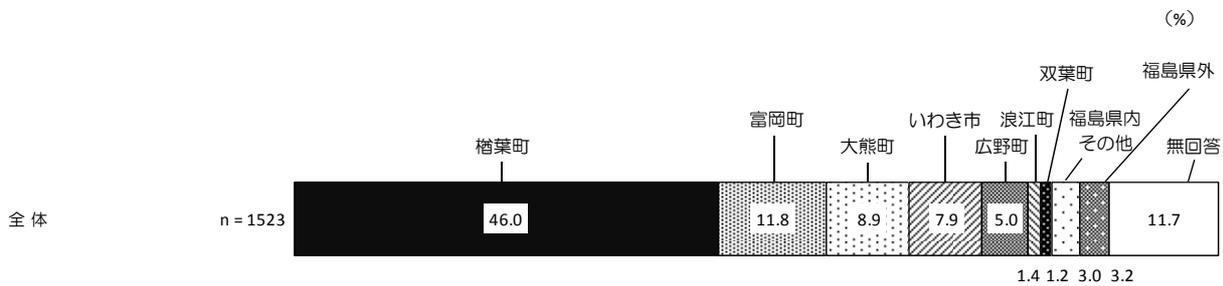
【就業していた方にうかがいます。】

(3) 就業先の所在自治体

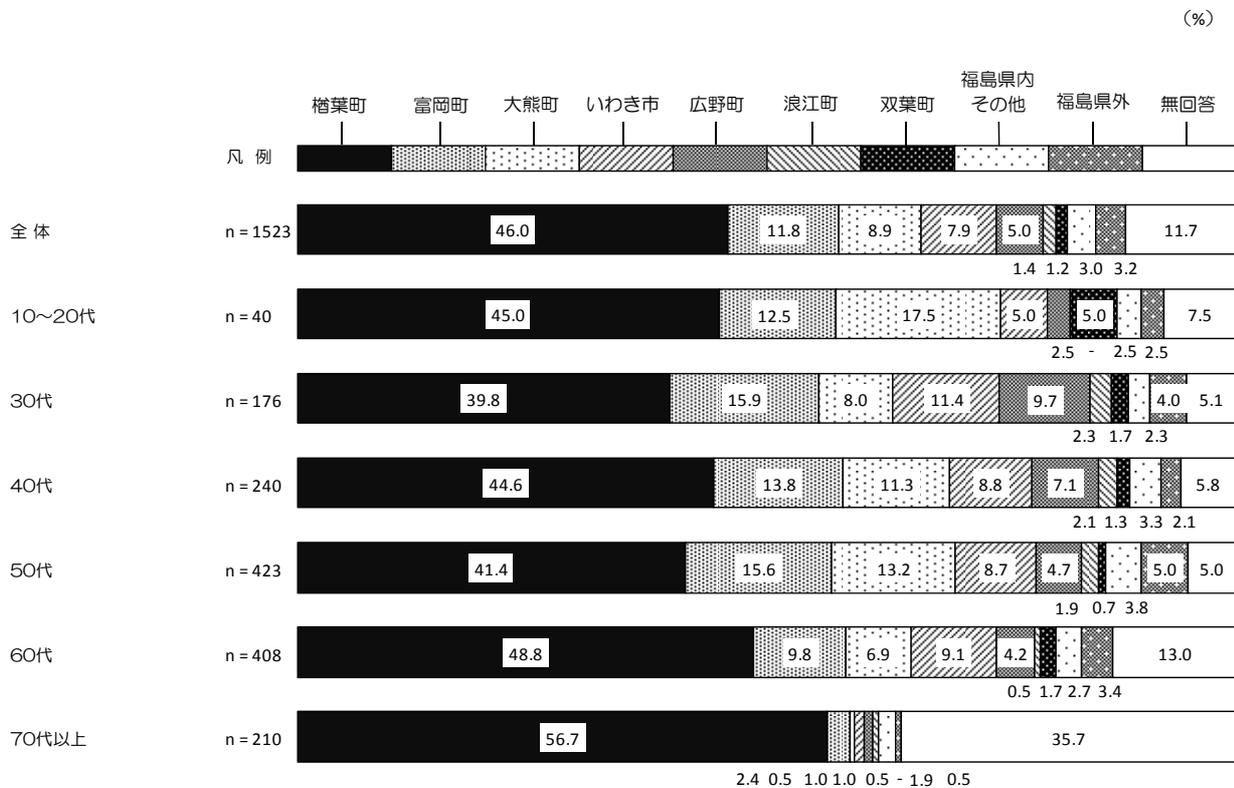
震災発生当時の就業先について、「楡葉町」(46.0%)が最も高く、次いで「富岡町」(11.8%)、「大熊町」(8.9%)となっている。

世帯主の年齢別にみると、「楡葉町」がいずれの年齢層でも最も高くなっており、50代以上は年齢が高くなるに従って割合も高くなっている。

＜図表3-1-3-5 震災発生当時の就業先＞



＜図表3-1-3-6 震災発生当時の就業先（世帯主の年齢別）＞



(4) 現在の職業（就業形態）

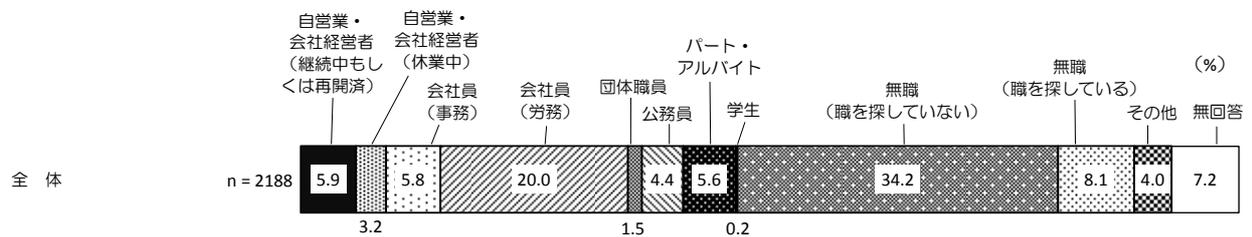
問 10 現在のあなたの職業を教えてください。現在、仕事に就いている方は、業種、就業先の所在自治体及び原子力発電所との関連性も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合には、主な収入源になっているものを選択してください。

(1) 職業（就業形態）(〇は1つ)

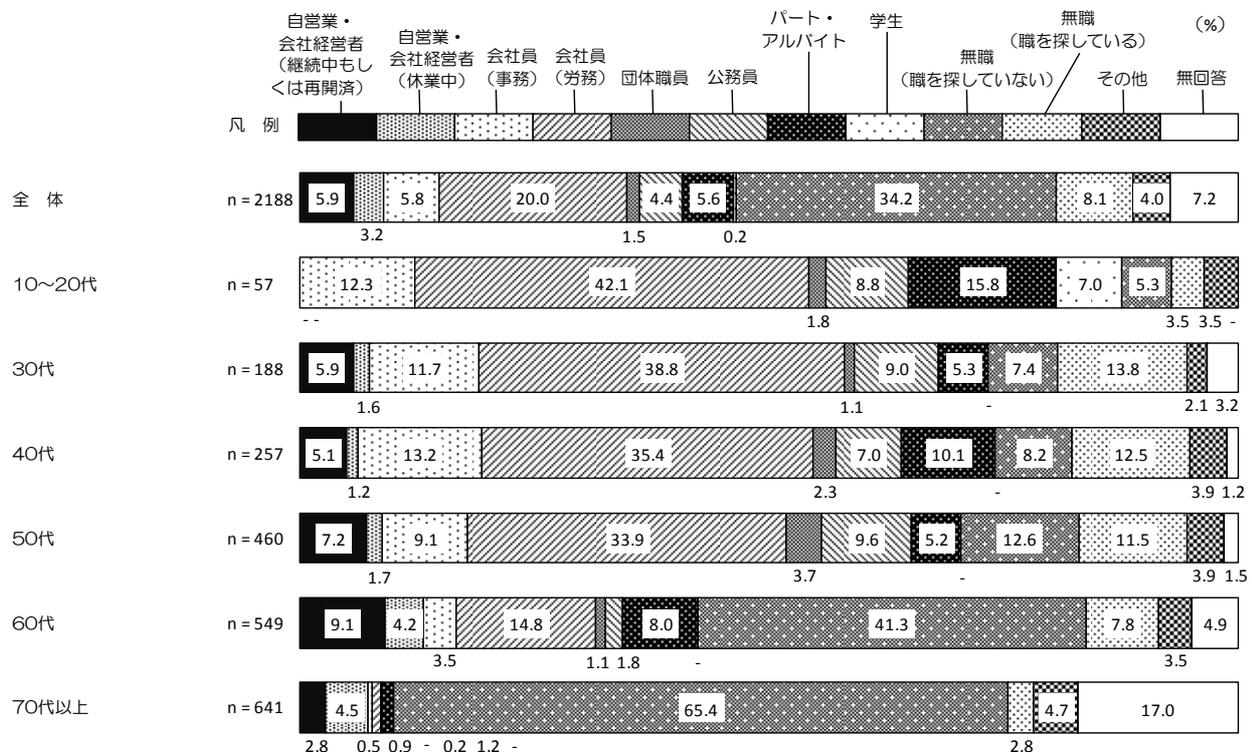
現在の職業について、「無職（職を探していない）」(34.2%)が最も高く、次いで「会社員（労務）」(20.0%)となっている。

世帯主の年齢別にみると、「無職（職を探していない）」と「無職（職を探している）」を合わせた無職は、30代で21.2%、40代で20.7%、50代で24.1%と2割程度となっている。

<図表3-1-3-7 現在の職業>



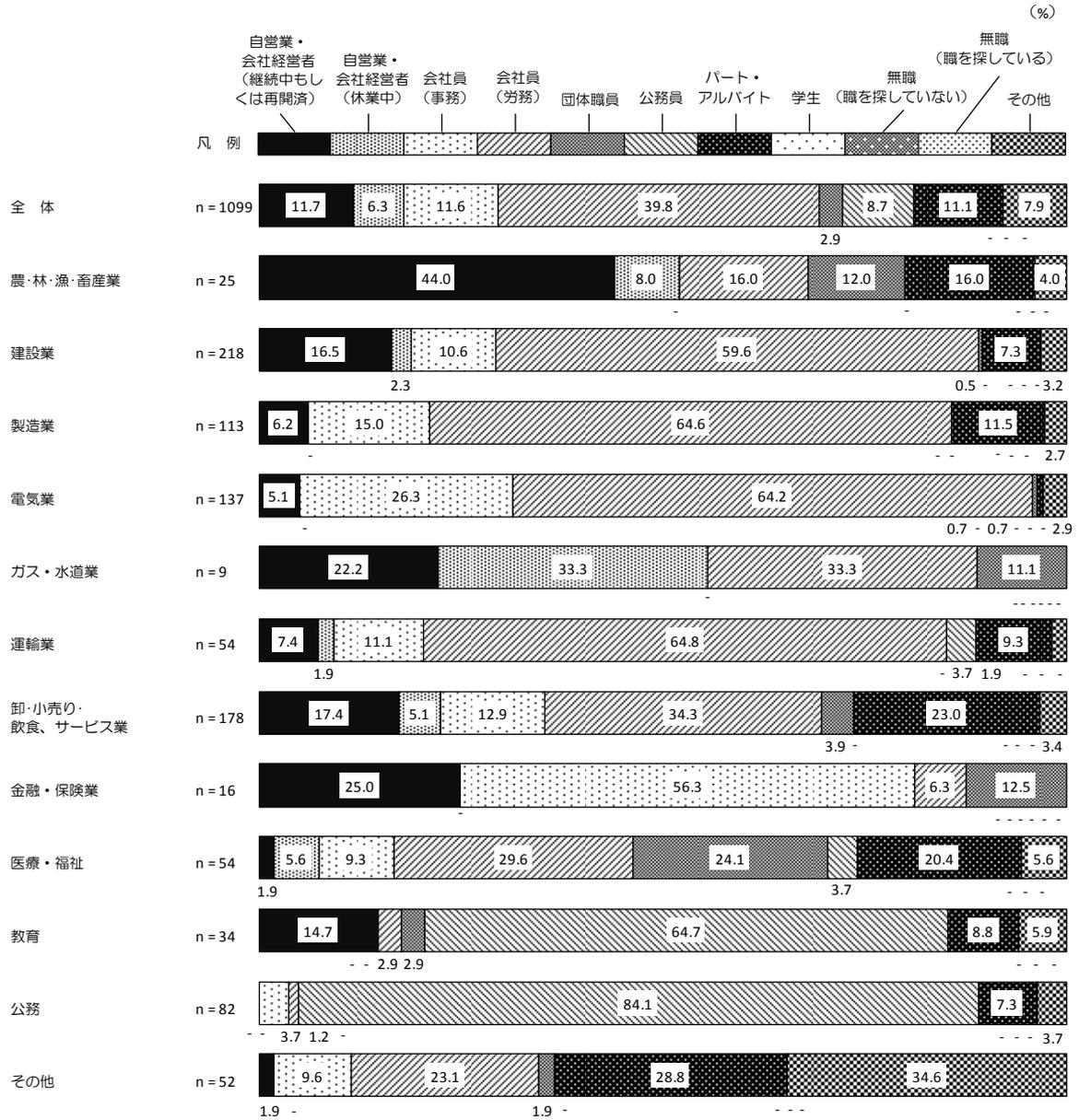
<図表3-1-3-8 現在の職業（世帯主の年齢別）>



III 調査結果

世帯主が就業しているとした世帯について、現在の業種別にみると、「会社員（労務）」は運輸業（64.8%）、製造業（64.6%）、電気業（64.2%）、建設業（59.6%）で他の業種と比べ高くなっている。

<図表3-1-3-9 現在の職業（現在の業種別）>



(5) 現在の業種

問 10 現在のあなたの職業を教えてください。現在、仕事に就いている方は、業種、就業先の所在自治体及び原子力発電所との関連性も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合には、主な収入源になっているものを選択してください。

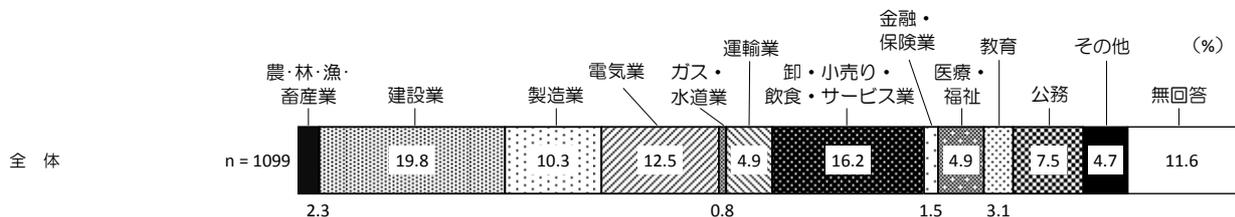
【就業している方にうかがいます。】

(2) 業種 (〇は1つ)

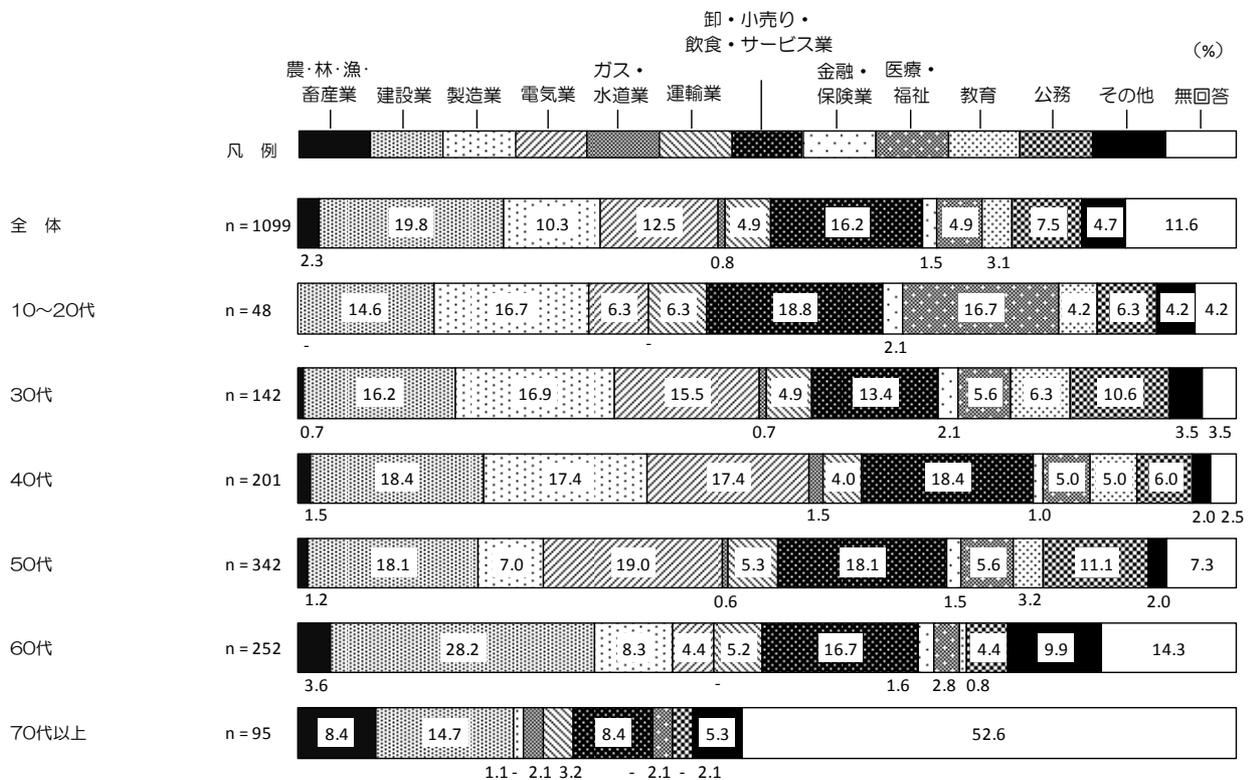
現在の業種について、「建設業」(19.8%)が最も高く、以降「卸・小売り・飲食・サービス業」(16.2%)、「電気業」(12.5%)と続いている。

世帯主の年齢別にみると、「建設業」は、60代までは年齢が高くなるに従って割合も概ね高くなっていく。製造業は50代、60代で1割を下回っている。

<図表3-1-3-10 現在の業種>



<図表3-1-3-11 現在の業種(世帯主の年齢別)>



III 調査結果

(6) 現在の就業先

問 10 現在のあなたの職業を教えてください。現在、仕事に就いている方は、業種、就業先の所在自治体及び原子力発電所との関連性も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合には、主な収入源になっているものを選択してください。

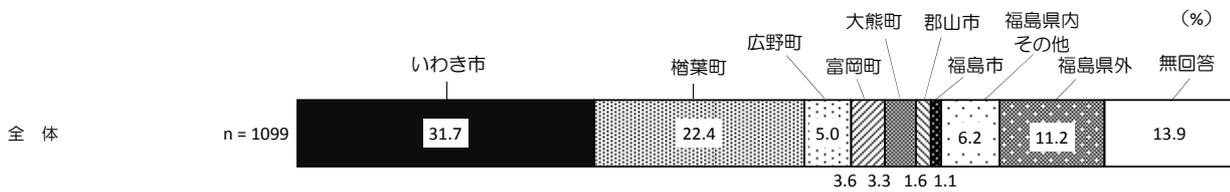
【就業している方にうかがいます。】

(3) 就業先の所在自治体

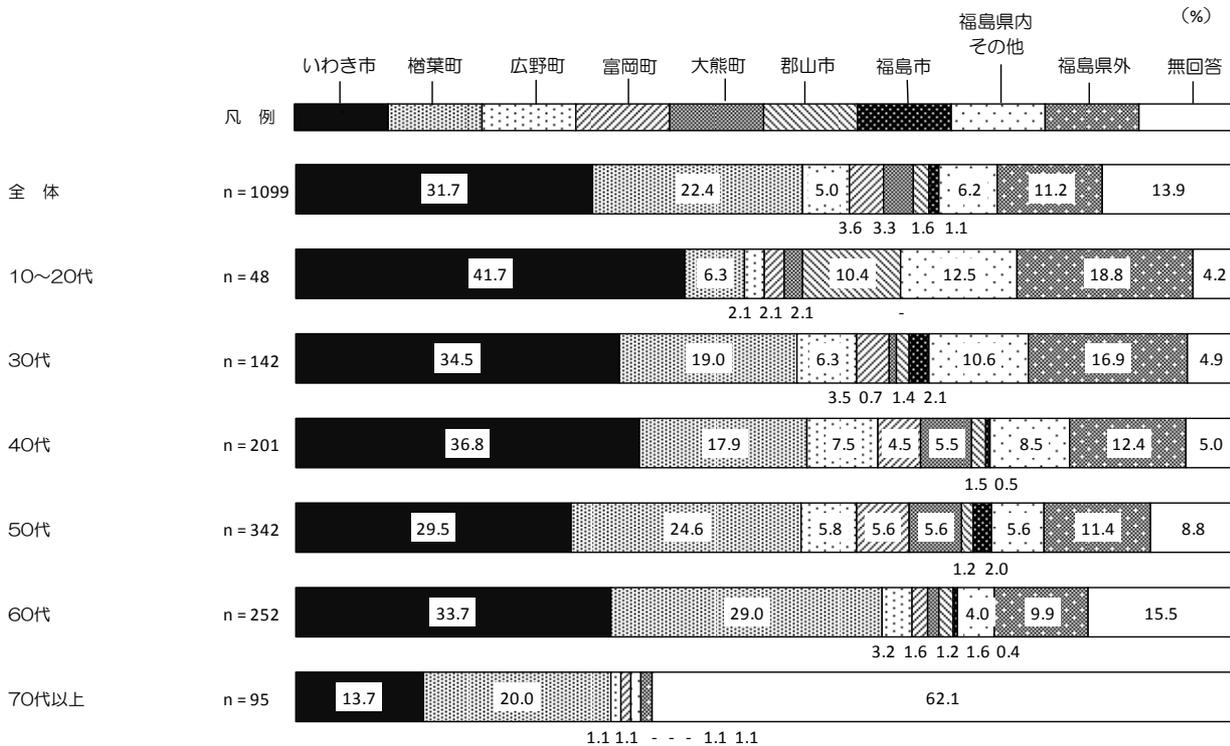
世帯主が就業しているとした世帯の就業先自治体については、「いわき市」(31.7%)が最も高く、次いで「檜葉町」(22.4%)となっている。

世帯主の年齢別にみると、30代以上は「檜葉町」の割合が2~3割前後となっている。一方、10~20代では「檜葉町」の割合が他の年齢層に比べ割合が低く、1割を下回っている。

<図表3-1-3-1 2 現在の就業先>

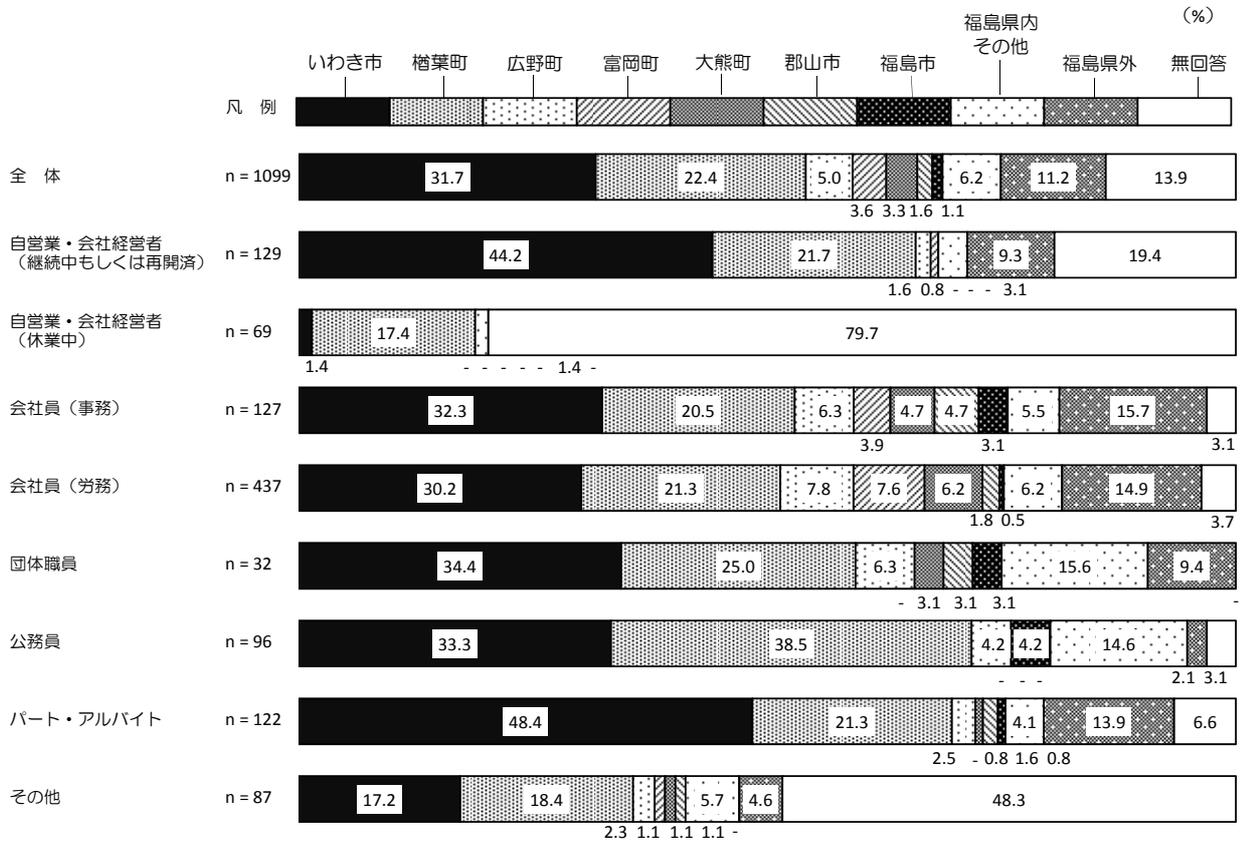


<図表3-1-3-1 3 現在の就業先(世帯主の年齢別)>



世帯主が就業しているとした世帯について、現在の職業別にみると、パート・アルバイトの方は、「いわき市」(48.4%)が他の職業に比べ割合が高い。

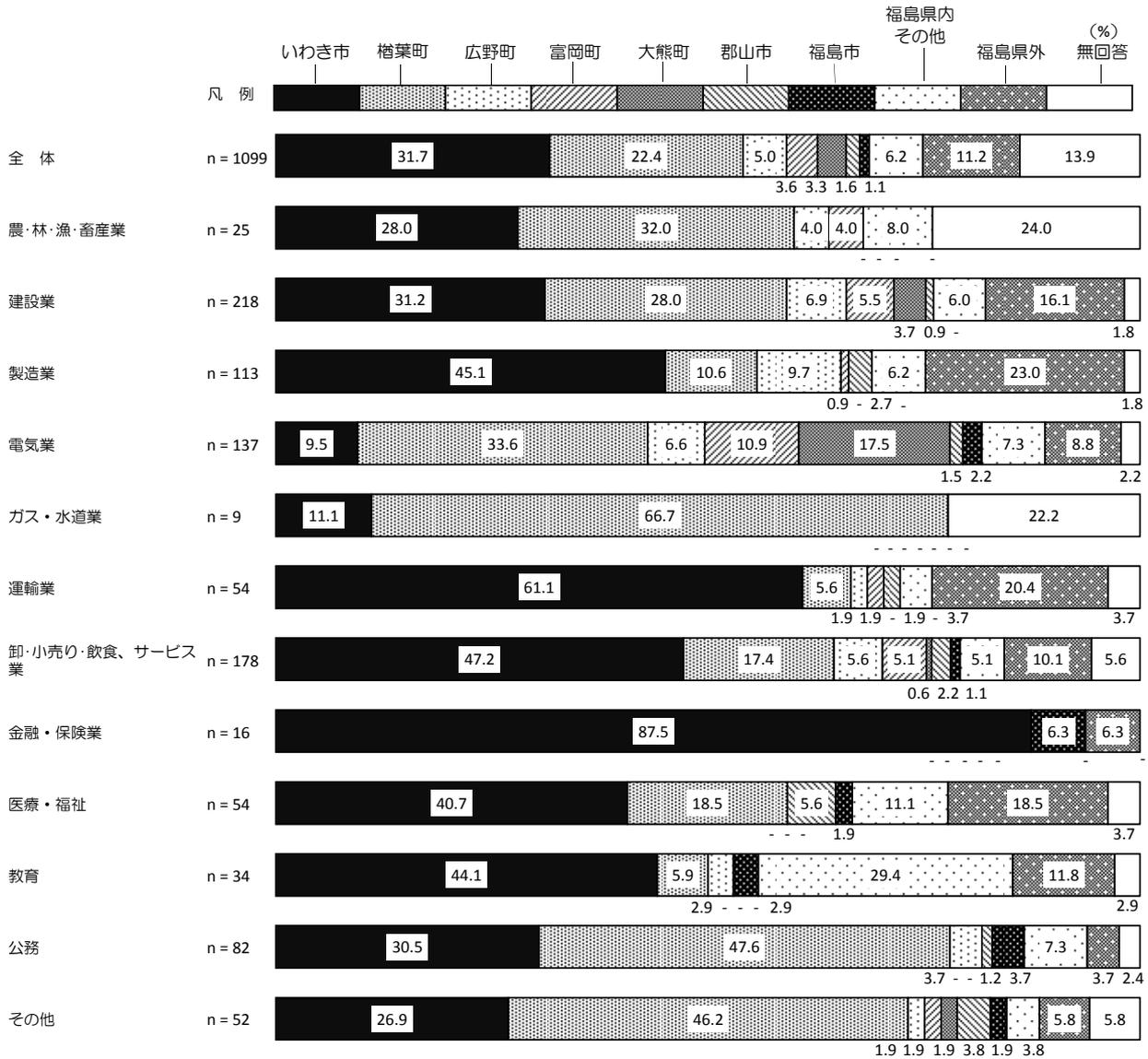
＜図表3-1-3-1 4 現在の就業先（現在の職業別）＞



III 調査結果

世帯主が就業しているとした世帯について、現在の業種別にみると、「運輸業」「金融・保険業」はいわき市が多く、「農・林・漁・畜産業」「電気業」は楢葉町の割合が高くなっている。

<図表3-1-3-15 現在の就業先（現在の業種別）>



(7) 職業と原子力発電所との関連

問 10 現在のあなたの職業を教えてください。現在、仕事に就いている方は、業種、就業先の所在自治体及び原子力発電所との関連性も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合には、主な収入源になっているものを選択してください。

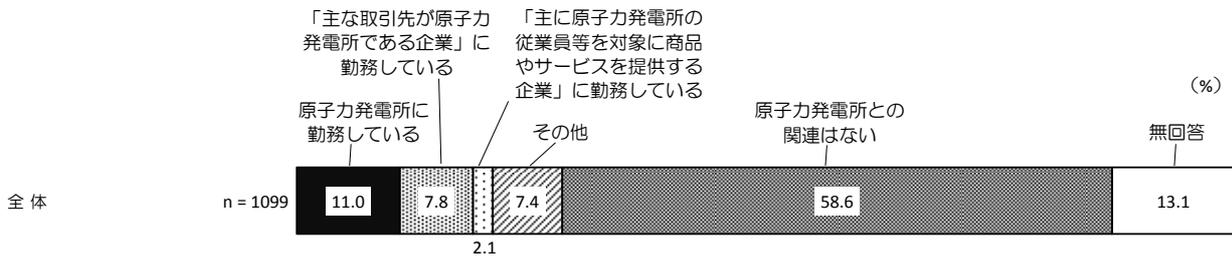
【就業している方にうかがいます。】

(4) 現在の職業は、原子力発電所に関連していますか。(○は1つ)

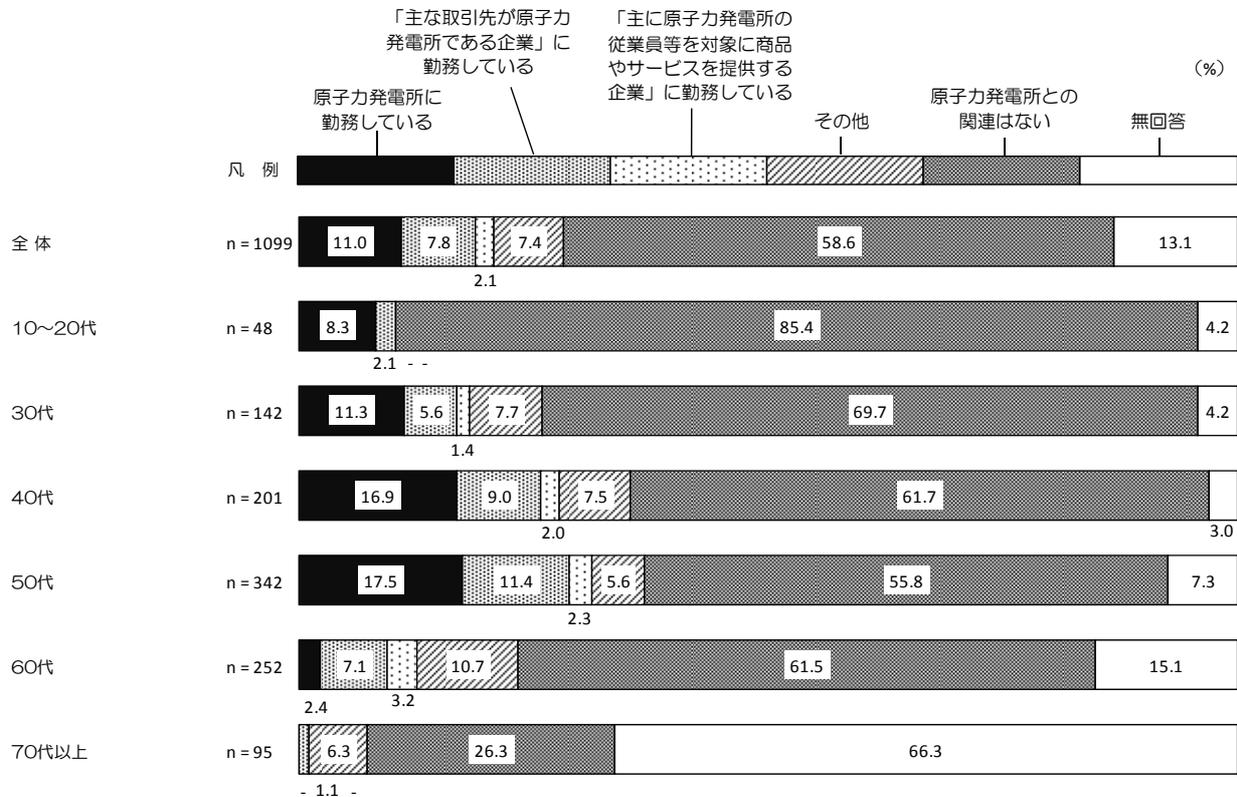
現在の職業について、「原子力発電所との関連はない」方が6割弱である。

世帯主の年齢別にみると、40代、50代で「原子力発電所に勤務している」が16.9%、17.5%と他の年齢と比べやや高い。

<図表3-1-3-16 職業と原子力発電所との関連>

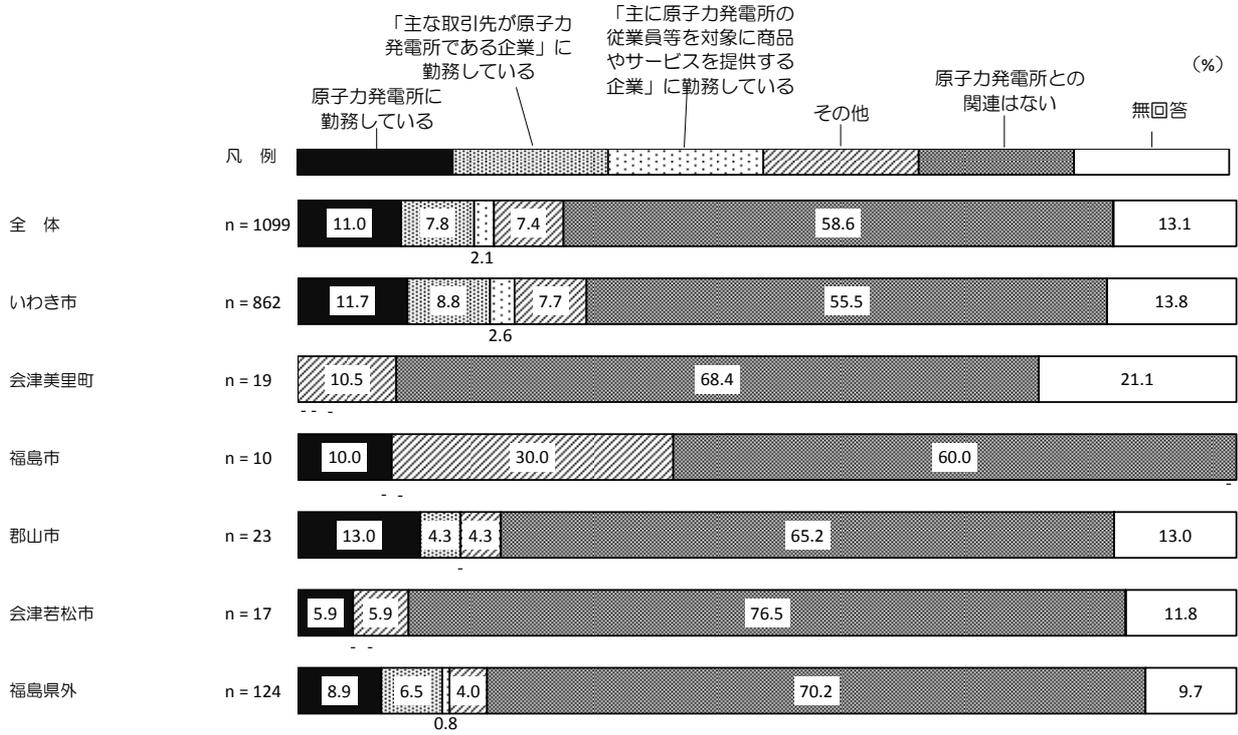


<図表3-1-3-17 職業と原子力発電所との関連（世帯主の年齢別）>



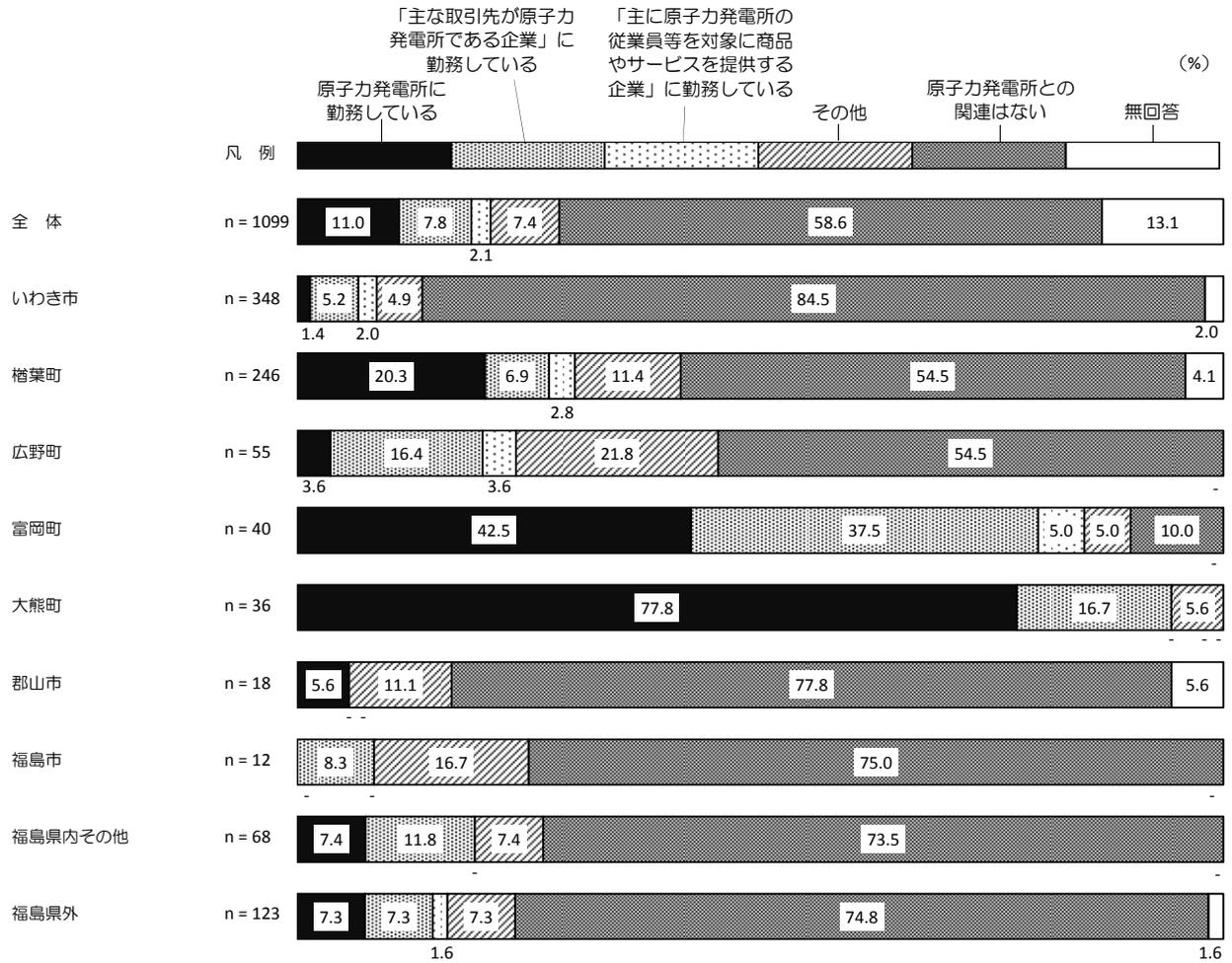
避難先自治体別では、どの自治体においても「原子力発電所との関連はない」が最も高い。

<図表3-1-3-18 職業と原子力発電所との関連（主な避難先自治体別）>



現在の就業先別では、「原子力発電所との関連はない」がいわき市 84.5%、楡葉町 54.5%となっている。一方で「原子力発電所に勤務している」が大熊町 77.8%、富岡町 42.5%と高い。

<図表3-1-3-19 職業と原子力発電所との関連（現在の就業先別）>



Ⅲ 調査結果

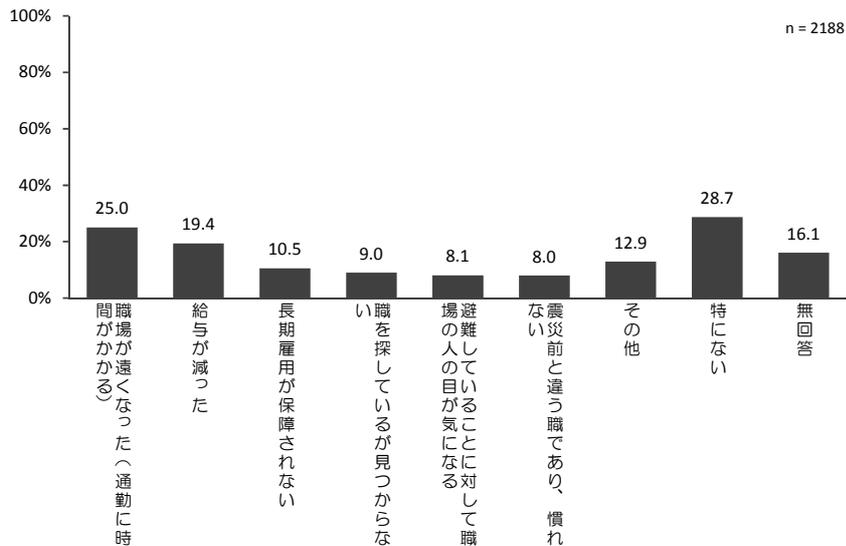
(8) 就労に対する不安

問 11 就労について、現在困っていることや不安なことはありますか。あてはまるものをすべて選んでください。
(○はいくつでも)

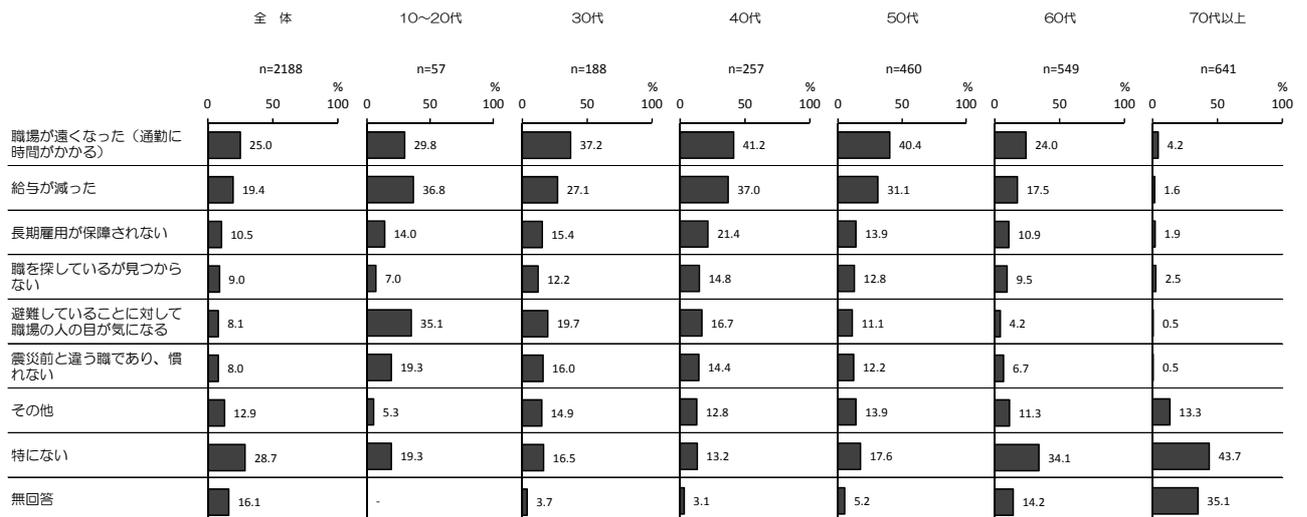
就労について現在困っていることや不安なことは、「職場が遠くなった（通勤に時間がかかる）」が25.0%で最も高く、次いで「給与が減った」（19.4%）、「長期雇用が保障されない」（10.5%）となっている。

世帯主の年齢別にみると、30代～50代で「職場が遠くなった（通勤に時間がかかる）」が最も高く3割以上であるが、10～20代では「給与が減った」（36.8%）が最も高くなっている。

<図表3-1-3-20 就労に対する不安>

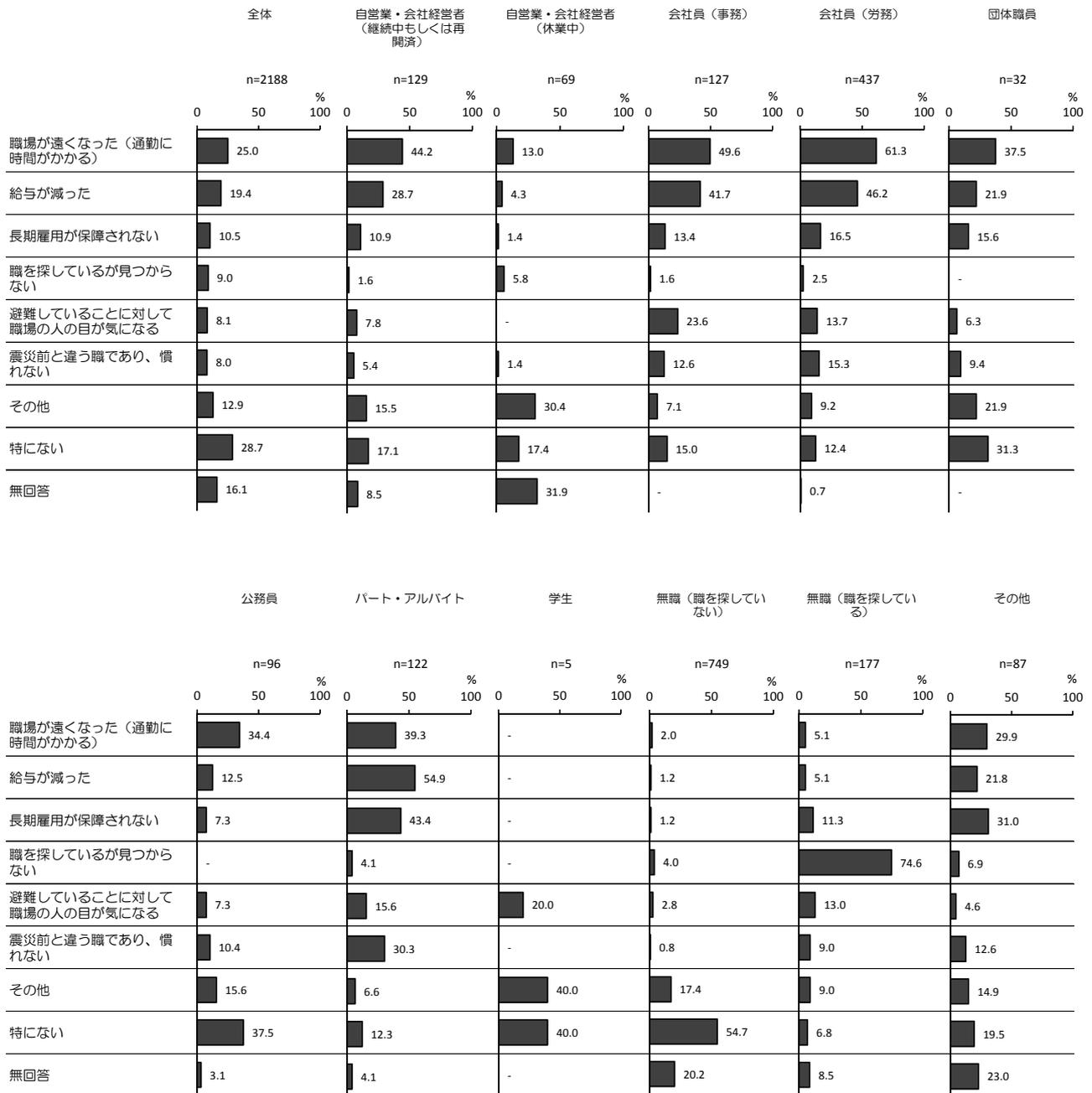


<図表3-1-3-21 就労に対する不安（世帯主の年齢別）>



現在の職業別では、「給与が減った」は会社員（事務）が 41.7%、会社員（労務）が 46.2%、パート・アルバイトが 54.9%で他の職業と比べ高くなっている。

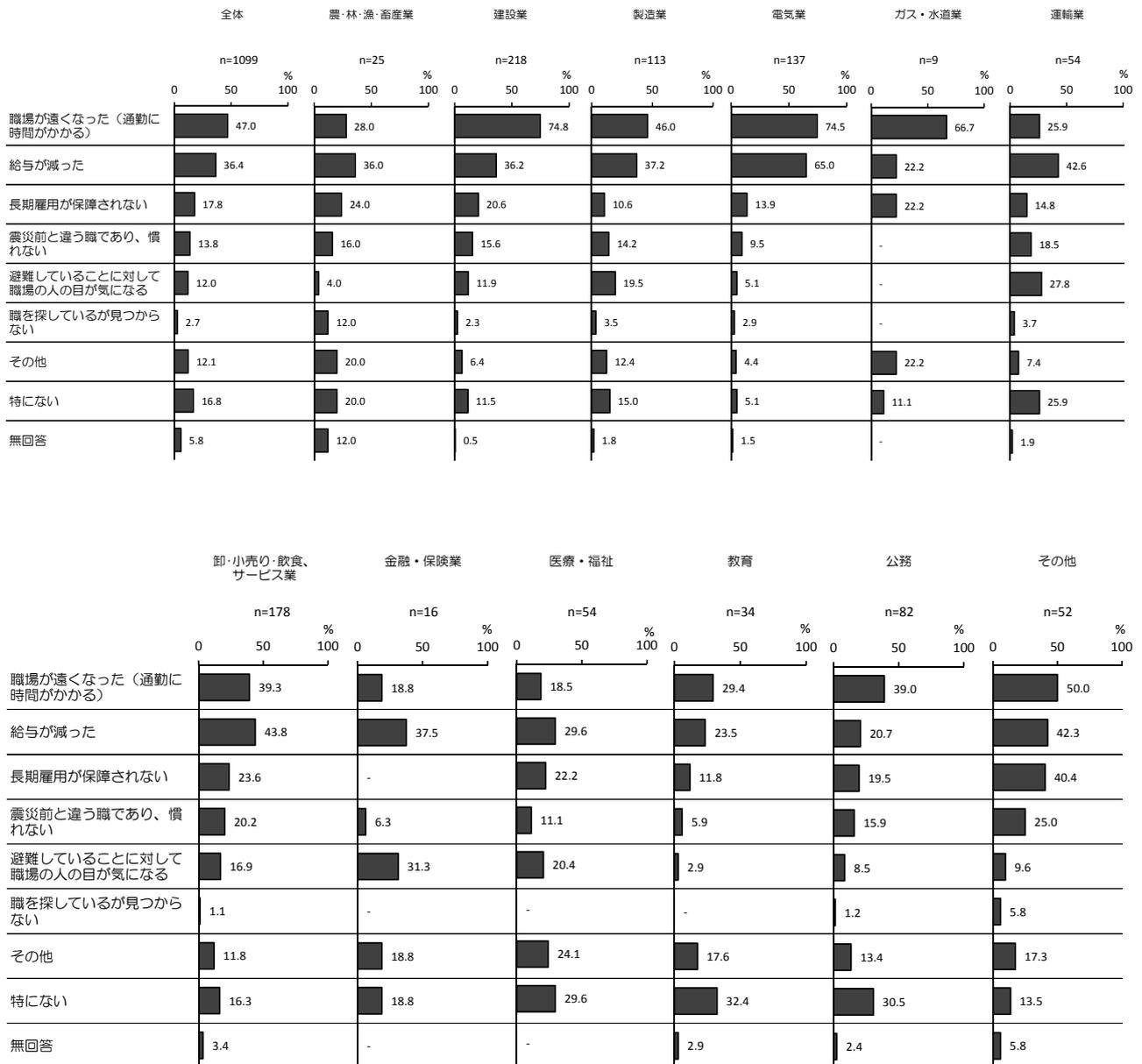
<図表3-1-3-2 2 就労に対する不安（現在の職業別）>



Ⅲ 調査結果

現在の業種別では、概ねどの業種でも「職場が遠くなった（通勤に時間がかかる）」の割合が高い。

<図表3-1-3-23 就労に対する不安（現在の業種別）>



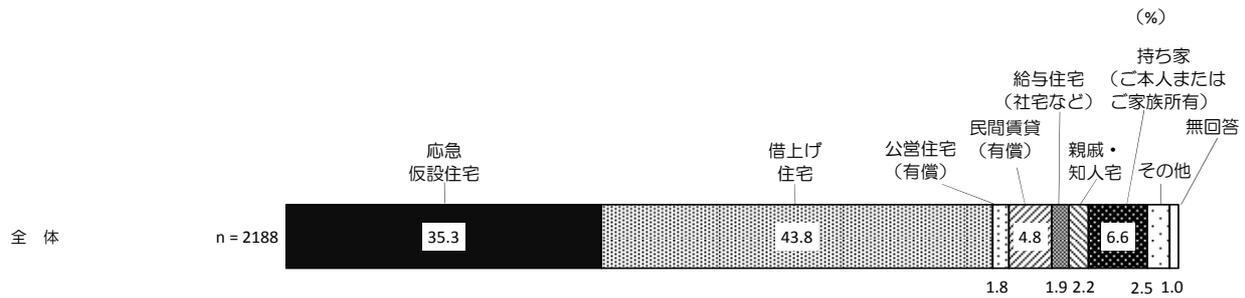
3-1-4 現在の住居形態

問9 現在お住まいになっている住宅はどのような住居形態ですか。(〇は1つ)

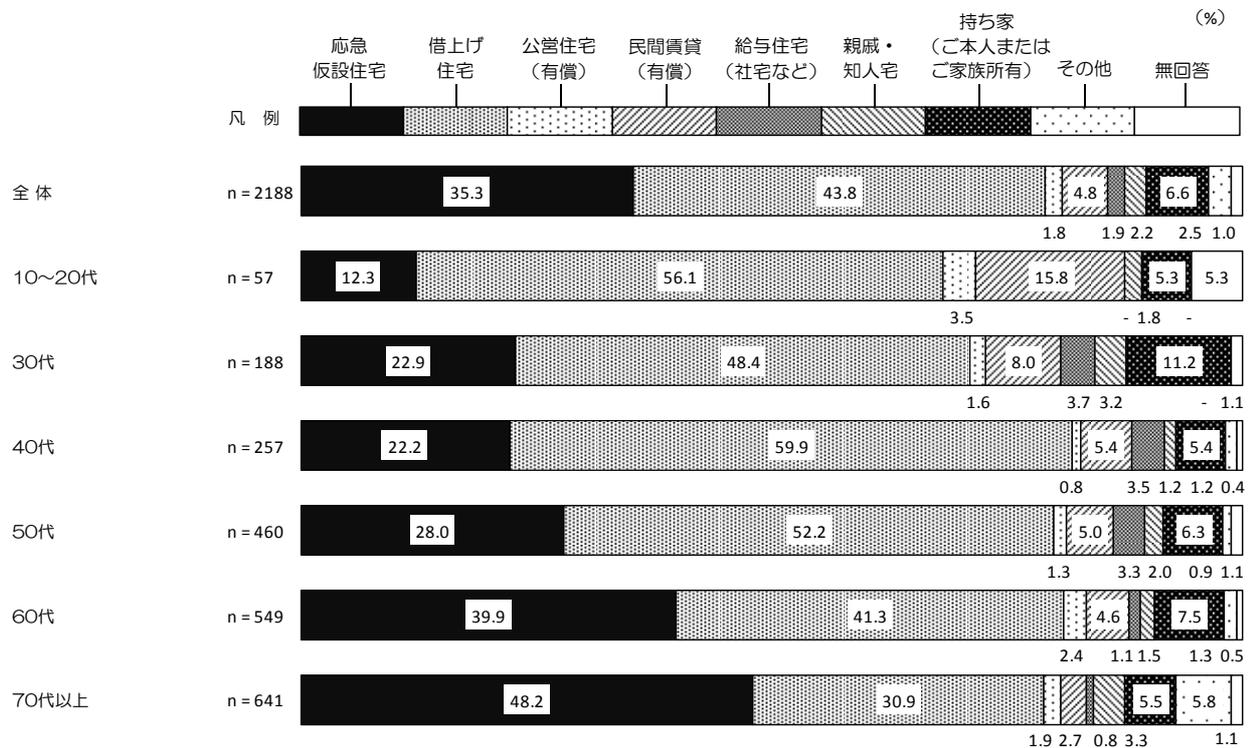
現在の住居形態について、「応急仮設住宅」(35.3%)と「借上げ住宅」(43.8%)で全体の約8割程度を占める。

世帯主の年齢別にみると、「応急仮設住宅」は年齢が高くなるに従い割合が高くなる。また、60代までは「借上げ住宅」の割合が最も高いが、70代以上では「応急仮設住宅」(48.2%)の割合が最も高くなる。

<図表3-1-4-1 現在の住居形態>

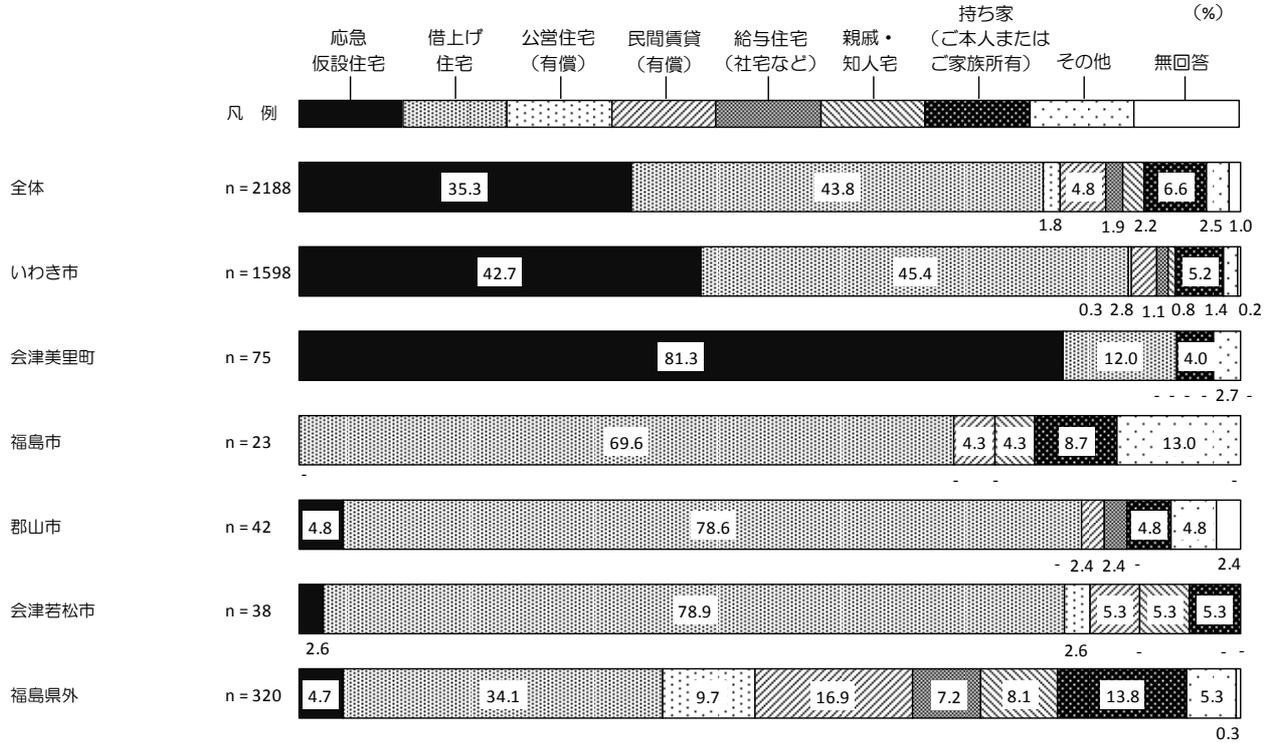


<図表3-1-4-2 現在の住居形態(世帯主の年齢別)>



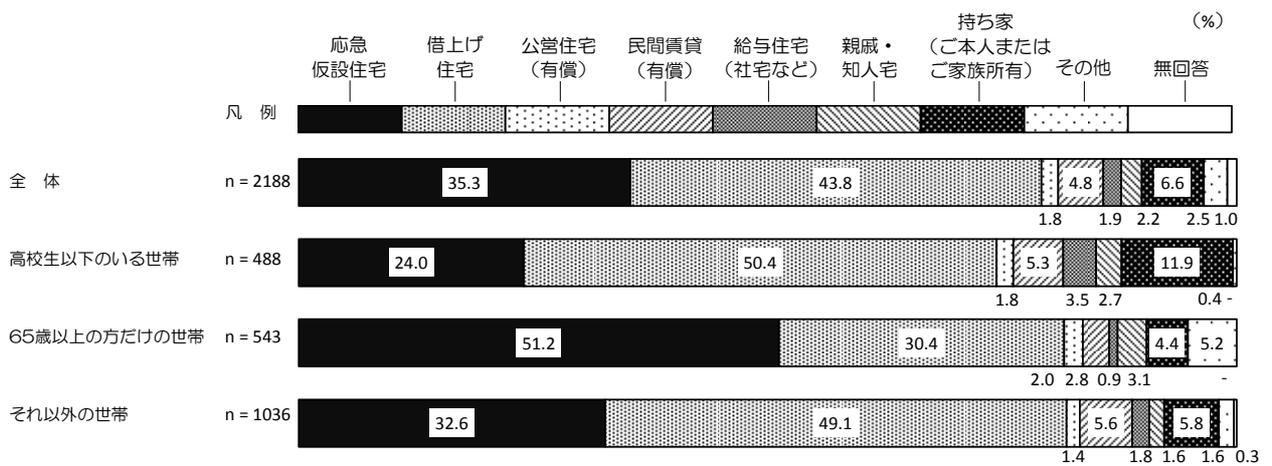
避難先自治体別では、会津美里町で「応急仮設住宅」(81.3%) が特に高くなっている。

<図表3-1-4-3 現在の住居形態(主な避難先自治体別)>



現在の世帯構成別では、高校生以下のいる世帯では「借り上げ住宅」(50.4%)、65歳以上の方だけの世帯では「応急仮設住宅」(51.2%) が最も高い。

<図表3-1-4-4 現在の住居形態(現在の世帯構成別)>



3-2 震災発生当時の住宅の状況

3-2-1 震災発生当時の住宅の状況

問 19 震災発生当時にお住まいだった住宅は、どのような形態でしたか。(〇は1つ)

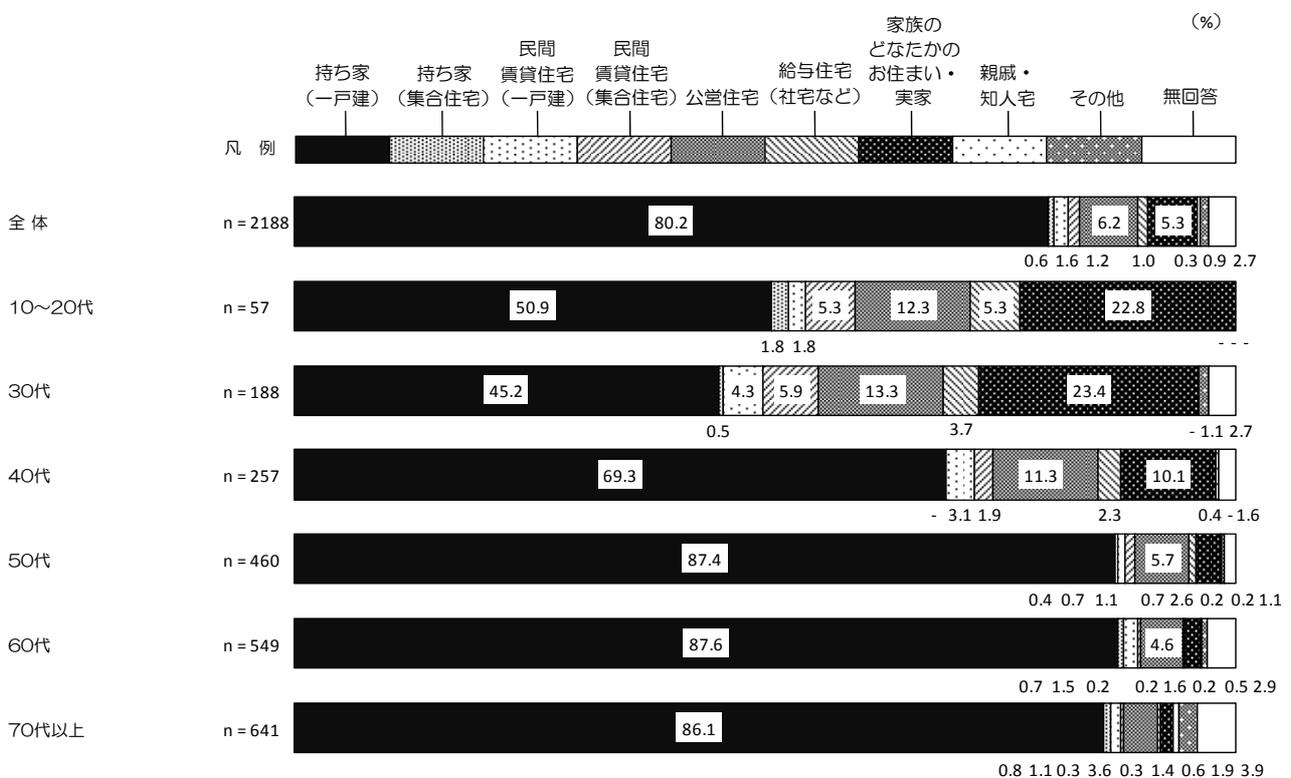
震災発生当時の住居形態については、「持ち家（一戸建）」が80.2%と最も高くなっている。

世帯主の年齢別にみると、「持ち家（一戸建）」は年齢が高くなるに従い割合も高くなり、50代以上では8割を超えている。一方、「家族のどなたかのお住まい・実家」は10~30代では2割強となっている。

<図表3-2-1-1 震災発生当時の住居形態>



<図表3-2-1-2 震災発生当時の住居形態（世帯主の年齢別）>



3-2-2 震災発生当時の住宅の現況

【問 19 で「1.持ち家（一戸建）」「2.持ち家（集合住宅）」と回答した方にかがいます。】

問 20 震災発生当時にお住まいだった持ち家（自宅）は、現在どのような状況ですか。（○は 1 つ）

震災発生当時の住宅の現在の状況は、「修理すれば住める状況」が 65.1%と最も高く、次いで「解体をせざるを得ないほどの被害、劣化等がみられる」（17.4%）となっている。

<図表 3-2-2-1 震災発生当時の住宅の状況>



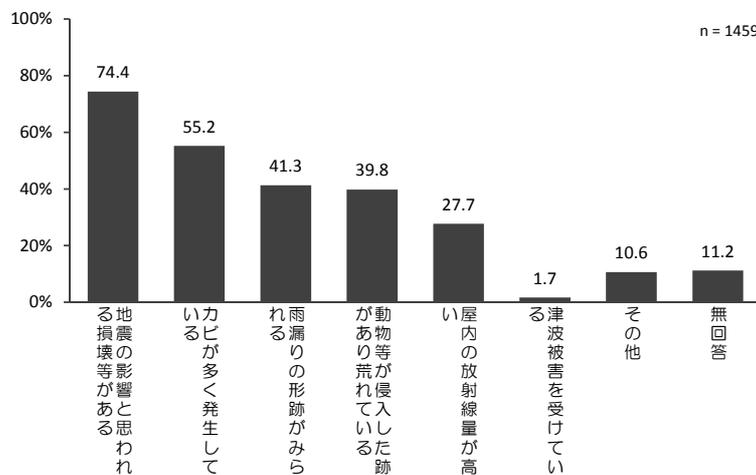
3-2-3 震災発生当時の住宅の具体的な被害内容

【問 21 は、問 20 で「1.解体をせざるを得ないほどの被害、劣化等がみられる」「2.修理すれば住める状況」と回答した方にかがいます。】

問 21 (1) 震災発生当時にお住まいだった持ち家（自宅）は、現在具体的にどのような被害や劣化等がありますか。あてはまるものをすべて選んでください。（○はいくつでも）

震災発生時の住宅の具体的な被害内容は、「地震の影響と思われる損壊等がある」（74.4%）が最も高く、次いで「カビが多く発生している」（55.2%）、「雨漏りの形跡がみられる」（41.3%）、「動物等が侵入した跡があり荒れている」（39.8%）、「屋内の放射線量が高い」（27.7%）となっている

<図表 3-2-3-1 震災発生当時の住宅の具体的な被害内容>

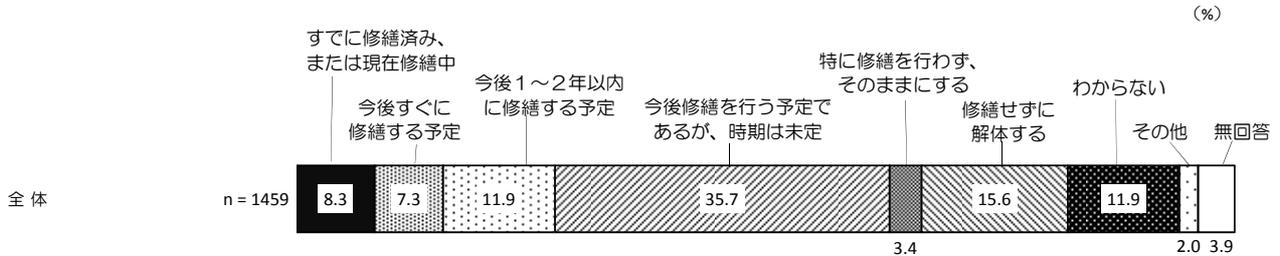


3-2-4 震災発生当時の持ち家の今後の予定

問 21 (2) 震災発生当時にお住まいだった持ち家（自宅）は、今後どのようにされる予定ですか。（〇は1つ）

震災発生当時の持ち家（自宅）の今後の予定としては、「今後修繕を行う予定であるが、時期は未定」が35.7%で最も高い。

＜図表3-2-4-1 震災発生当時の持ち家（自宅）の今後予定＞



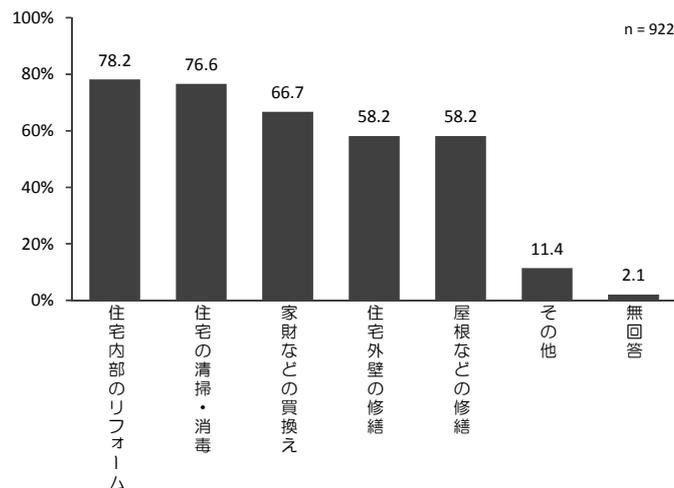
3-2-5 震災当時の持ち家の修繕方法

【問 21 (2)で、「1」～「4」のいずれかを回答した方にうかがいます。】

問 21 (3) 震災発生当時にお住まいだった持ち家（自宅）に対して、どのような修繕などを行いますか（行いましたか）。あてはまるものをすべて選んでください。（〇はいくつでも）

震災発生当時の住宅の修繕方法は、「住宅内部のリフォーム」が78.2%、「住宅の清掃・消毒」が76.6%となっている。

＜図表3-2-5-1 震災発生当時の持ち家の修繕方法＞



3-3 将来の意向

3-3-1 今後の職業についての意向

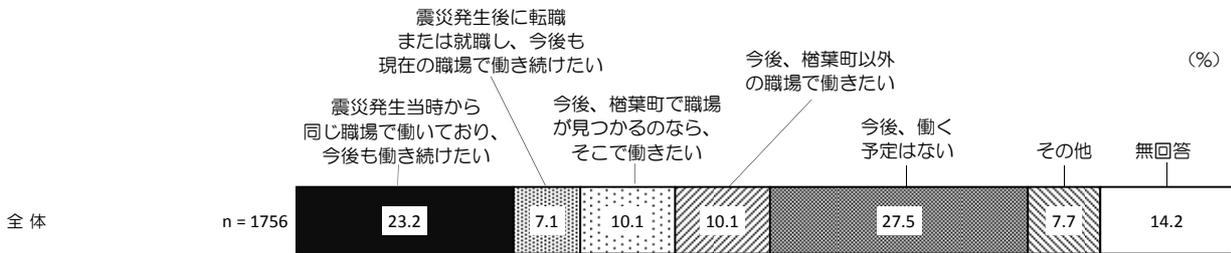
問 12 今後の職業について、どのようにお考えですか。(〇は1つ)

(1) 震災時の職業が自営業・会社経営者以外

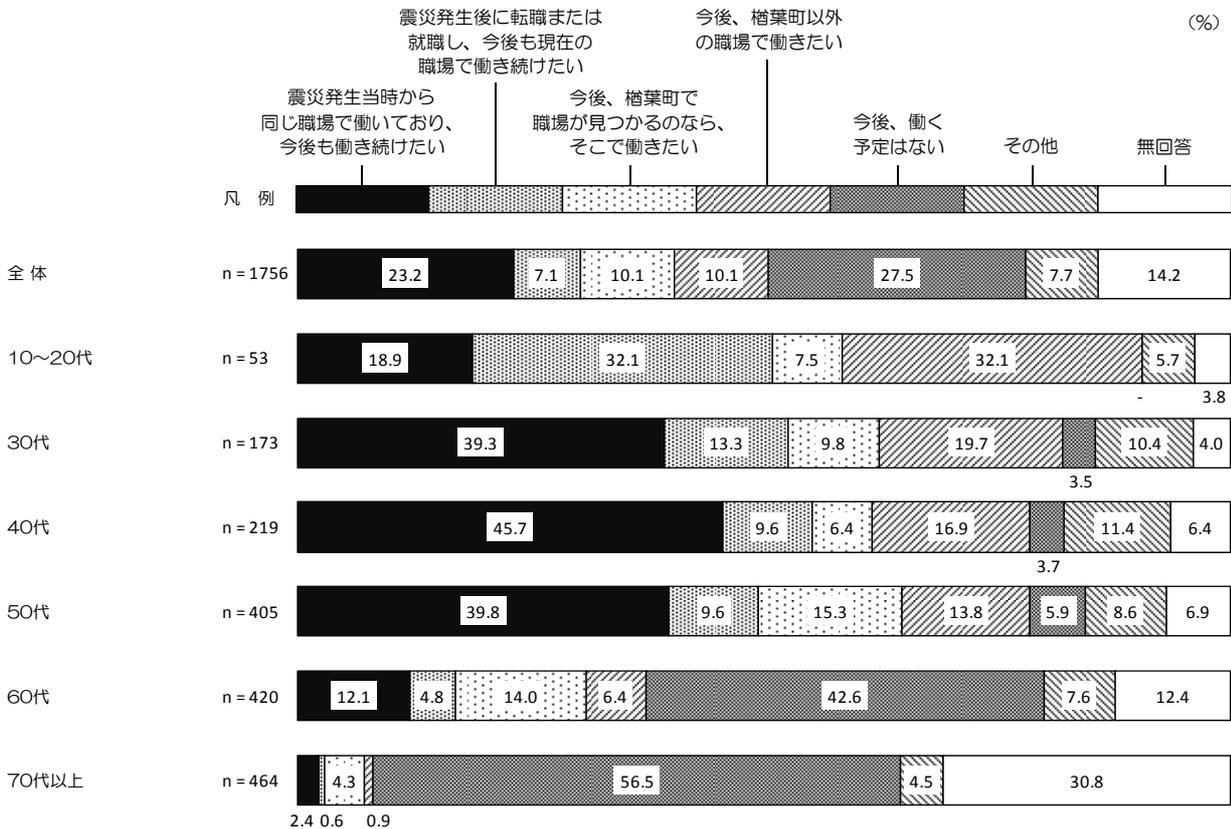
震災発生当時の職業が自営業・会社経営者以外だった人の今後の職業についての意向は、「今後、働く予定はない」(27.5%)が最も高く、次いで「震災発生当時と同じ職場で働いており、今後も働き続けたい」(23.2%)となっている。

世帯主の年齢別にみると、30代~50代は「震災発生当時と同じ職場で働いており、今後も働き続けたい」が高くなっている。

<図表3-3-1-1 今後の職業の意向(自営業・会社経営者以外)>

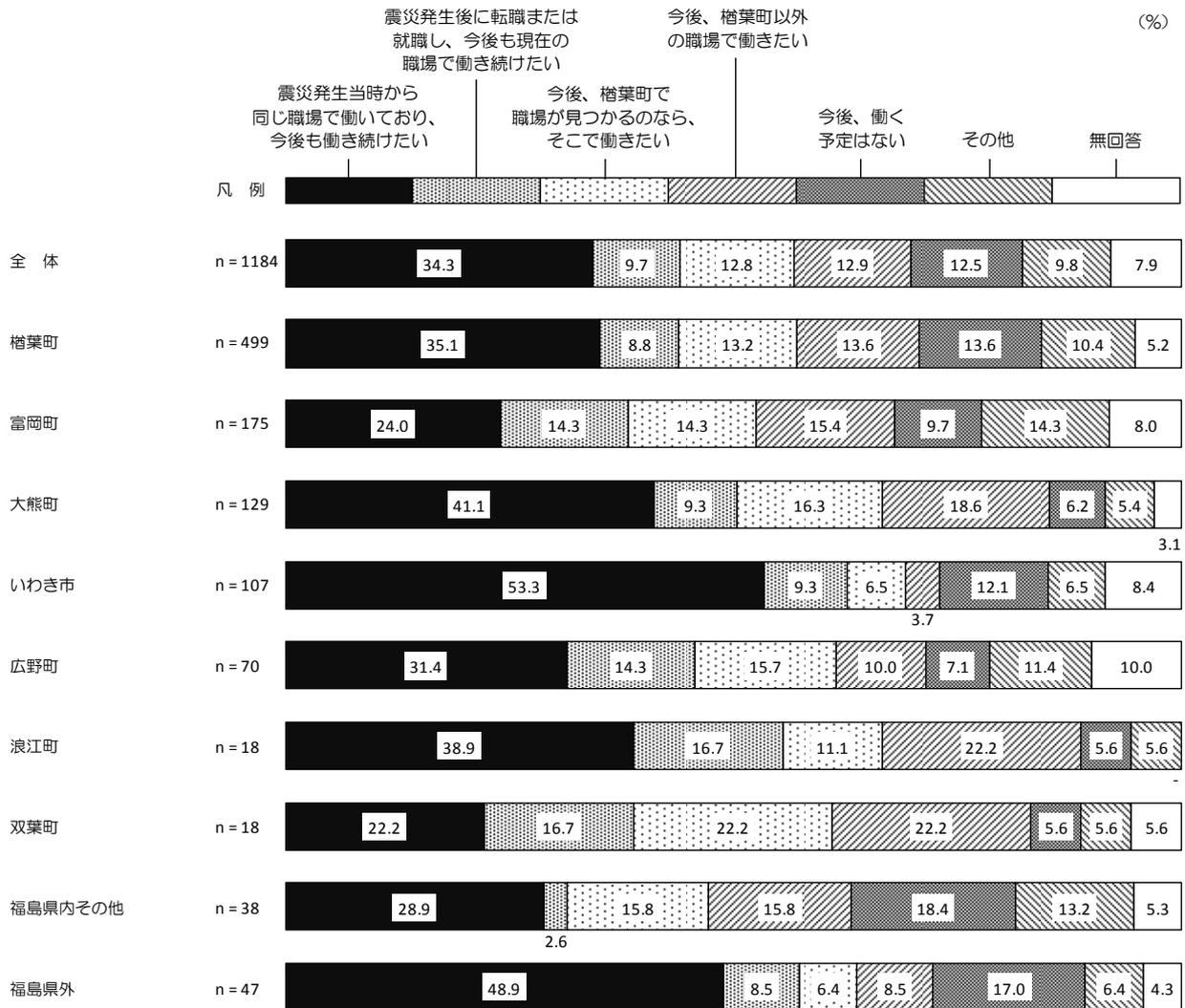


<図表3-3-1-2 今後の職業の意向(自営業・会社経営者以外)(世帯主の年齢別)>



震災当時の就業先の所在自治体別にみると、「震災発生当時から同じ職場で働いており、今後も働き続けたい」はいずれの就業先自治体でも最も高くなっているが、いわき市では53.3%と特に高くなっている。

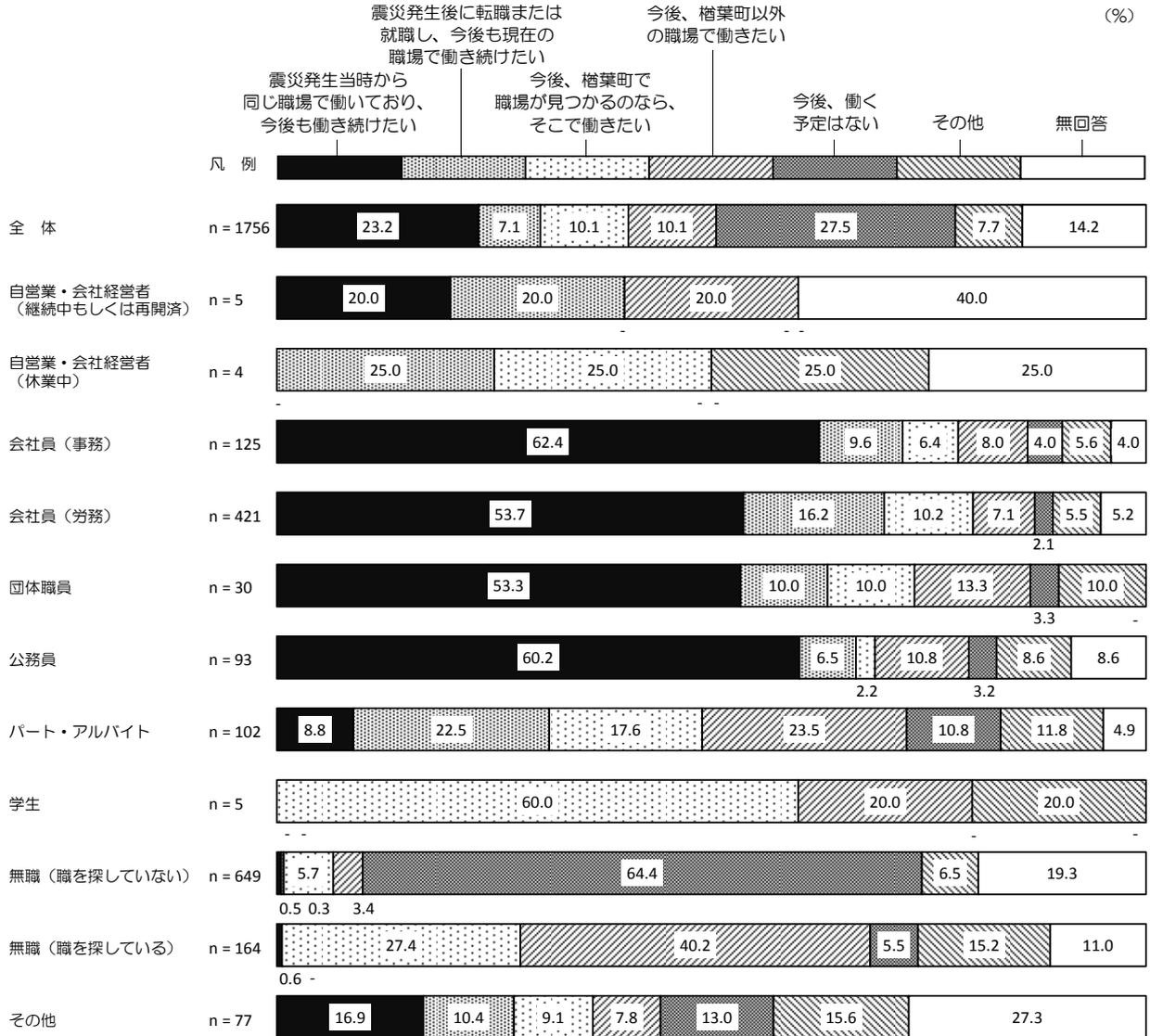
<図表3-3-1-3 今後の職業の意向（自営業・会社経営者以外）（震災当時の就業先別）>



III 調査結果

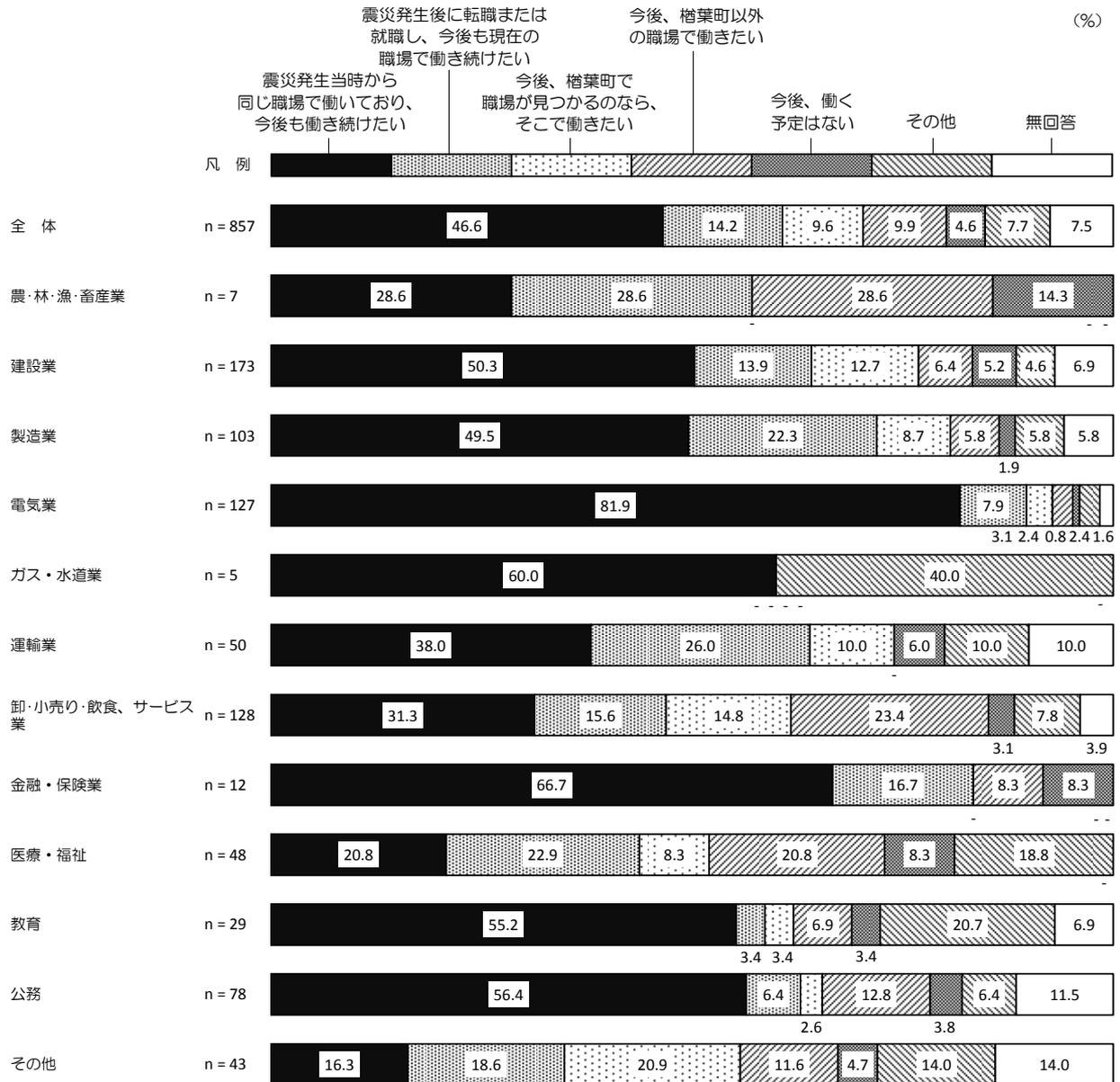
現在の職業別にみると、会社員、団体職員、公務員の方は「震災発生当時から同じ職場で働いており、今後も働き続けたい」が5割以上であり、他の職業と比べ高くなっている。

＜図表3-3-1-4 今後の職業の意向（自営業・会社経営者以外）（現在の職業別）＞



現在の業種別にみると、「震災発生当時から同じ職場で働いており、今後も働き続けたい」は医療・福祉とその他を除いたいずれの業種も最も高くなっている。

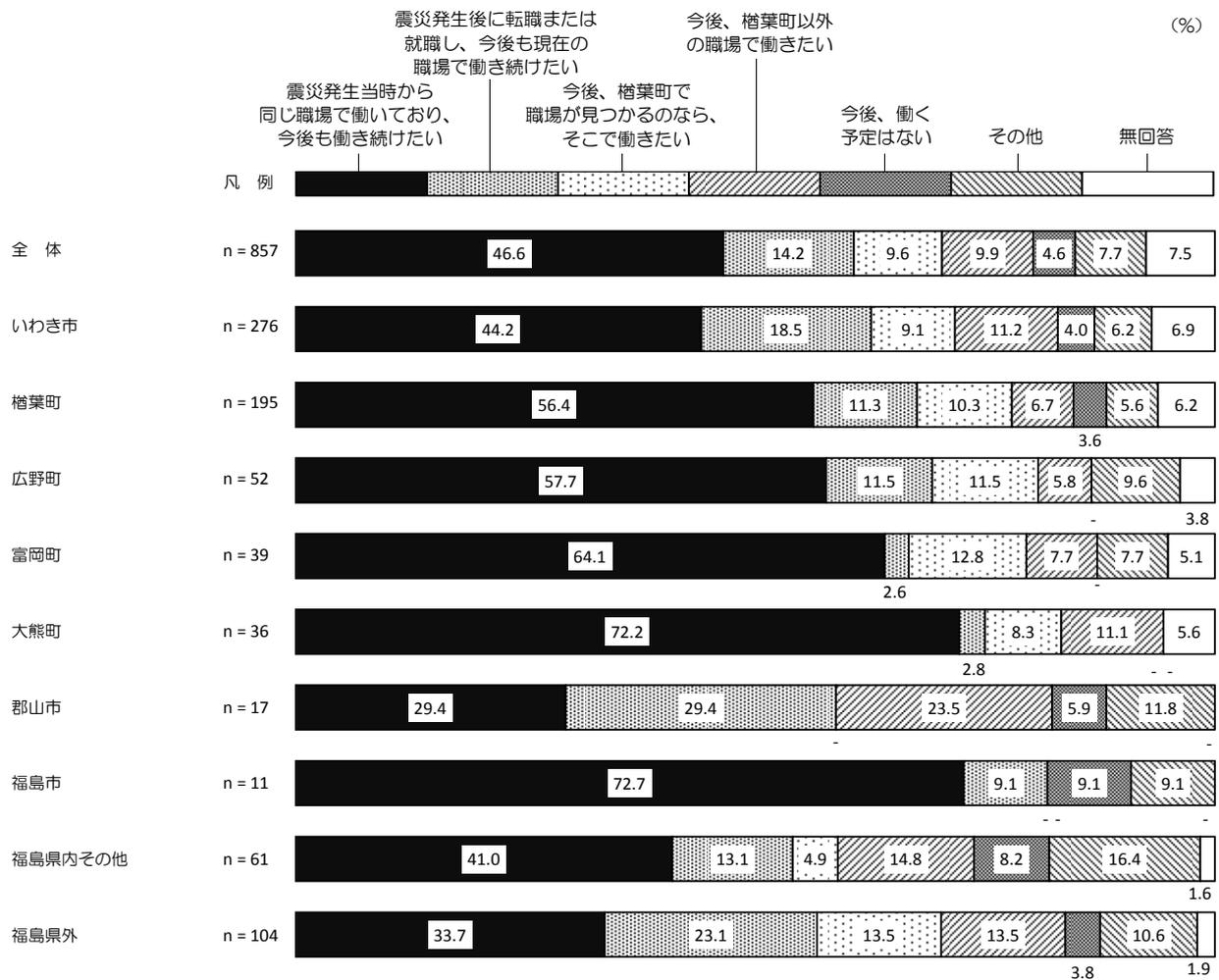
<図表3-3-1-5 今後の職業の意向（自営業・会社経営者以外）（現在の業種別）>



III 調査結果

現在の就業先別にみると、「震災発生当時から同じ職場で働いており、今後も働き続けたい」はいずれの就業先自治体でも最も高い。

＜図表3-3-1-6 今後の職業の意向（自営業・会社経営者以外）（現在の就業先別）＞

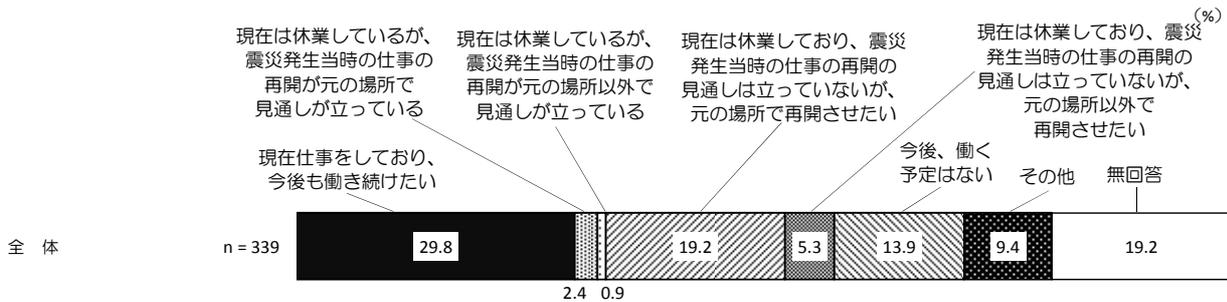


(2) 震災時の職業が自営業・会社経営者

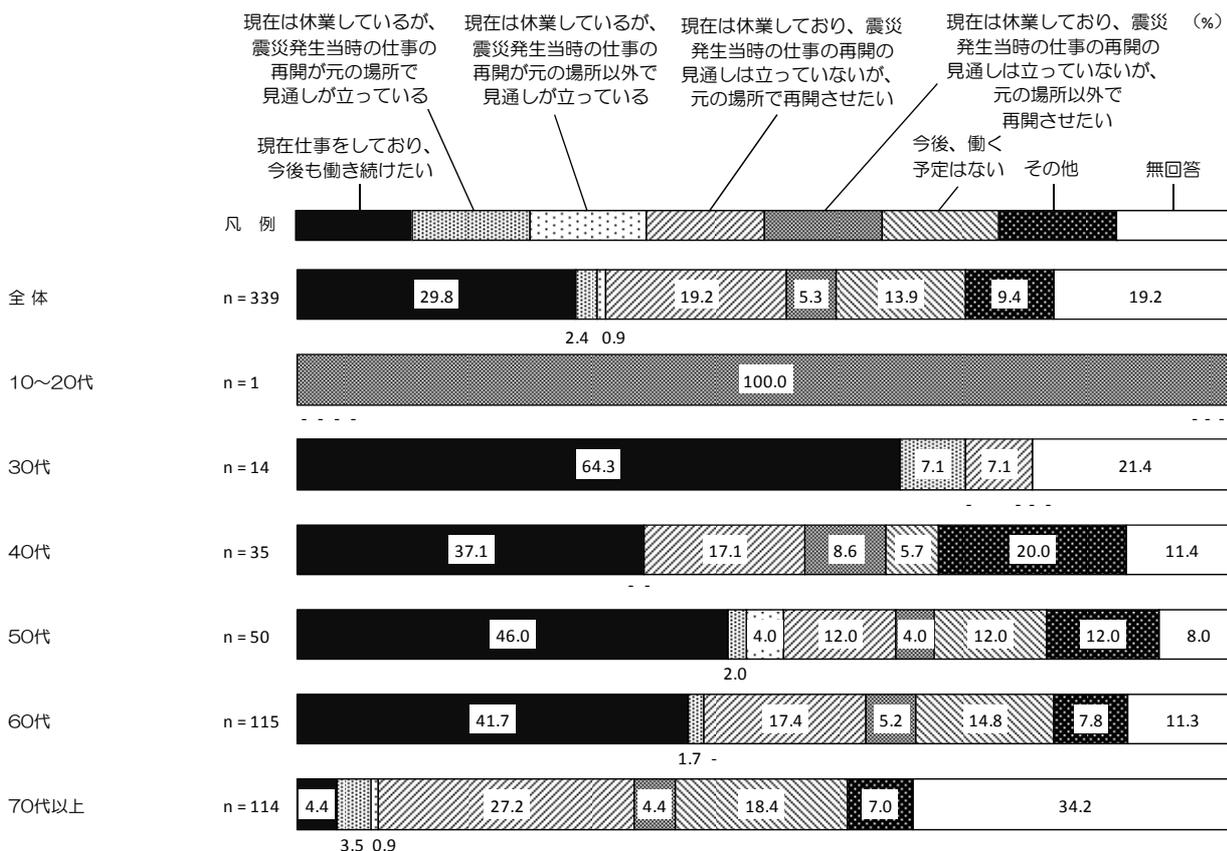
震災発生当時の職業が自営業・会社経営者だった人の今後の職業の意向は、「現在仕事をしており、今後も働き続けたい」が29.8%で最も高く、次いで「現在は休業しており、震災発生当時の仕事の再開の見通しは立っていないが、元の場所で再開させたい」(19.2%)、「今後、働く予定はない」(13.9%)となっている。

世帯主の年齢別にみると、30代~60代は「現在仕事をしており、今後も働き続けたい」の割合が最も高いが、70代以上は「現在は休業しており、震災発生当時の仕事の再開の見通しは立っていないが、元の場所で再開させたい」の割合が最も高い。

<図表3-3-1-7 今後の職業の意向(自営業・会社経営者)>



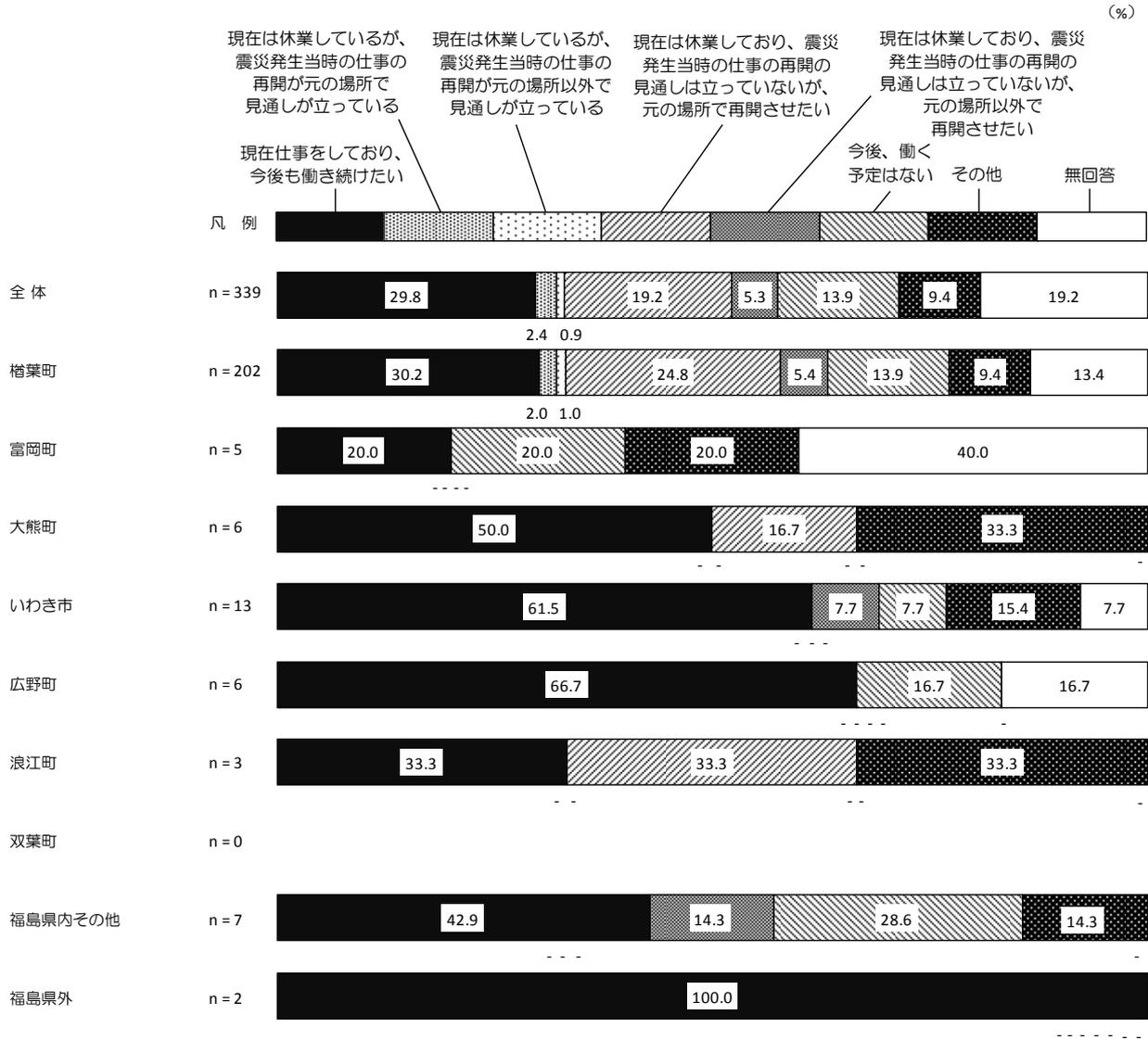
<図表3-3-1-8 今後の職業の意向(自営業・会社経営者)(世帯主の年齢別)>



III 調査結果

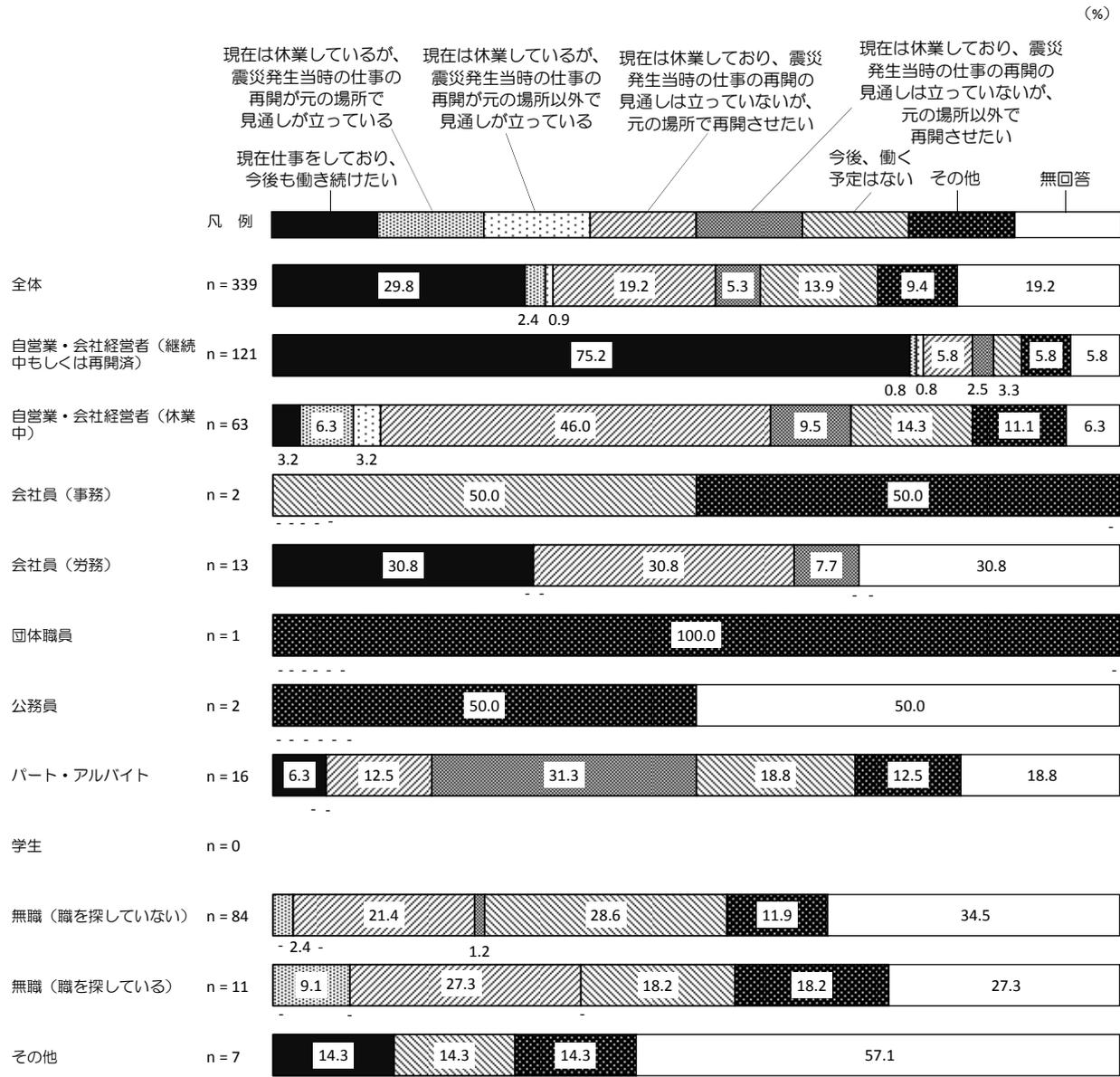
震災当時の就業先別にみると、楢葉町では「現在仕事をしており、今後も働きたい」が30.2%で「現在は休業しており、震災発生当時の仕事の再開の見通しは立っていないが、元の場所で再開させたい」が24.8%となっている。

＜図表3-3-1-9 今後の職業の意向（自営業・会社経営者）（震災当時の就業先別）＞



現在の職業別に見ると、自営業・会社経営者（継続中もしくは再開済）は「現在仕事をしており、今後も働き続けたい」が75.2%、自営業・会社経営者（休業中）では「現在は休業しており、震災発生当時の仕事の再開の見通しは立っていないが、元の場所で再開させたい」が46.0%で最も高くなっている。

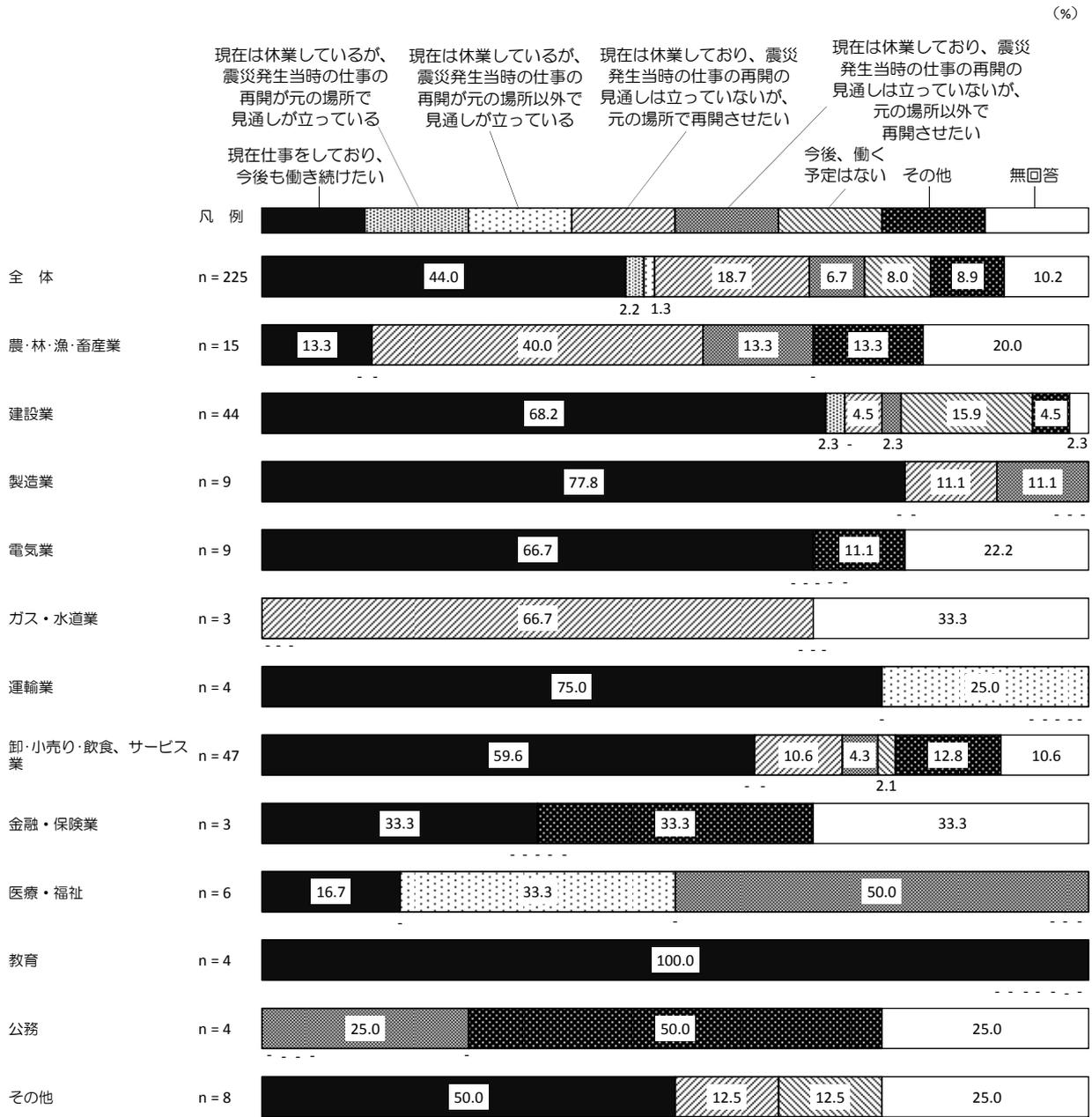
<図表3-3-1-10 今後の職業の意向（自営業・会社経営者）（現在の職業別）>



III 調査結果

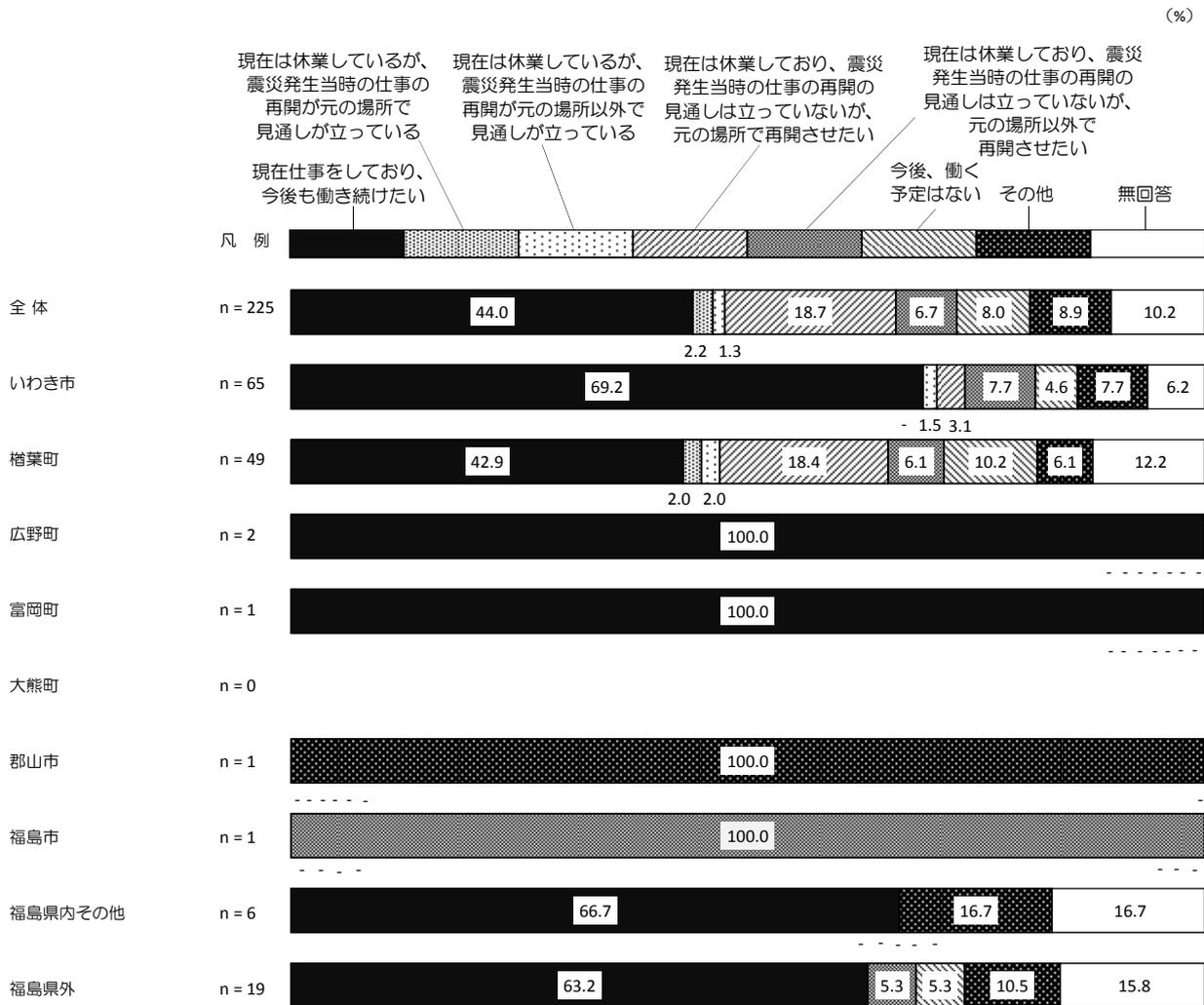
現在の業種別にみると、「現在仕事をしており、今後も働き続けたい」は建設業で68.2%、「卸・小売・飲食、サービス業」では59.6%となっている。

＜図表3-3-1-1-1 今後の職業の意向（自営業・会社経営者）（現在の業種別）＞



現在の就業先の所在自治体別にみると、「現在仕事をしており、今後も働きたい」がいわき市では69.2%、楡葉町では42.9%となっている。

＜図表3-3-1-1 2 今後の職業の意向（自営業・会社経営者）（現在の就業先別）＞



3-3-2 職場を選ぶ際に重要視すること

(1) 職場を選ぶ際に重要視すること

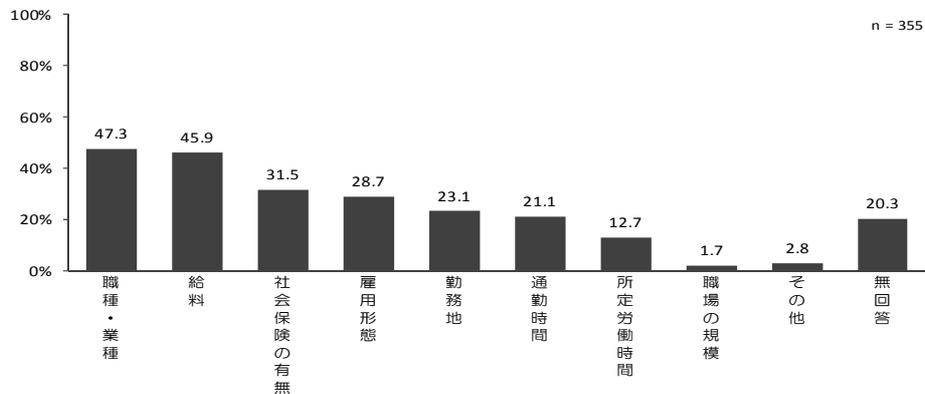
【問12(1)のAで「3.今後、榑葉町で職場が見つかるのなら、そこで働きたい」「4.今後、榑葉町以外の職場で働きたい」と回答した方にうかがいます。】

問12(2) 職場を選ぶ際に、重要視することを3つまでお選びください。(〇は3つまで)

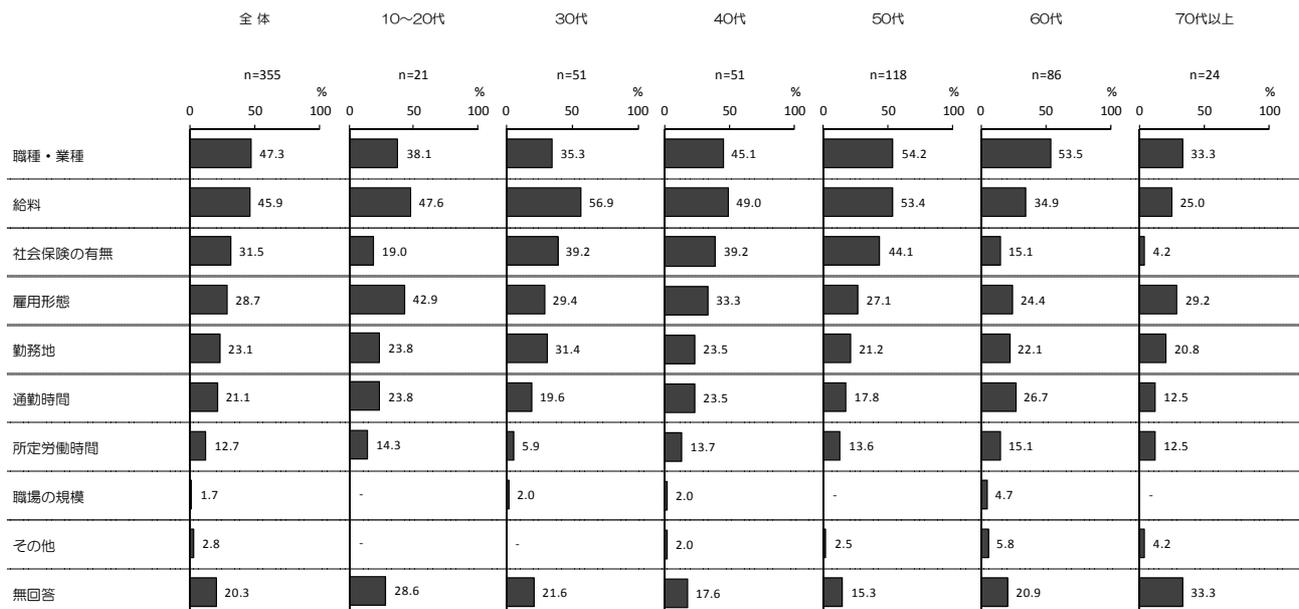
震災発生当時の職業が自営業・会社経営者以外だった人が職場を選ぶ際に重要視することについては「職種・業種」(47.3%)が最も高く、次いで「給料」が45.9%、「社会保険の有無」が31.5%、「雇用形態」が28.7%、「勤務地」が23.1%、「通勤時間」が21.1%となっている。

世帯主の年齢別にみると、10~40代は「給料」の割合が最も高いが、50代~60代は「職種・業種」が最も高い。

<図表3-3-2-1 職場を選ぶ際に重要視すること>



<図表3-3-2-2 職場を選ぶ際に重要視すること(世帯主の年齢別)>



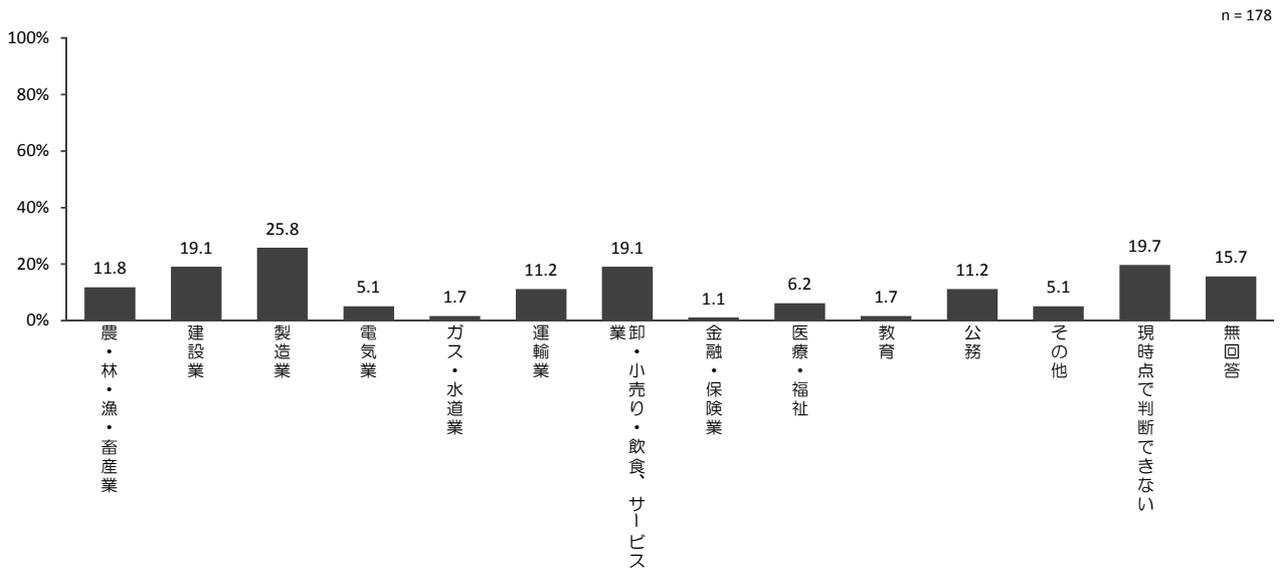
(2) 希望職種

【問 12 (1) のAで「3 今後、榑葉町で職場が見つかるのなら、そこで働きたい」と回答した方にうかがいます。】

問 12 (3) 希望される業種を3つまでお選びください。(〇は3つまで)

震災発生当時の職業が自営業・会社経営者以外だった人で「榑葉町で職場が見つかるのなら、そこで働きたい」と回答した人が希望する職種は、「製造業」(25.8%)、「建設業」「卸・小売り・飲食、サービス業」(各19.1%)が上位となっている。

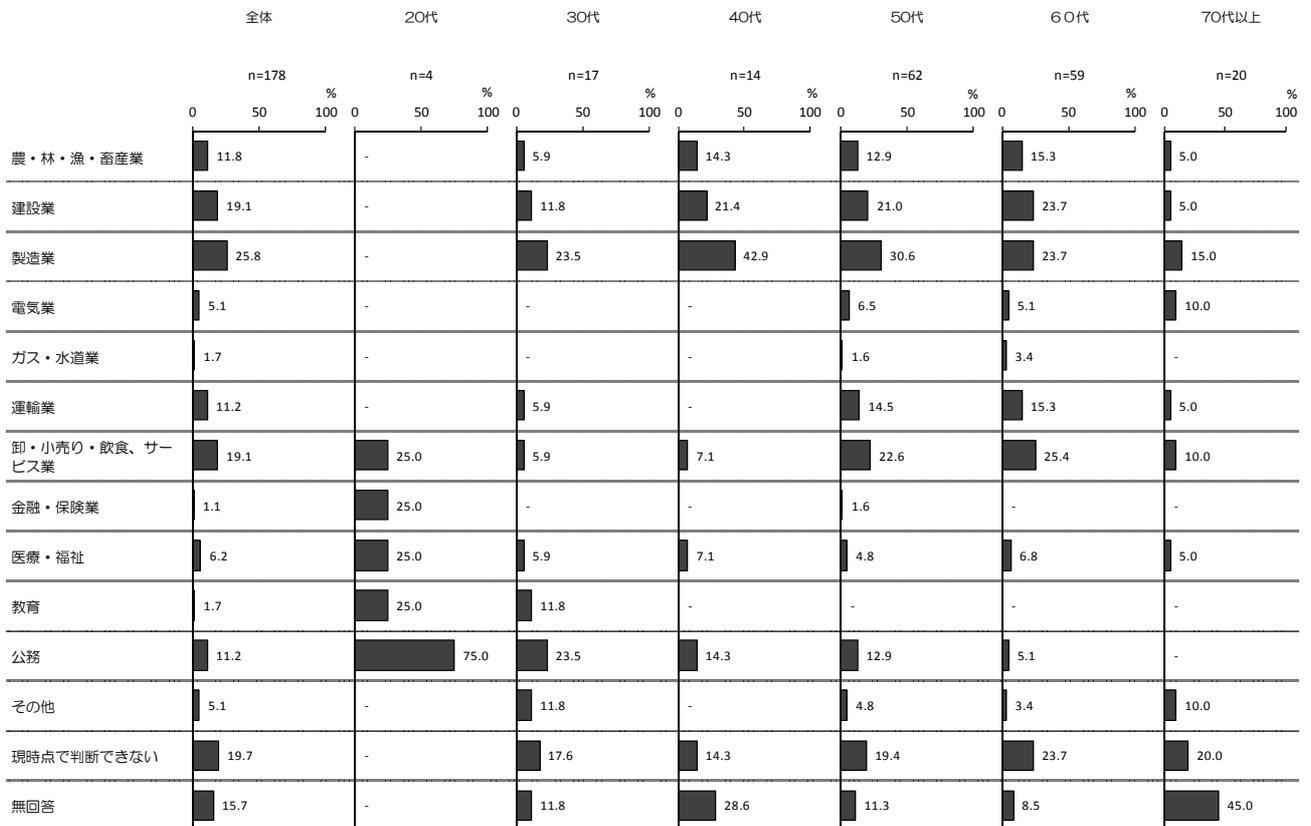
<図表3-3-2-3 希望職種>



Ⅲ 調査結果

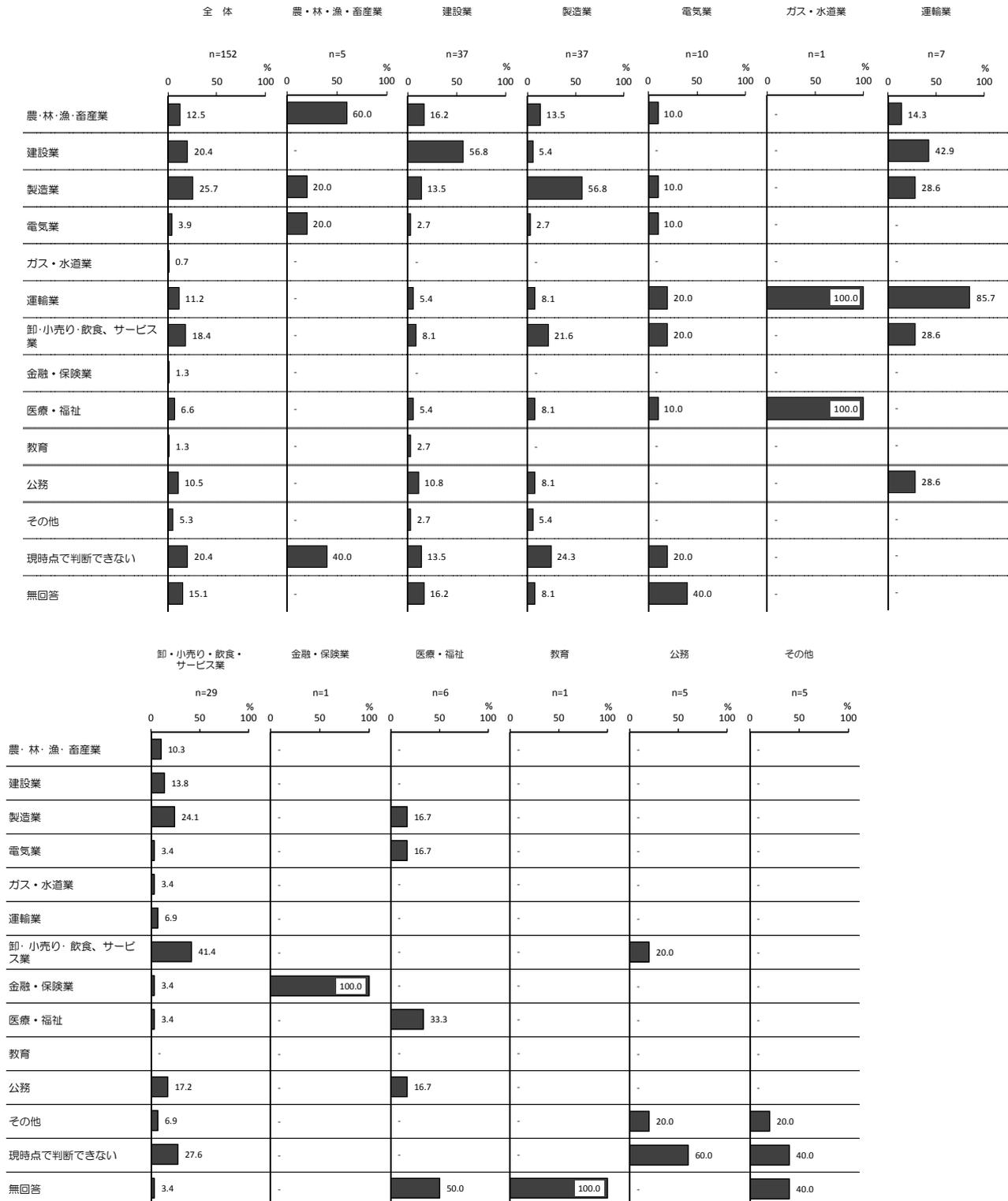
世帯主の年齢別にみると、50代は「製造業」(30.6%)、60代は「建設業」(23.7%)と「製造業」(23.7%)、「卸・小売り・飲食、サービス業」(25.4%)が最も高くなっている。

<図表3-3-2-4 希望職種(世帯主の年齢別)>



震災発生時の業種別のうち、建設業は「建設業」(56.8%)、製造業は「製造業」(56.8%)と同業種の希望が最も高くなっている。

<図表3-3-2-5 希望職種(震災発生時の業種別)>



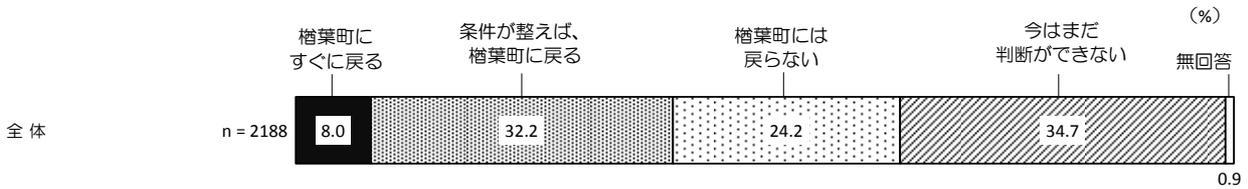
3-3-3 榑葉町への帰還意向

問 13 将来、榑葉町の避難指示が解除され、戻ることができるようになった場合、あなたは榑葉町に戻りますか。
(〇は1つ)

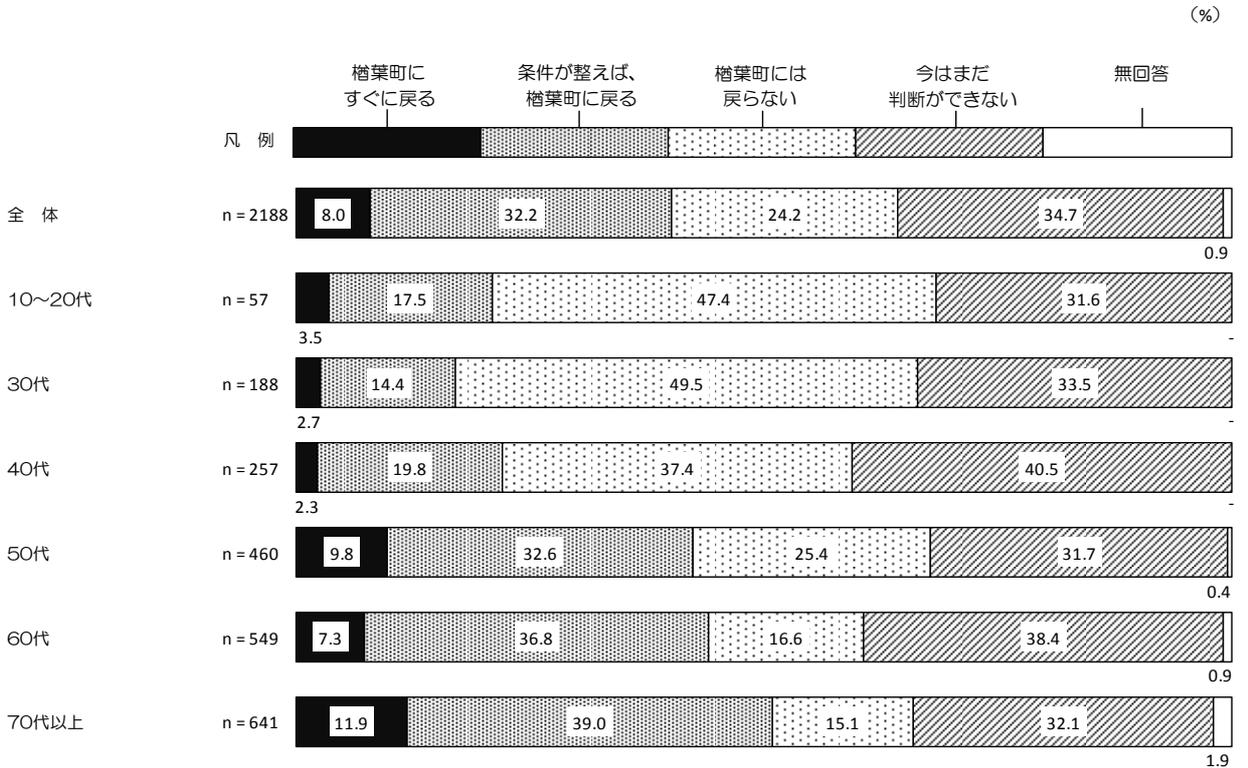
榑葉町への帰還意向については、「今はまだ判断ができない」(34.7%)が最も高く、次いで「条件が整えば、榑葉町に戻る」(32.2%)、「榑葉町には戻らない」(24.2%)となっている。

世帯主の年齢別にみると、「条件が整えば、榑葉町に戻る」は概ね年齢が高くなるに従い高くなっており、50代以上では3割を超えている。

<図表3-3-3-1 榑葉町への帰還意向>

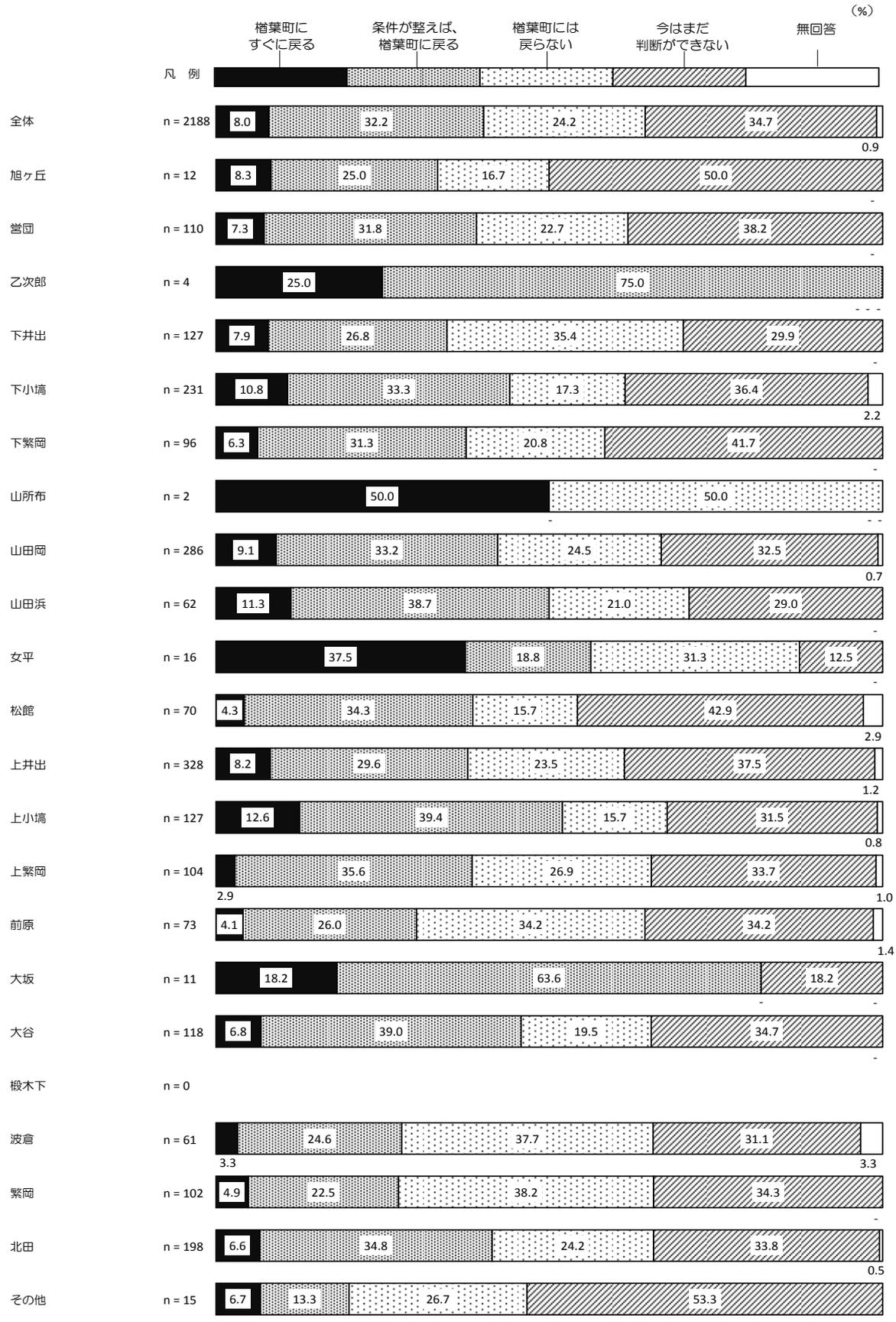


<図表3-3-3-2 榑葉町への帰還意向(世帯主の年齢別)>



震災発生時の居住行政区別にみると、「条件が整えば、榊葉町に戻る」が3割程度の行政区が多数を占める。

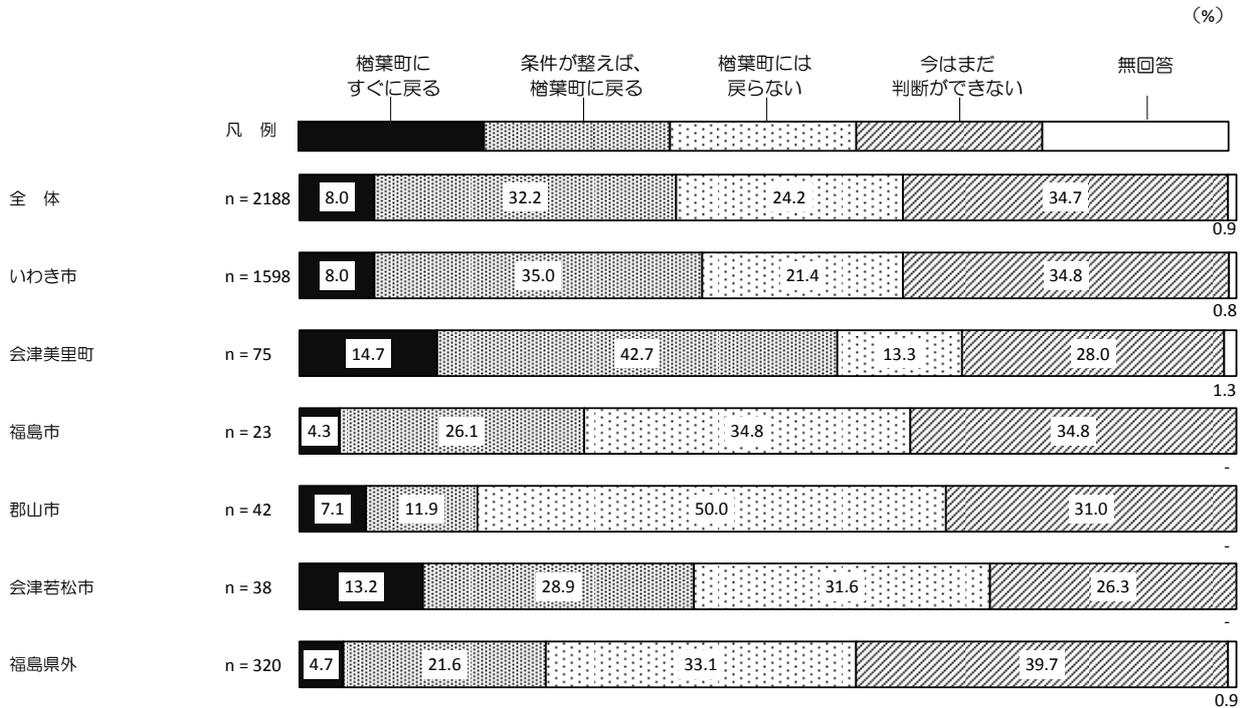
<図表3-3-3-3 榊葉町への帰還意向（居住行政区別）>



III 調査結果

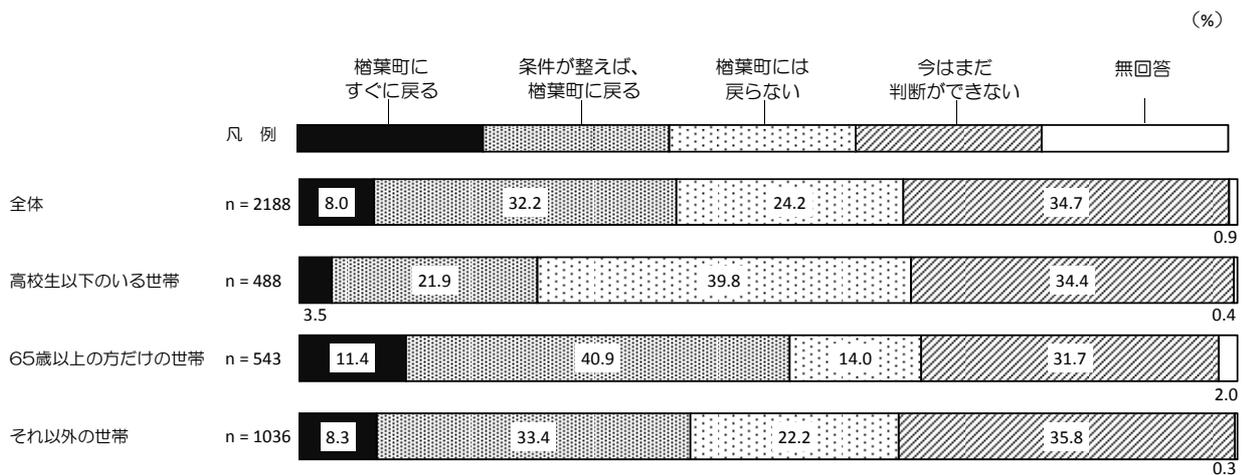
避難先自治体別にみると、「榑葉町にすぐに戻る」は会津美里町では 14.7%、会津若松市では 13.2%となっている。また、「条件が整えば、榑葉町に戻る」は会津美里町では 42.7%、いわき市では 35.0%となっており、他の避難先自治体と比べ高くなっている。

＜図表3-3-3-4 榑葉町への帰還意向（主な避難先自治体別）＞



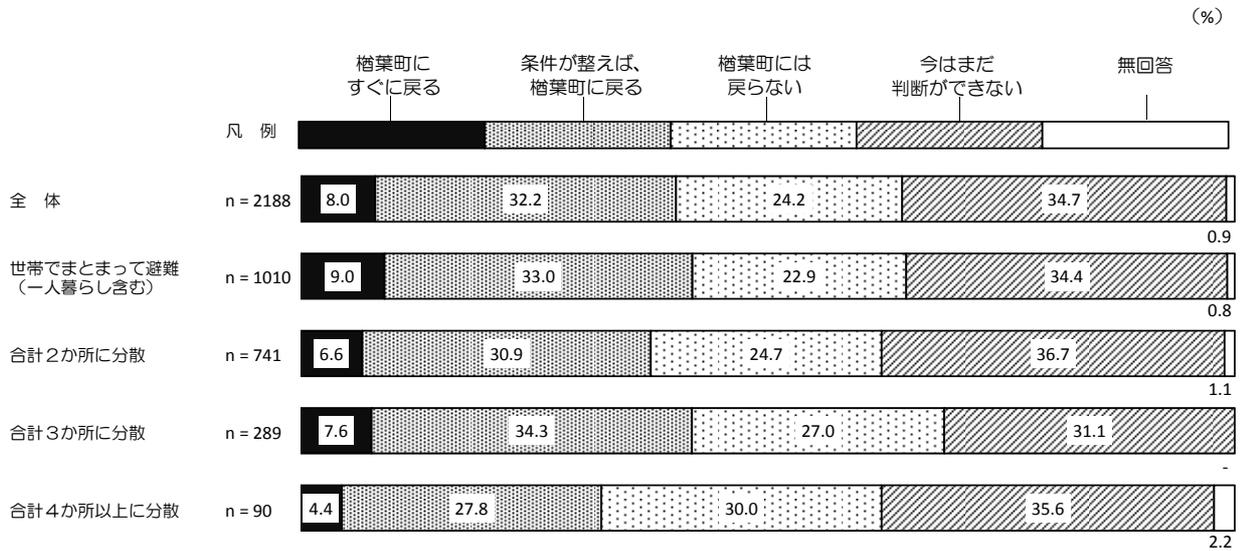
現在の家族構成別にみると、高校生以下のいる世帯では「榑葉町には戻らない」(39.8%)が最も高いが、65歳以上の方だけの世帯では「条件が整えば、榑葉町に戻る」(40.9%)が最も高くなっている。

＜図表3-3-3-5 榑葉町への帰還意向（現在の家族構成別）＞



世帯の分散状況別にみると、分散しているか所数が多くなるにつれ「檜葉町には戻らない」が高くなっていく。

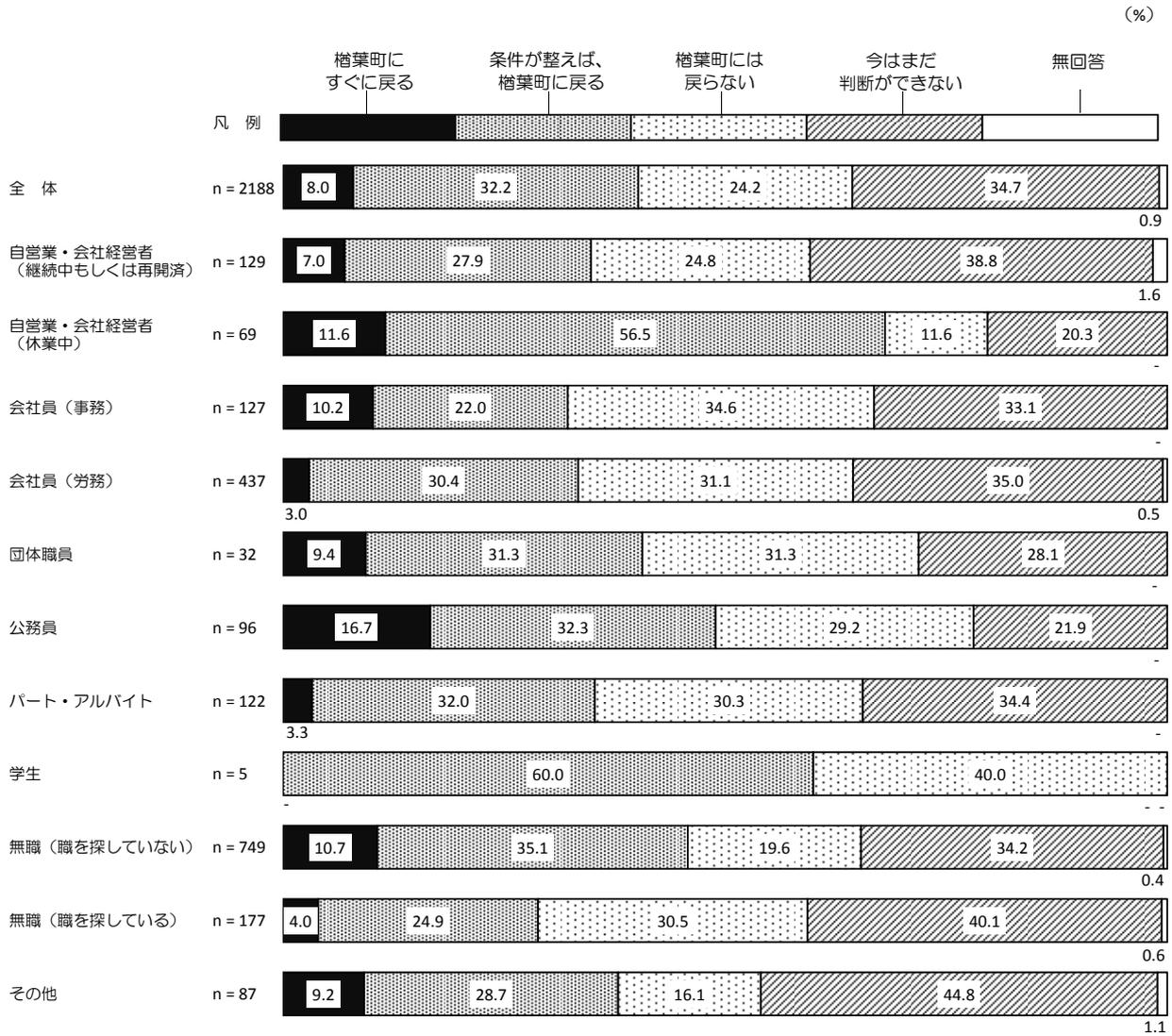
<図表3-3-3-6 檜葉町への帰還意向（世帯の分散状況別）>



III 調査結果

現在の職業別に見ると、「条件が整えば、檜葉町に戻る」は自営業・会社経営者（休業中）では 56.5%で半数以上であり、他の職業と比べ高くなっている。

<図表3-3-3-7 檜葉町への帰還意向（現在の職業別）>



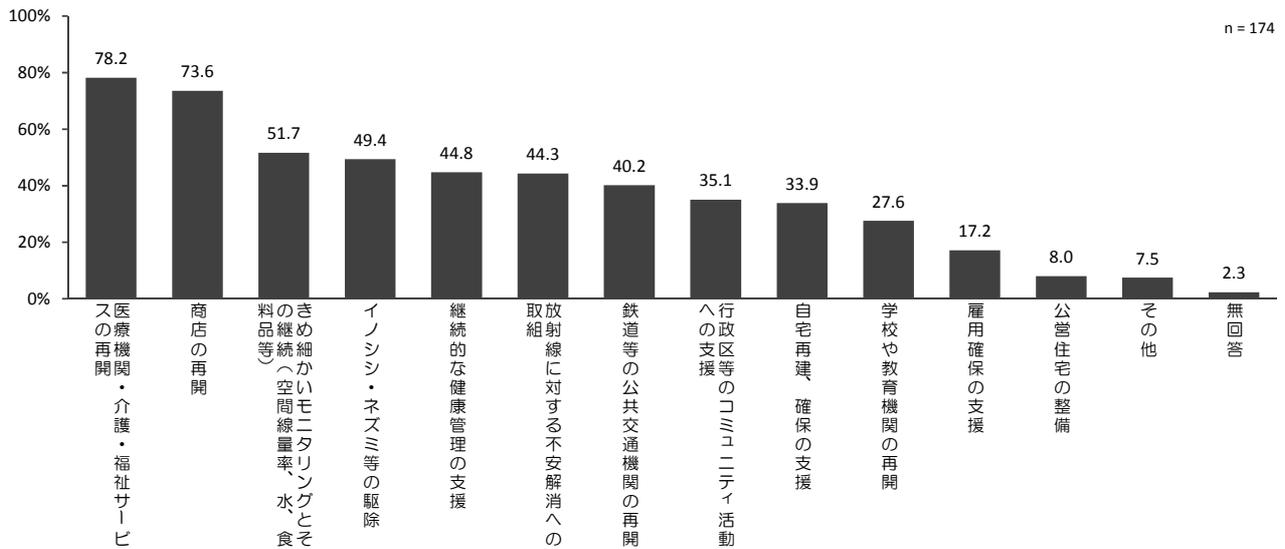
3-3-4 榑葉町へ帰還する場合に求める支援

【問 13 で「1.榑葉町にすぐに戻る」と回答した方にうかがいます。】

問 14 避難指示が解除され榑葉町に戻る時に、行政にどのような支援を望みますか。(〇はいくつでも)

避難指示が解除され榑葉町に戻ることができるようになった場合、行政に望む支援は、「医療機関・介護・福祉サービスの再開」(78.2%)が最も高く、次いで「商店の再開」(73.6%)、「きめ細かいモニタリングとその継続(空間線量率、水、食料品等)」(51.7%)となっている。

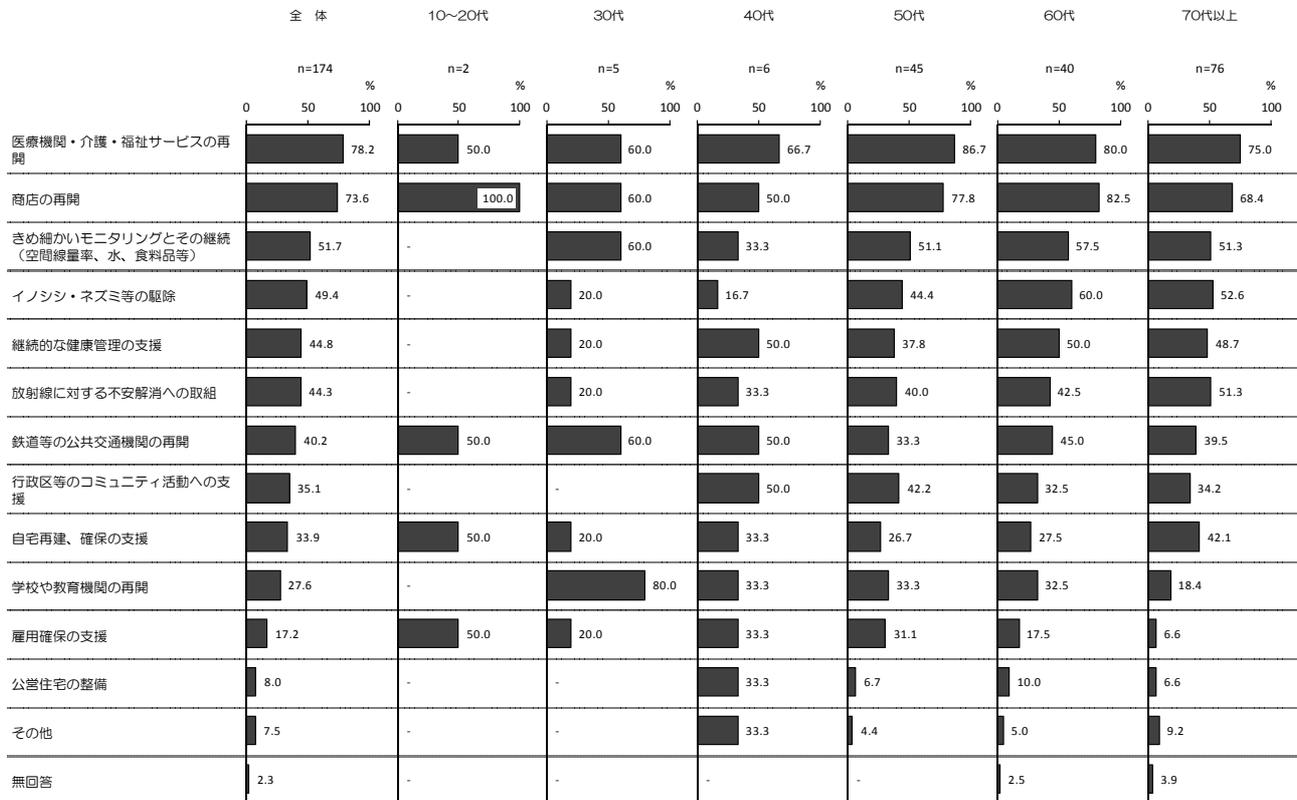
<図表3-3-4-1 帰還する場合に求める支援>



III 調査結果

世帯主の年齢別にみると、50代では「医療機関・介護・福祉サービスの再開」(86.7%)、60代では「商店の再開」(82.5%)、「医療機関・介護・福祉サービスの再開」(80.0%)、70代以上では「医療機関・介護・福祉サービスの再開」(75.0%)が他の年齢と比べ高くなっている。

＜図表3-3-4-2 帰還する場合に求める支援（世帯主の年齢別）＞



3-3-5 楡葉町への帰還を判断する上で必要と思う情報

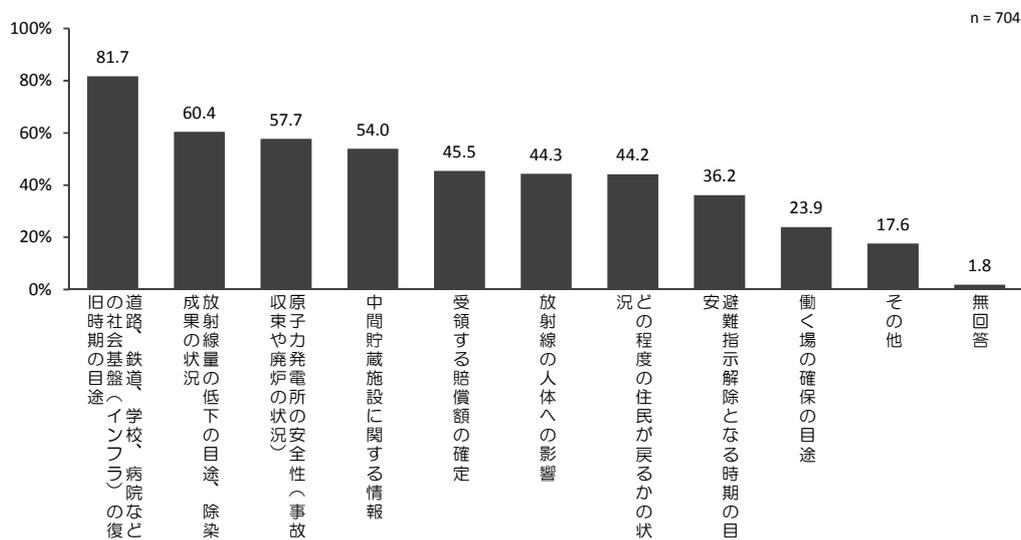
(1) 楡葉町への帰還を判断する上で必要と思う情報

【問 13 で「2.条件が整えば、楡葉町に戻る」と回答した方にうかがいます。】

問 15 (1) 楡葉町に戻るにあたり、あなたがその条件として考慮する情報等について、あてはまるものをお選びください。(〇はいくつでも)

楡葉町への帰還について「条件が整えば、楡葉町に戻る」と回答した方が、楡葉町に戻るに当たり、その条件として考慮する情報は、「道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤（インフラ）の復旧時期の目途」が81.7%で最も高い。次いで「放射線量の低下の目途、除染成果の状況」（60.4%）、「原子力発電所の安全性（事故収束や廃炉の状況）」（57.7%）、「中間貯蔵施設に関する情報」（54.0%）となっている。

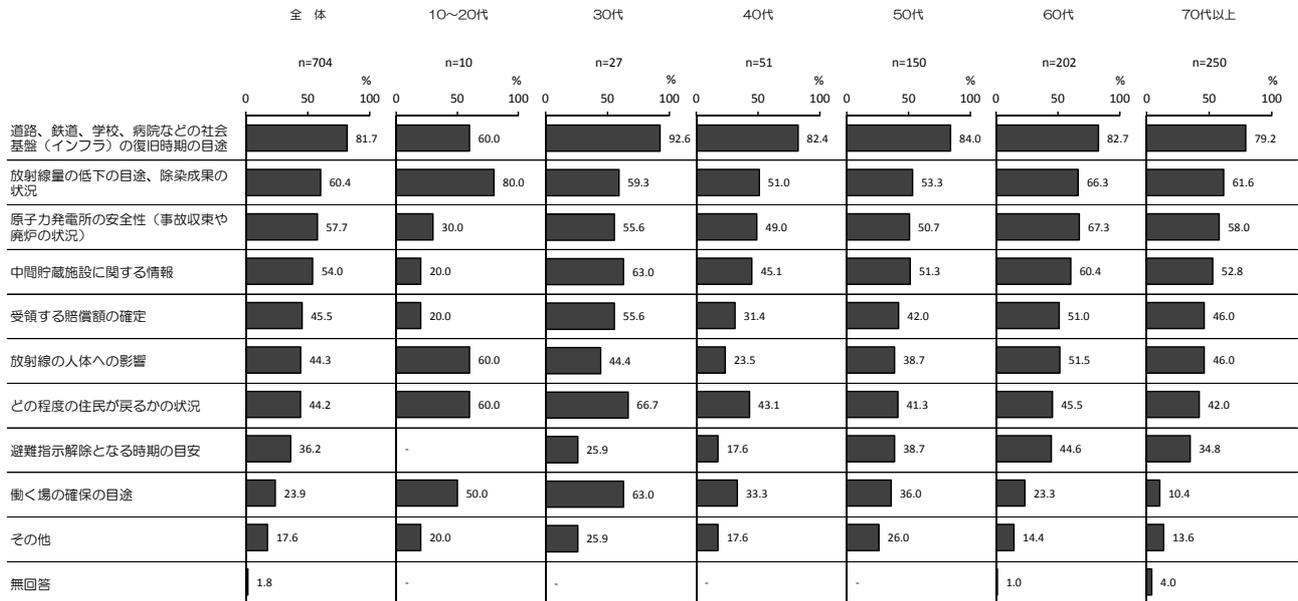
<図表 3-3-5-1 楡葉町への帰還を判断する上で必要と思う情報>



III 調査結果

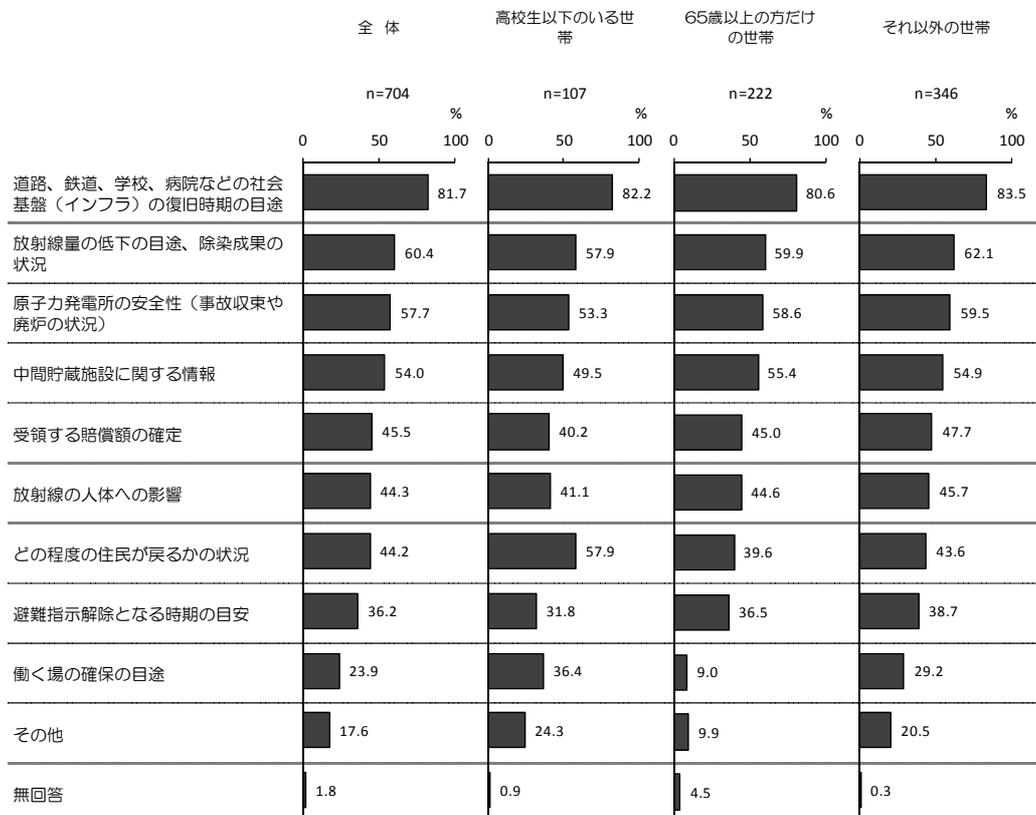
世帯主の年齢別でみると、どの年代でも概ね「道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤（インフラ）の復旧時期の目途」の割合が最も高いが、60代は「原子力発電所の安全性（事故収束や廃炉の状況）」（67.3%）、「放射線量の低下の目途、除染成果の状況」（66.3%）と他の年代に比べて高くなっている。

<図表3-3-5-2 櫛葉町への帰還を判断する上で必要と思う情報（世帯主の年齢別）>



現在の世帯構成別にみると、「道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤（インフラ）の復旧時期の目途」が
 いずれの世帯構成でも最も高くなっているが、高校生以下のいる世帯では「どの程度の住民が戻るかの状況」
 「働く場の確保の目途」が他の年代に比べて高くなっている。

<図表3-3-5-3 櫛葉町への帰還を判断する上で必要と思う情報（現在の世帯構成別）>



Ⅲ 調査結果

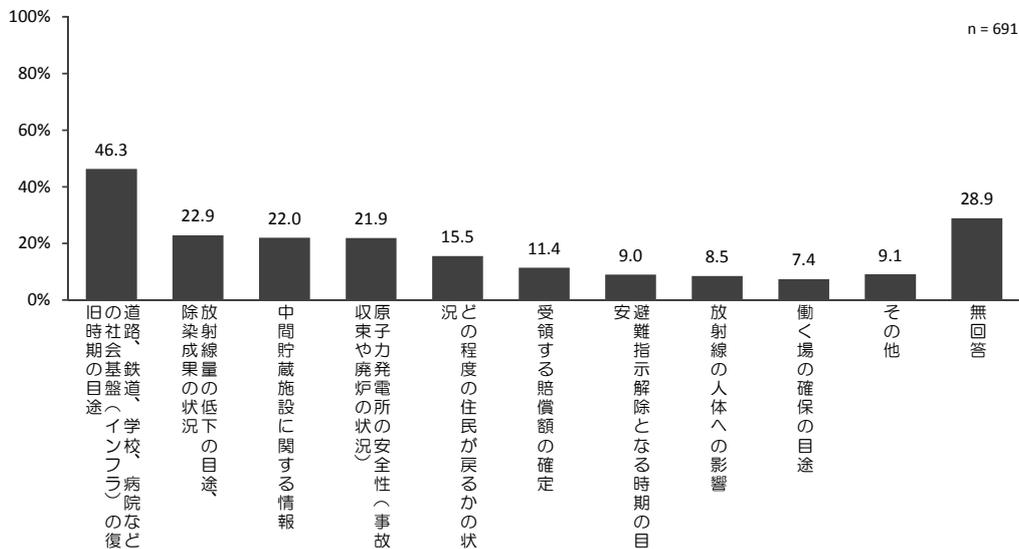
(2) 楡葉町への帰還を判断する上で必要と思う情報のうち、重視するもの

【問 13 で「2.条件が整えば、楡葉町に戻る」と回答した方にうかがいます。】

問 15 (2) 上記(問 15(1))で選んだ情報等のうち、特に重視するものを3つまで選んで、選択肢番号の欄にご記入下さい。そして、その情報等について、どのような条件が満たされたときに戻る予定ですか。具体的にお書きください。

楡葉町への帰還について「条件が整えば、楡葉町に戻る」と回答した方が、楡葉町への帰還を判断する上で必要と思う情報のうち重視したいものについては、「道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤（インフラ）の復旧時期の目途」が 46.3%と最も高く、次いで「放射線量の低下の目途、除染成果の状況」が 22.9%、「中間貯蔵施設に関する情報」が 22.0%となっている。

＜図表 3-3-5-4 楡葉町への帰還を判断する上で必要と思う情報（3つまで）＞



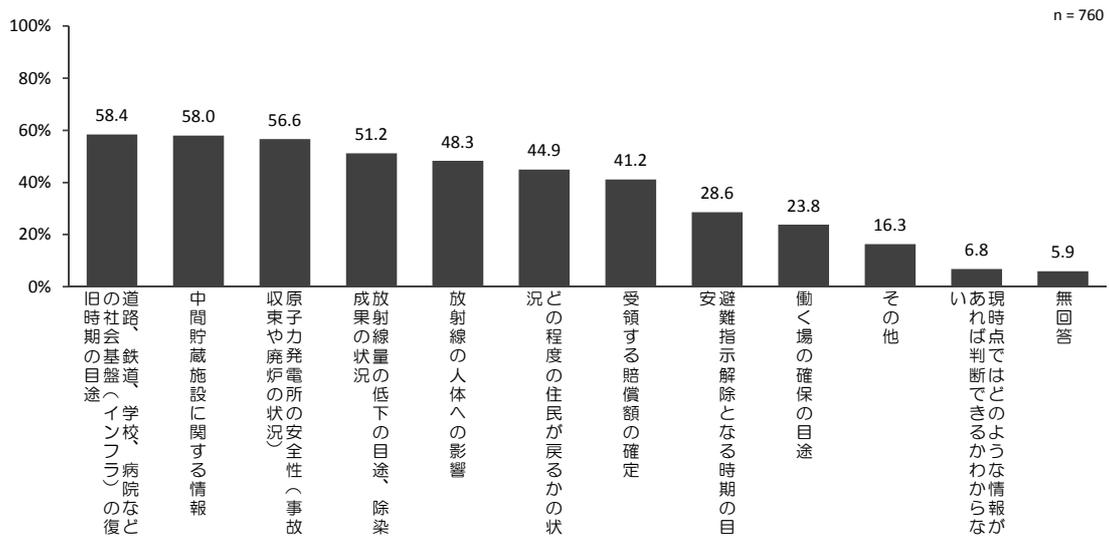
(3) 楡葉町への帰還を判断する上で参考にする情報

【問 13 で「4.今はまだ判断ができない」と回答した方にうかがいます。】

問 18 (1) 楡葉町に戻るかどうかの判断をする際に、あなたが参考にする情報等について、あてはまるものをお選びください。(〇はいくつでも)

楡葉町への帰還について「今はまだ判断ができない」と回答した方が、楡葉町への帰還を判断する上で必要と思う情報については「道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤（インフラ）の復旧時期の目途」（58.4%）、「中間貯蔵施設に関する情報」（58.0%）、「原子力発電所の安全性（事故収束や廃炉の状況）」（56.6%）となっている。

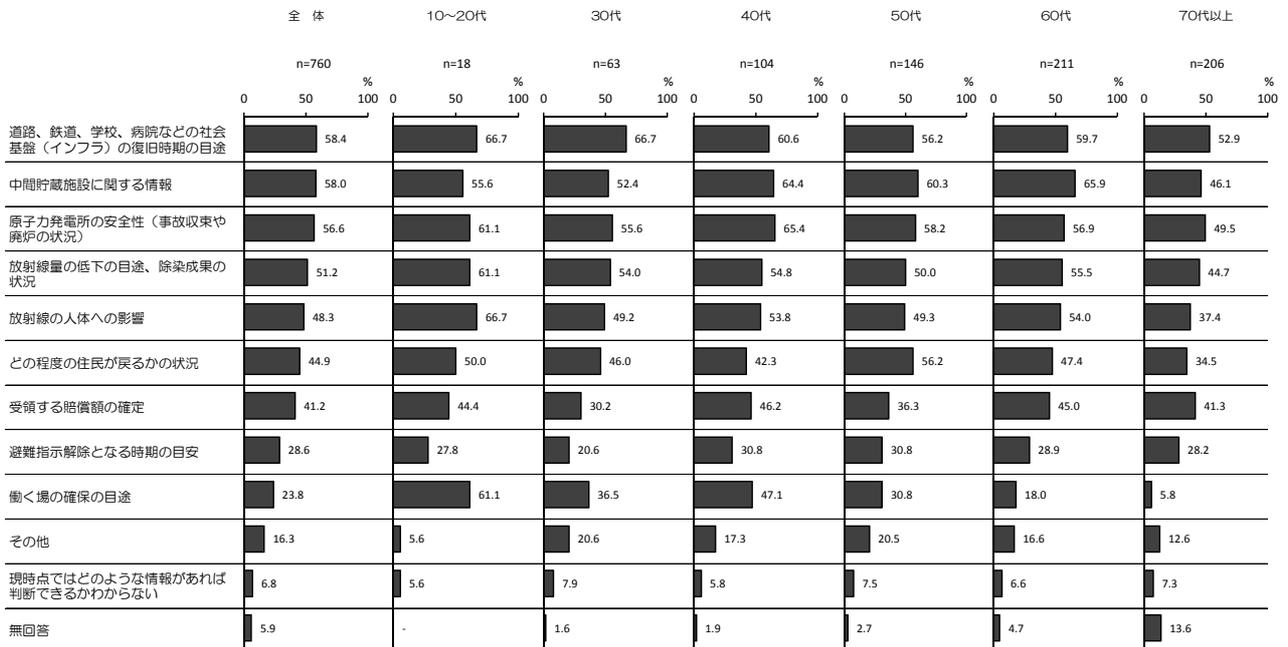
＜図表3-3-5-5 楡葉町への帰還を判断する上で参考にする情報＞



III 調査結果

世帯主の年齢別にみると、「中間貯蔵施設に関する情報」は40代～60代で6割以上、「働く場の確保の目的」は30代～50代で3割以上となっており、他の年代と比べて高い。

＜図表3-3-5-6 檜葉町への帰還を判断する上で参考にする情報（世帯主の年齢別）＞



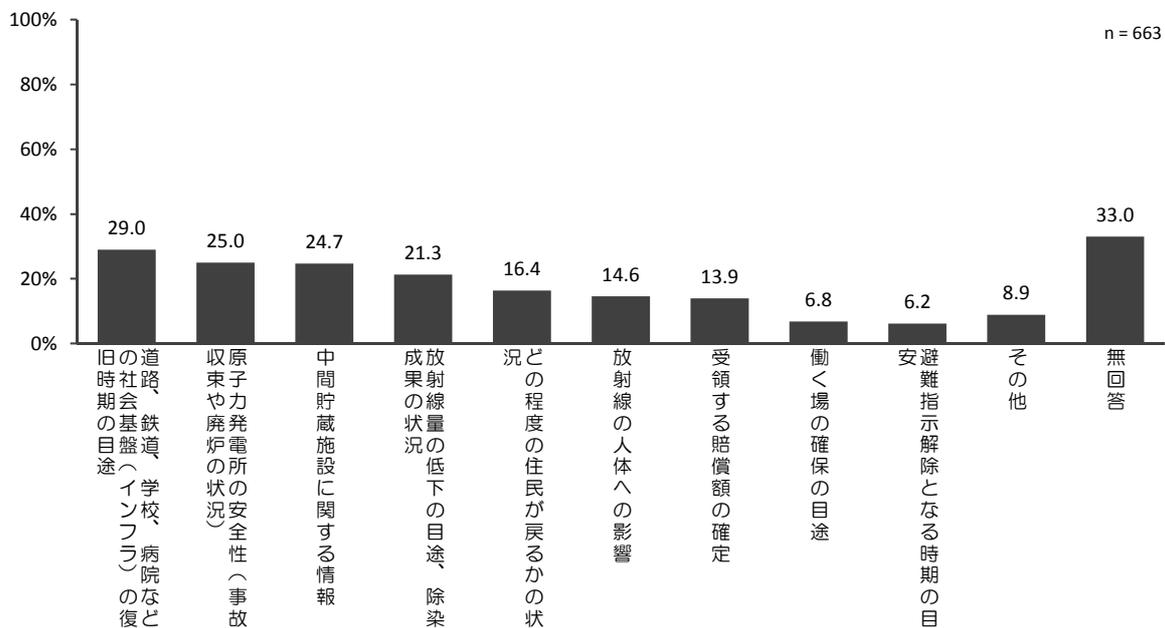
(4) 楡葉町への帰還を判断する上で参考にする情報のうち、重視するもの

【問 18 (1) で、「1」～「10」のいずれかを回答した方にうかがいます。】

問 18 (2) 上記(問 18(1))で選んだ情報等のうち、特に重視するものを3つまで選んで、選択肢番号の欄にご記入下さい。そして、その情報等について、どのような条件が満たされたときに戻りたいと考えますか。具体的にお書きください。

楡葉町への帰還について「今はまだ判断ができない」と回答した方が、楡葉町への帰還を判断する上で必要と思う情報(問 18 (1))のうち重視したいものについては、「道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤(インフラ)の復旧時期の目途」が29.0%と最も高く、次いで「原子力発電所の安全性(事故収束や廃炉の状況)」が25.0%、「中間貯蔵施設に関する情報」が24.7%となっている。

<図表3-3-5-7 楡葉町への帰還を判断する上で参考にする情報(3つまで)>



上位項目の主な意見は以下のとおり。

[道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤(インフラ)の復旧時期の目途]

- いわき方面に行く電車や道路だけではなく、相馬方面へ行く道路や鉄道の整備。個人病院のような小さい病院だけではなく、救急医療の行なえる病院が必要。(30代)
- 病院、学校(ある程度の生徒数がいて、団体競技(部活等)が出きる様にしてもらいたい。)(30代)
- せめて震災前の程度までのインフラの状態にして欲しい。(30代)
- いわき市と同等に道路、鉄道、学校、病院等が、充実が不可欠(※大型スーパーマーケット 大型電気店など)(40代)
- 社会基盤の復旧は帰還にはかせない。(50代)
- 生活環境(スーパー・医院・ガス・下水道等)の復旧。(50代)
- 老人受け入れの施設。病院(いわきにいかなくてもよいだけの医師・職員・設備有りの)(60代)
- 持病があるため病院の確保(救急の対応ができる病院)。(60代)
- 6号線(いわき-仙台)の開通、常盤線(いわき-仙台)の開通。(70代以上)

Ⅲ 調査結果

[原子力発電所の安全性（事故収束や廃炉の状況）]

- 第一も第二も、廃炉になるまで戻りたくない。（10～20代）
- 2Fの廃炉の決定。1Fの汚染水問題等の収束。（30代）
- 再避難の可能性がなくなった時。（30代）
- 燃料の取出しや汚染水等の問題の収束。（40代）
- 放射能が完全に漏れなくなったら。（40代）
- 廃炉作業が終了した時。（50代）
- 事故の収束状況又、これからの未来のリスクを確認できたとき。（50代）
- 福島1Fの事故収束が不透明。安全が担保されるようになってから。（60代）
- 原発の安全性が立証された時。（70代以上）

[中間貯蔵施設に関する情報]

- 中間貯蔵施設がある内は帰りたくない。（10～20代）
- どの場所に中間貯蔵施設を設置するのか？安全性を保証できるのか？（30代）
- 小さい子供がいるので事故前のきれいで安全な櫛葉町に戻ったら帰りたい。（30代）
- 中間貯蔵施設が出来ないと決まったら。（40代）
- 中間が永久になるのではないか、安心できる説明がほしい。確約が必要。（50代）
- 安全が確認され、かつ、住宅への影響が少ないこと。（50代）
- 帰町させるなら、施設には、反対。ますます、子供達はかえってこない。（50代）
- 安心して住めることが確認できたら。（60代）
- 中間貯蔵施設が町内にないこと。（70代以上）
- 人体への影響は絶対はないという保証。（70代以上）

3-3-6 避難指示解除から帰還への年数

【問 13 で「1. 檜葉町にすぐに戻る」「2. 条件が整えば、檜葉町に戻る」と回答した方にうかがいます。】

問 16 (1) 檜葉町に戻る場合、避難指示解除から何年以内に戻りたいとお考えですか。(〇は 1 つ)

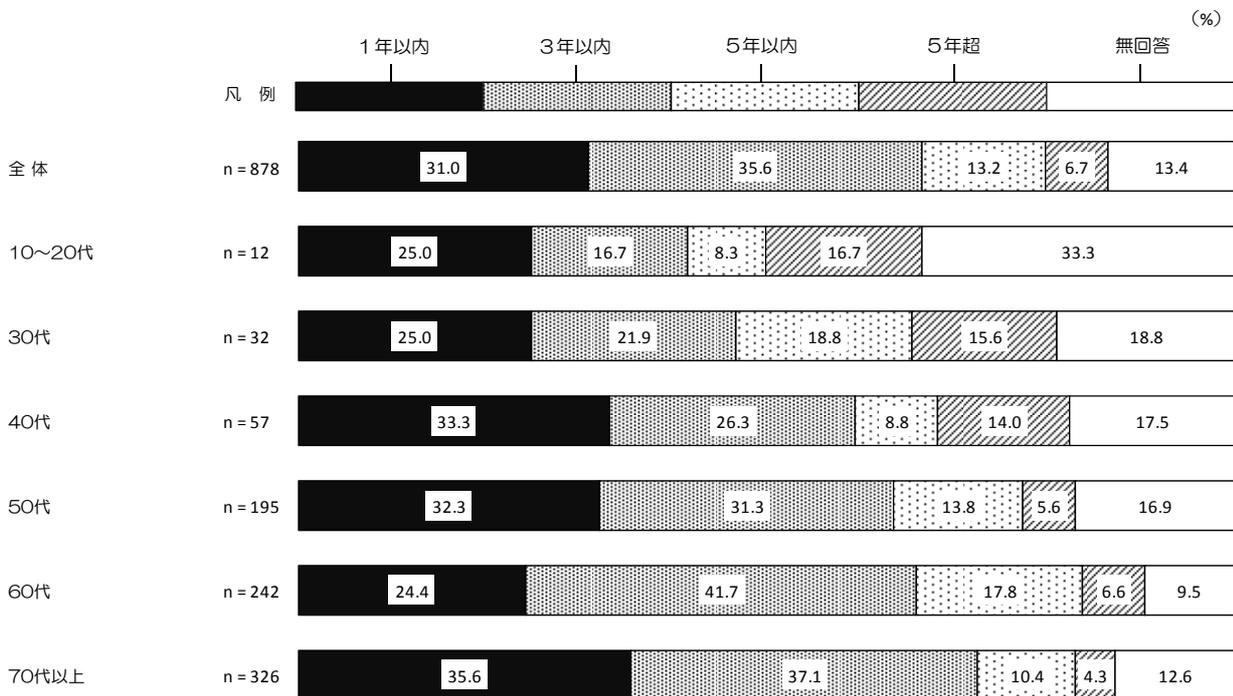
帰還への希望年数については「1年以内」(31.0%)、「3年以内」(35.6%)、「5年以内」(13.2%)、「5年超」(6.7%)となっている。

世帯主の年齢別にみると、「1年以内」は40代が33.3%、50代が32.3%、70代以上で35.6%となっており、他の年代と比べ高くなっている。また「3年以内」は年齢が高くなるにつれ割合が概ね高くなっている。一方「5年超」は30代では15.6%、40代では14.0%となっており、他の年齢と比べ高くなっている。

<図表3-3-6-1 避難指示解除から帰還への希望年数>



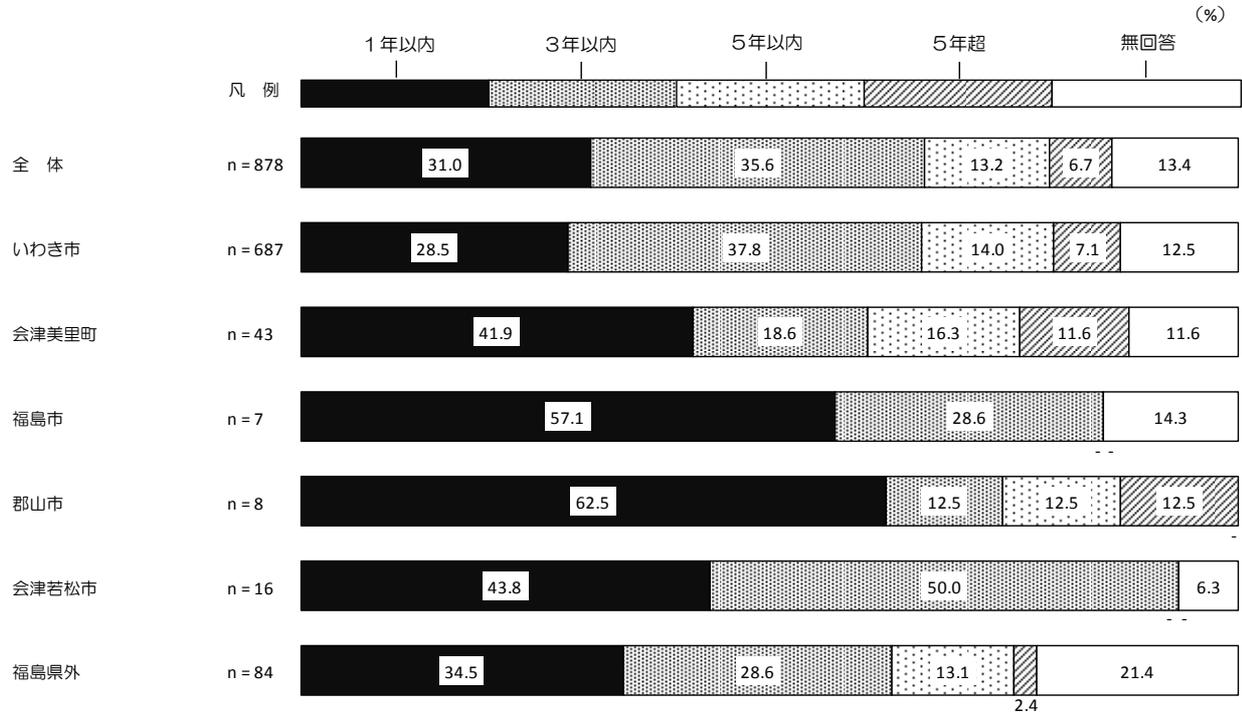
<図表3-3-6-2 避難指示解除から帰還への年数(世帯主の年齢別)>



Ⅲ 調査結果

避難先自治体別にみると、会津美里町では「1年以内」が41.9%、福島県外でも「1年以内」が34.5%で最も高いが、いわき市では「3年以内」が37.8%で最も高くなっている。

<図表3-3-6-3 避難指示解除から帰還への年数（主な避難先自治体別）>



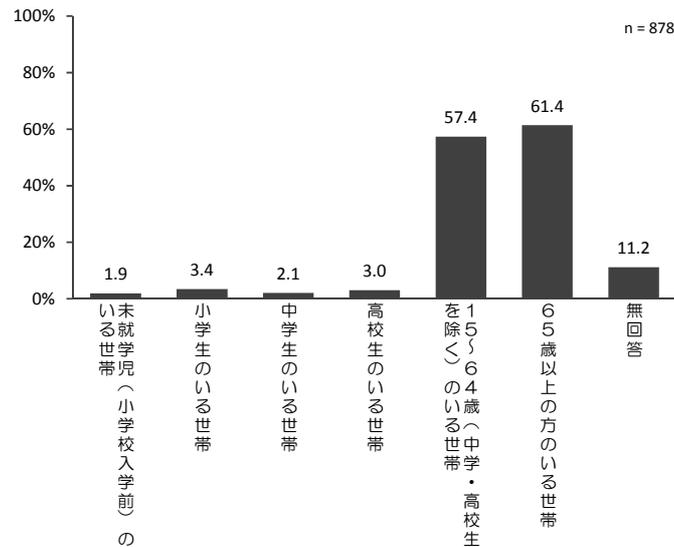
3-3-7 帰還後の家族構成

【問 13 で「1. 檜葉町にすぐに戻る」「2. 条件が整えば、檜葉町に戻る」と回答した方にうかがいます。】

問 16 (2) 檜葉町への帰還後、どのような家族構成になると考えていますか。あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

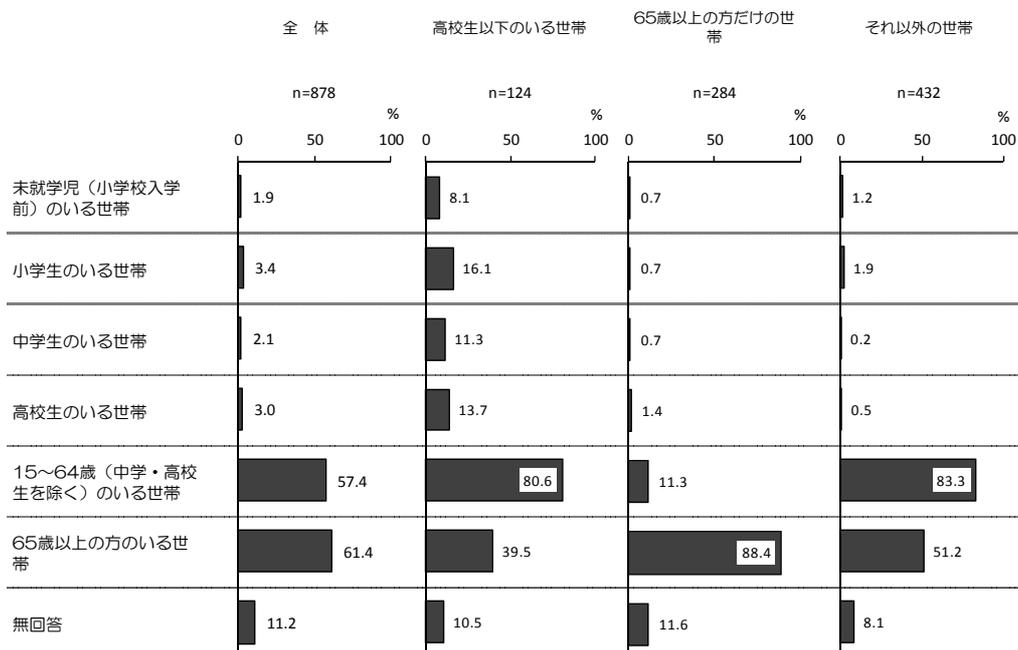
帰還後の家族構成は、「未就学児（小学校入学前）のいる世帯」（1.9%）、「小学生のいる世帯」（3.4%）、「中学生のいる世帯」（2.1%）、「高校生のいる世帯」（3.0%）、「15～64 歳（中学・高校生を除く）のいる世帯」（57.4%）、「65 歳以上の方のいる世帯」（61.4%）となっている。

<図表 3-3-7-1 帰還後の家族構成>



現在の世帯構成別にみると、65 歳以上の方のいる世帯では帰還後でも「65 歳以上の方だけの世帯」（88.4%）が最も高くなっており、高齢層のみの世帯構成となる。

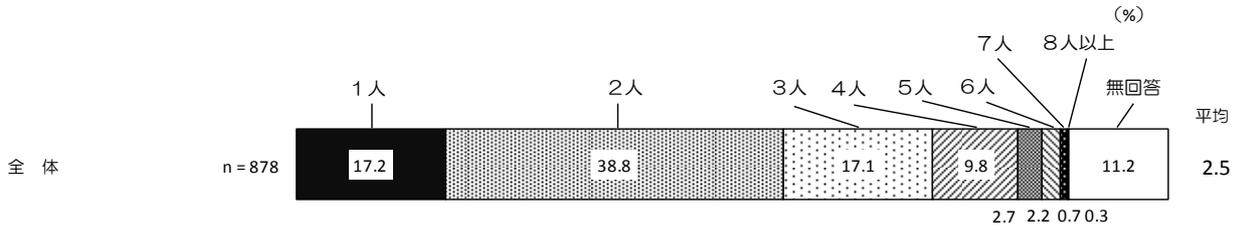
<図表 3-3-7-2 帰還後の家族構成（現在の世帯構成別）>



Ⅲ 調査結果

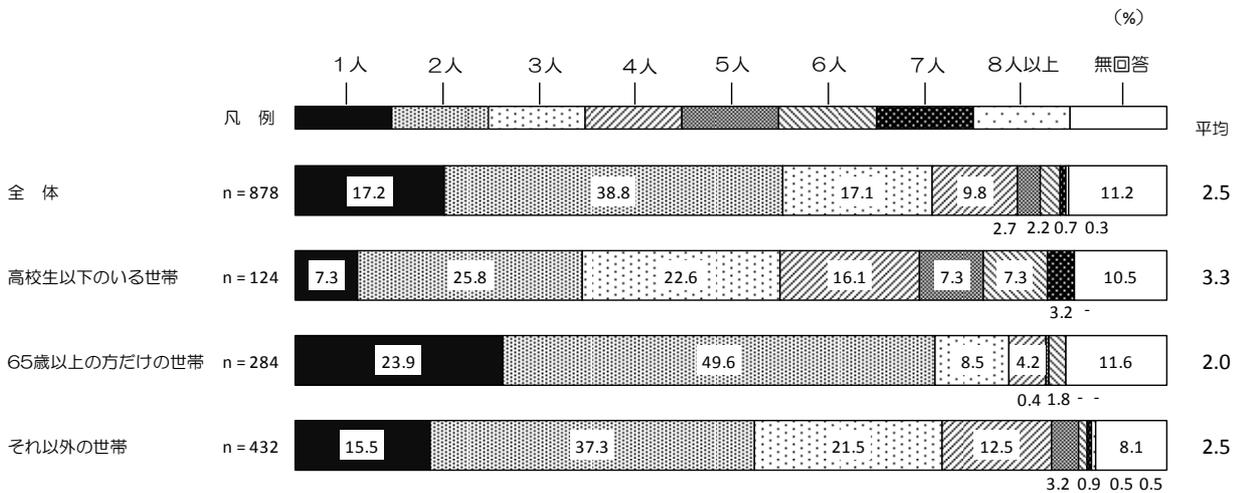
帰還後の家族人数は「2人」が最も高く、38.8%となっている。

＜図表3-3-7-3 帰還後の家族人数＞



現在の世帯構成別にみると、65歳以上の方だけの世帯で「2人」(49.6%)の割合が他の世代よりも高くなっている。

＜図表3-3-7-4 帰還後の家族人数（現在の世帯構成別）＞



3-3-8 帰還する場合の住居形態

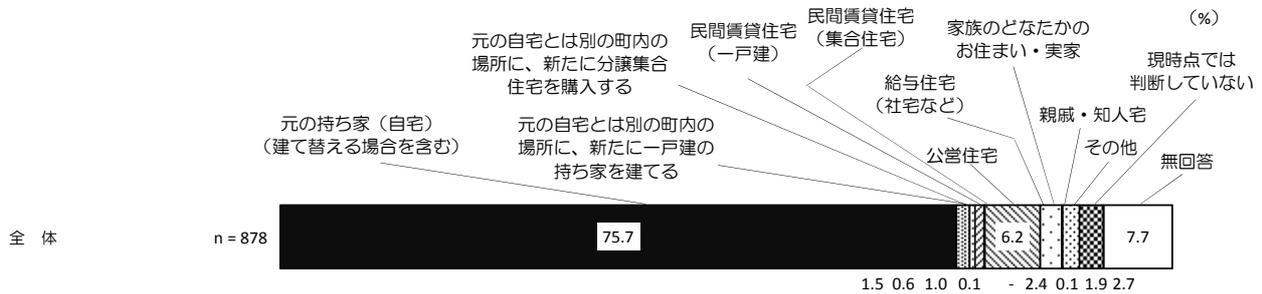
【問 13 で「1. 檜葉町にすぐに戻る」「2. 条件が整えば、檜葉町に戻る」と回答した方にうかがいます。】

問 16 (3) 檜葉町に帰町した場合のお住まいは、どのような形態を予定されていますか。(〇は1つ)

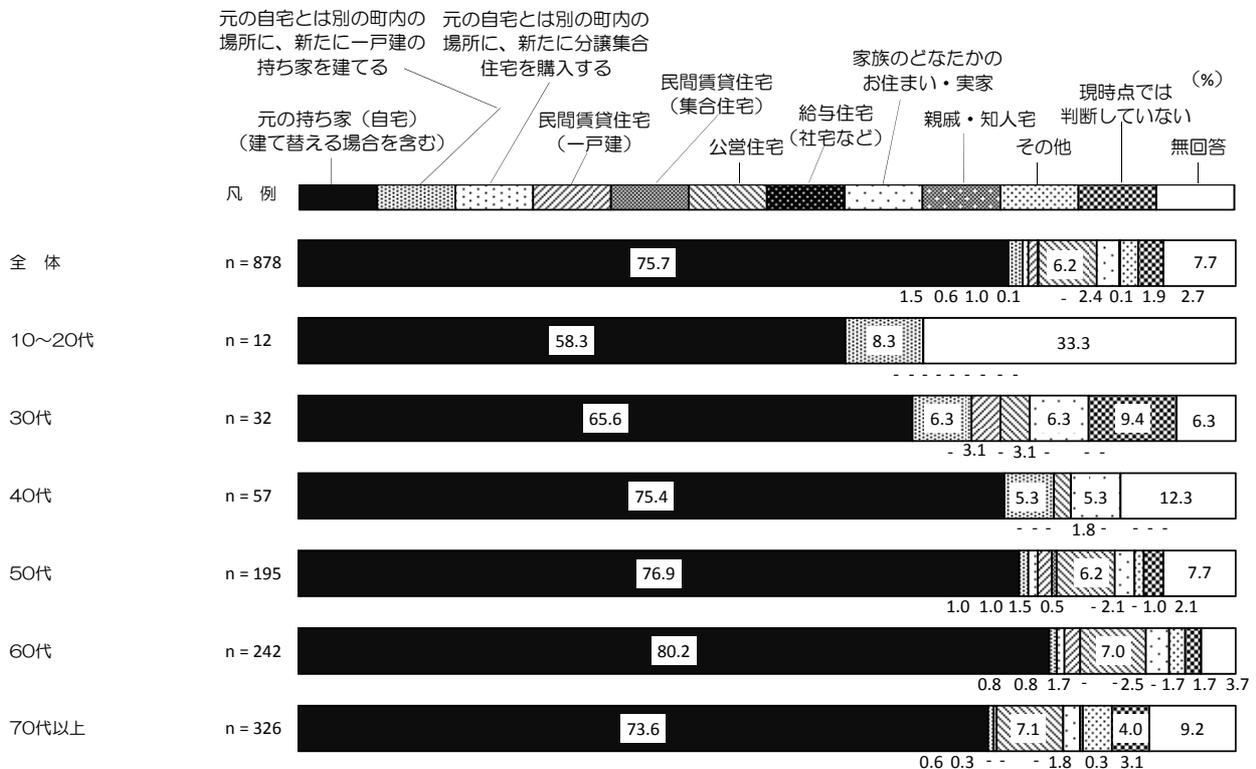
檜葉町に帰町した場合の住居形態(予定)は、「元の持ち家(自宅)(建て替える場合を含む)」が75.7%となっており、他の住居形態(予定)は概ね1割前後である。

世帯主の年齢別にみると、いずれの年齢も「元の持ち家(自宅)(建て替える場合を含む)」が最も高い。

<図表3-3-8-1 帰還する場合の住居形態>

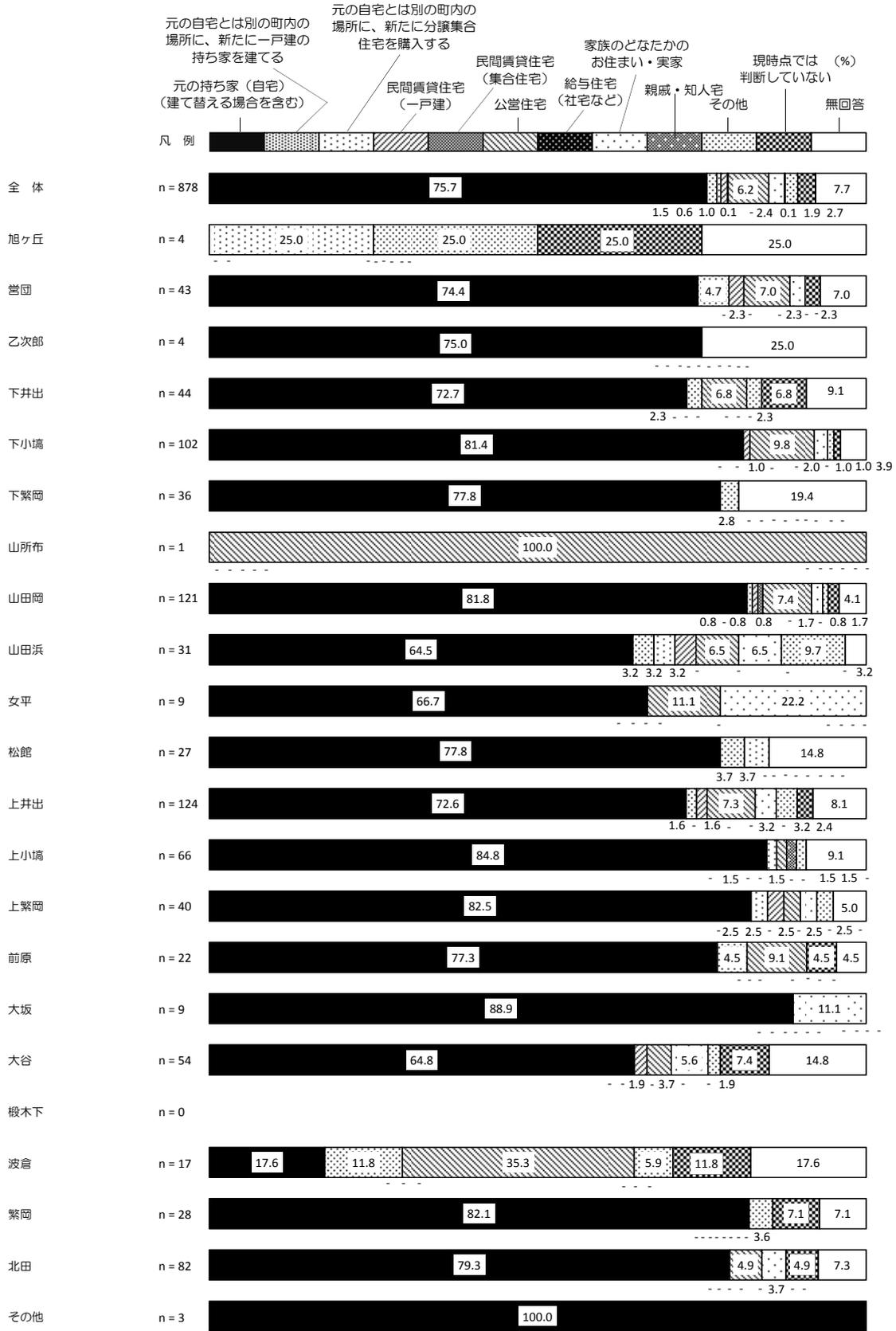


<図表3-3-8-2 帰還する場合の住居形態(世帯主の年齢別)>



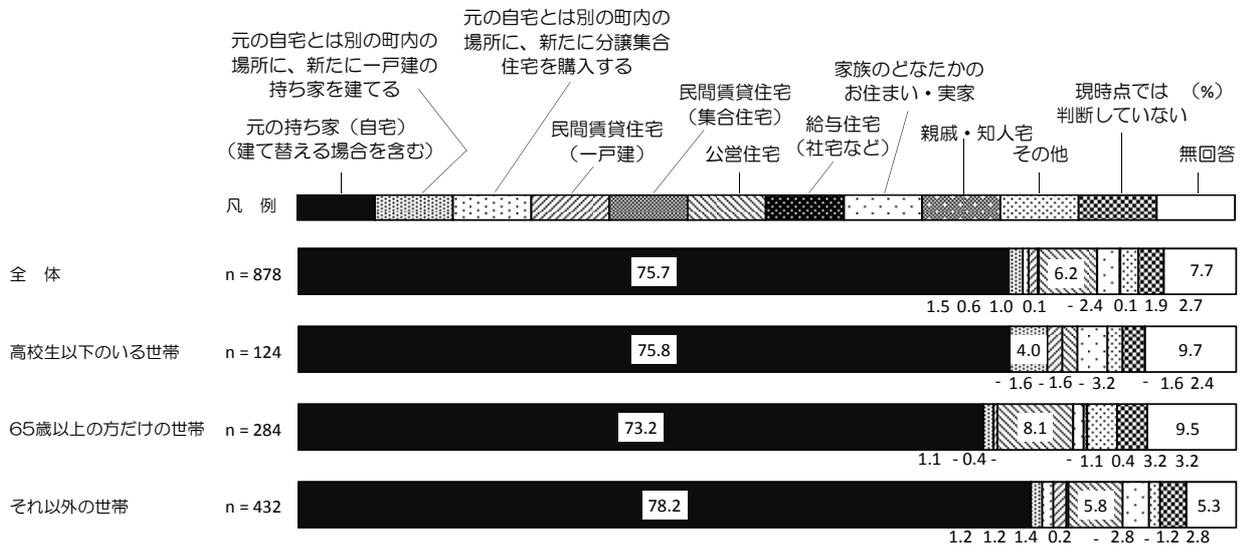
震災発生時の居住行政区別にみると、「元の持ち家（自宅）（建て替える場合を含む）」がいずれの地区でも最も高くなっている。

<図表3-3-8-3 帰還する場合の住居形態（居住行政区別）>



現在の世帯構成別にみると、どの世帯構成においても「元の持ち家（自宅）（建て替える場合を含む）」が特に高く7割を超えている。

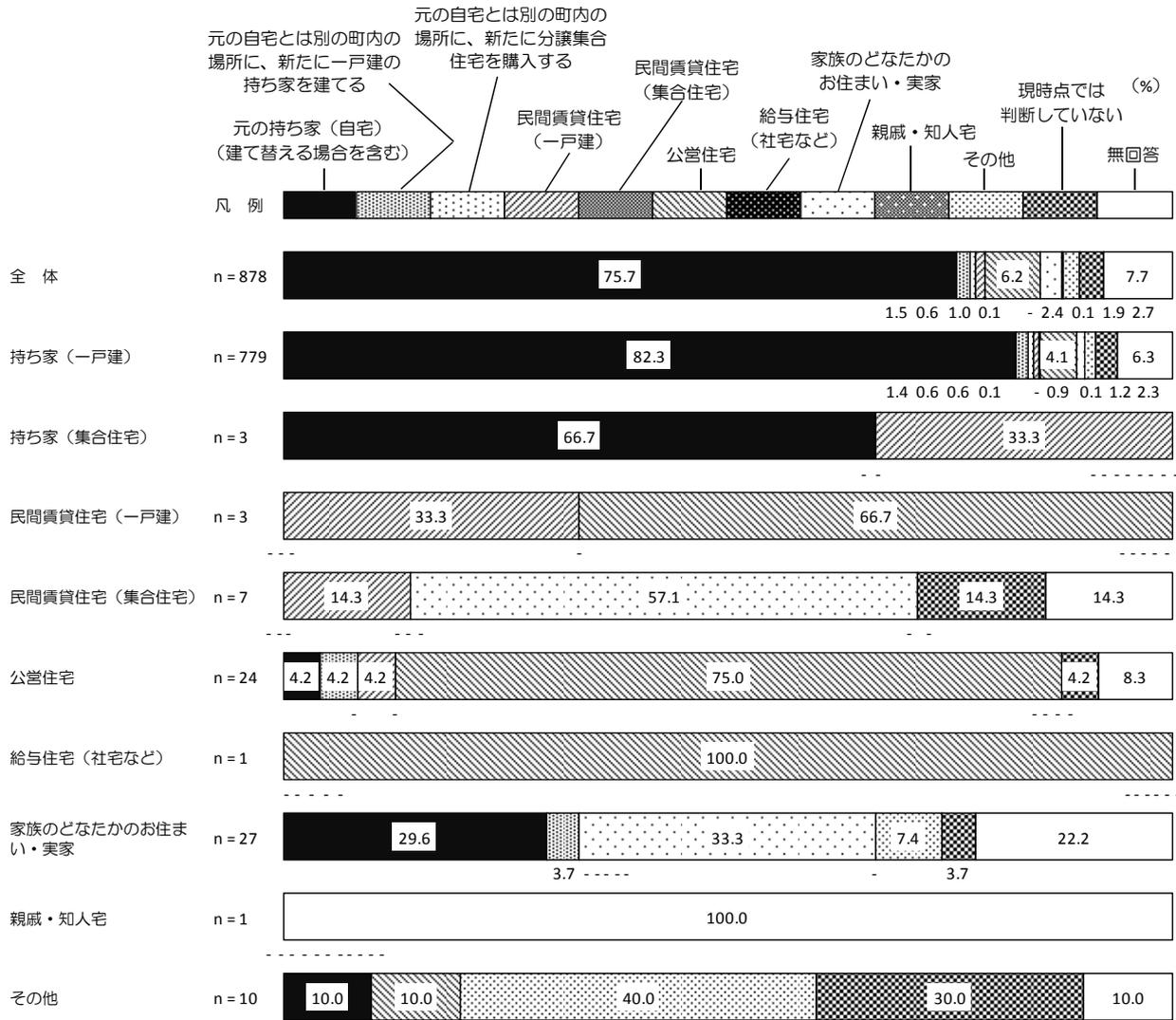
<図表3-3-8-4 帰還する場合の住居形態（現在の世帯構成別）>



III 調査結果

震災発生時の住居形態別にみると、震災当時持ち家（一戸建）の世帯では「元の持ち家（自宅）（建て替える場合を含む）」（82.3%）が8割程度となっている。

＜図表3-3-8-5 帰還する場合の住居形態（震災当時の住居形態別）＞



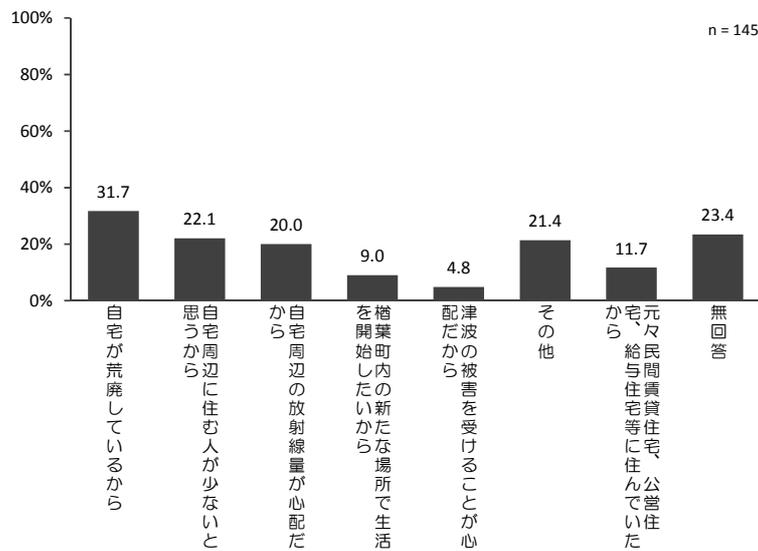
3-3-9 帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由

【問 16 (3) で、「2」～「11」のいずれかを回答した方にうかがいます。】

問 16 (4) 元の持ち家以外をお住まいとされる理由は、何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。(〇はいくつでも)

帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由については、「自宅が荒廃しているから」が 31.7%で最も高く、次いで「自宅周辺に住む人が少ないと思うから」(22.1%)、「自宅周辺の放射線量が心配だから」(20.0%)となっている。

<図表 3-3-9-1 帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由>



Ⅲ 調査結果

<図表3-3-9-2 帰還する場合に元の持ち家以外を希望する理由（居住行政区別）>

(%)

	n	自宅が荒廃しているから	自宅周辺に住む人が少ないと 思うから	自宅周辺の放射線量が心配だ から	播磨町内の新たな場所での生活 を開始したいから	津波の被害を受けることが心 配だから	その他	元々民間賃貸住宅に公営住宅 から給与住宅等に住んでいた から	無回答
全 体	145	31.7	22.1	20.0	9.0	4.8	21.4	11.7	23.4
旭ヶ丘	3	66.7	66.7	33.3	33.3	-	-	-	33.3
嘗岡	8	-	12.5	25.0	12.5	-	25.0	37.5	-
乙次郎	-	-	-	-	-	-	-	-	-
下井出	8	37.5	-	25.0	-	-	12.5	25.0	25.0
下小墾	15	40.0	33.3	6.7	6.7	-	20.0	20.0	13.3
下繁岡	1	-	100.0	100.0	-	-	-	-	-
山所布	1	-	-	-	-	-	100.0	-	-
山田岡	17	23.5	5.9	5.9	5.9	-	23.5	23.5	41.2
山田浜	10	10.0	20.0	-	10.0	20.0	40.0	-	40.0
女平	3	66.7	33.3	33.3	-	-	-	-	33.3
松館	2	50.0	100.0	50.0	-	-	-	-	-
上井出	24	33.3	12.5	12.5	8.3	-	33.3	16.7	16.7
上小墾	4	50.0	-	-	-	-	50.0	-	25.0
上繁岡	5	40.0	40.0	60.0	20.0	-	-	-	20.0
前原	4	25.0	25.0	-	25.0	75.0	25.0	-	-
大坂	1	100.0	-	100.0	-	-	-	-	-
大谷	11	18.2	18.2	18.2	9.1	-	27.3	9.1	36.4
櫛木下	-	-	-	-	-	-	-	-	-
波倉	11	36.4	45.5	36.4	18.2	18.2	9.1	-	9.1
繁岡	3	33.3	33.3	66.7	-	-	-	-	33.3
北田	11	45.5	27.3	36.4	-	-	9.1	-	36.4
その他	-	-	-	-	-	-	-	-	-

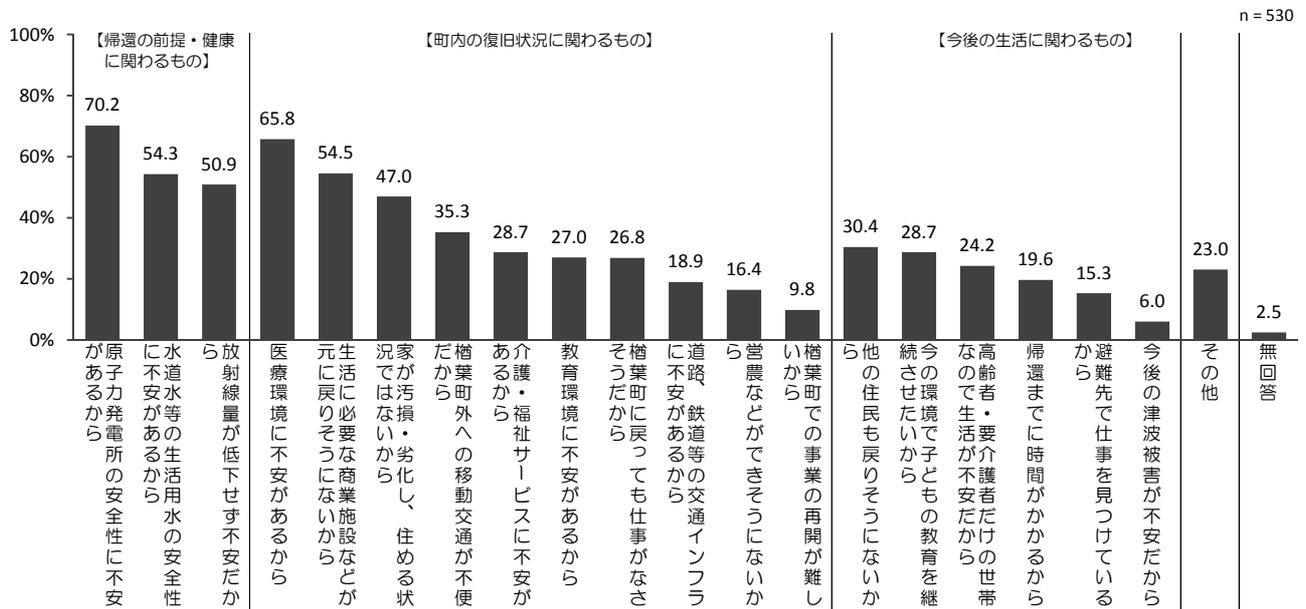
3-3-10 現時点で戻らないと決めている理由

【問 13 で「3. 榎葉町には戻らない」と回答した方にうかがいます。】

問 17 (1) 榎葉町に戻らないと決めている理由はどのようなことですか (〇はいくつでも)

現時点で戻らないと決めている理由は、帰還の前提・健康にかかわるものについては「原子力発電所の安全性に不安があるから」が70.2%と最も高く、次いで「水道水等の生活用水の安全性に不安があるから」が54.3%となっている。町内の復旧状況に関わるものについては「医療環境に不安があるから」が65.8%、「生活に必要な商業施設などが元に戻りそうにないから」が54.5%となっている。今後の生活に関わるものについては、「他の住民も戻りそうにないから」が30.4%と最も高く、次いで「今の環境で子どもの教育を継続させたいから」が28.7%となっている。

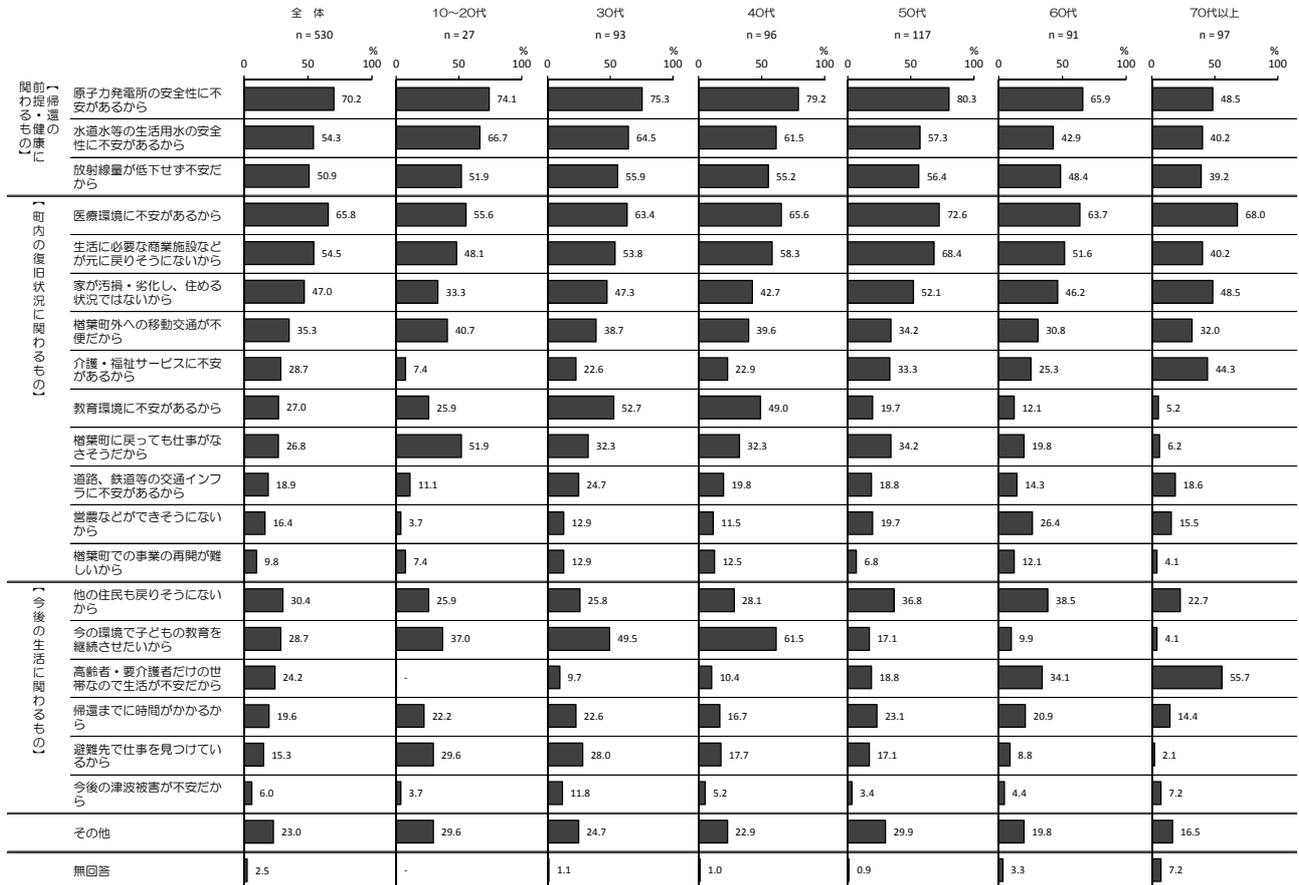
<図表3-3-10-1 現時点で戻らないと決めている理由>



Ⅲ 調査結果

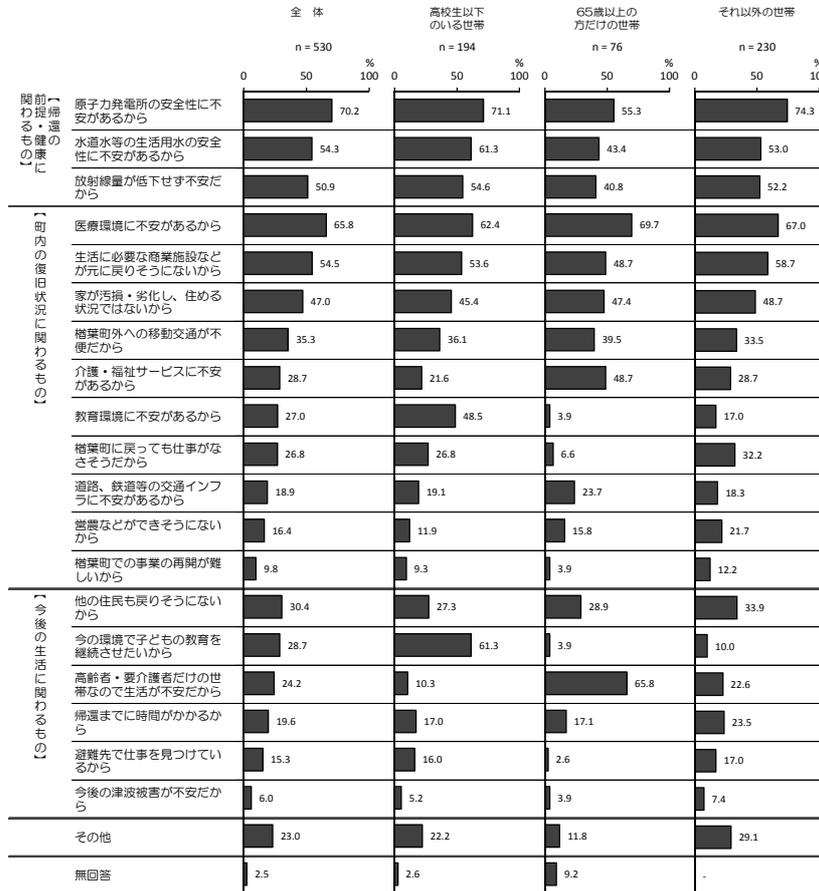
世帯主の年齢別にみると、30代は「教育環境に不安があるから」(52.7%)、40代は「教育環境に不安があるから」(49.0%)、「今の環境で子どもの教育を継続させたいから」(61.5%)、50代は「生活に必要な商業施設などが元に戻りそうにないから」(68.4%)、60代は「営農などができそうにないから」(26.4%)、70代以上は「高齢者・要介護者だけの世帯なので生活が不安だから」(55.7%)が他の年代と比べ大きく上回っている。

＜図表3-3-10-2 現時点で戻らないと決めている理由（世帯主の年齢別）＞



現在の世帯構成別では、高校生以下のいる世帯で「教育環境に不安があるから」(48.5%)、「今の環境で子どもの教育を継続させたいから」(61.3%)、65歳以上の方だけの世帯で「介護・福祉サービスに不安があるから」(48.7%)、「高齢者・要介護者だけの世帯なので生活が不安だから」(65.8%)が他の世帯構成と比べ高くなっている。

<図表3-3-10-3 現時点で戻らないと決めている理由(現在の世帯構成別)>



3-3-11 帰還しない場合に居住したい自治体

【問 13 で「3.榎葉町には戻らない」と回答した方にうかがいます。】

問 17 (2) 現在避難している自治体にそのまま居住される予定ですか。

(1) 帰還しない場合の居住予定

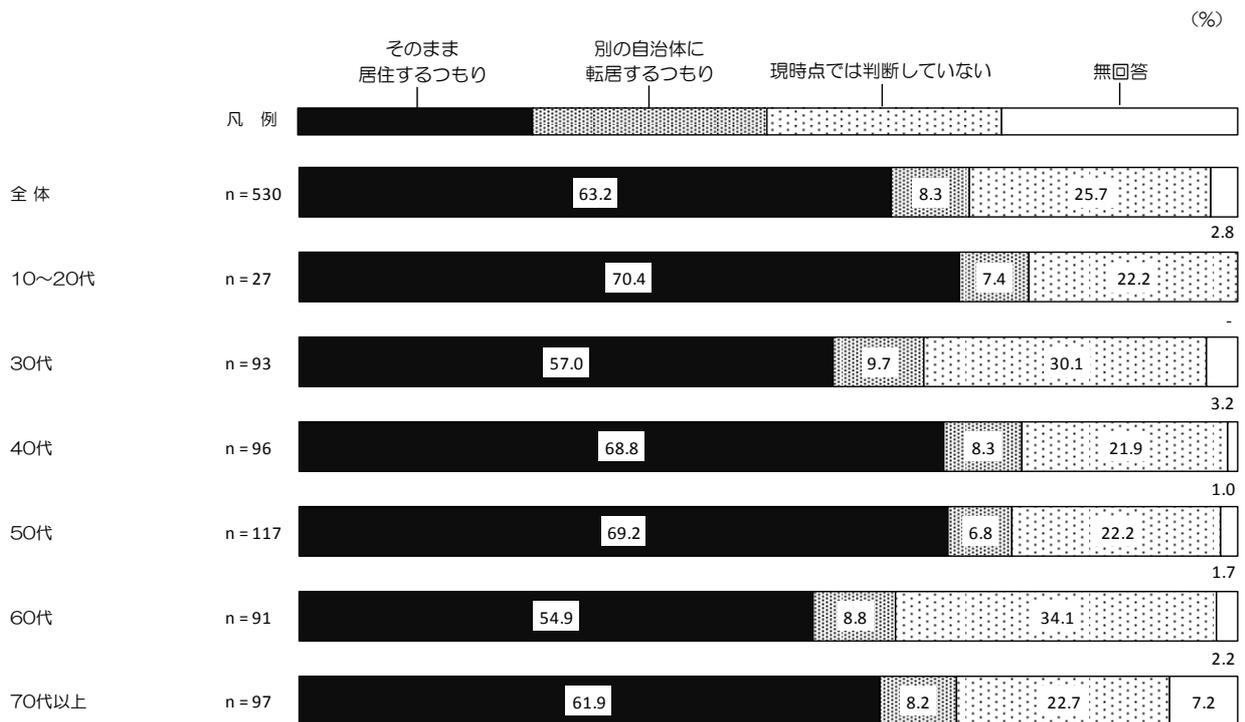
帰還しない場合の居住予定について、避難先に「そのまま居住するつもり」が 63.2%、「別の自治体に転居するつもり」が 8.3%、「現時点では判断していない」が 25.7%となっている。

世帯主の年齢別にみると、どの年代も「そのまま居住するつもり」が最も高いが、60代では「現時点では判断していない」(34.1%) が他の年代と比べて高くなっている。

<図表3-3-11-1 帰還しない場合に居住したい自治体>

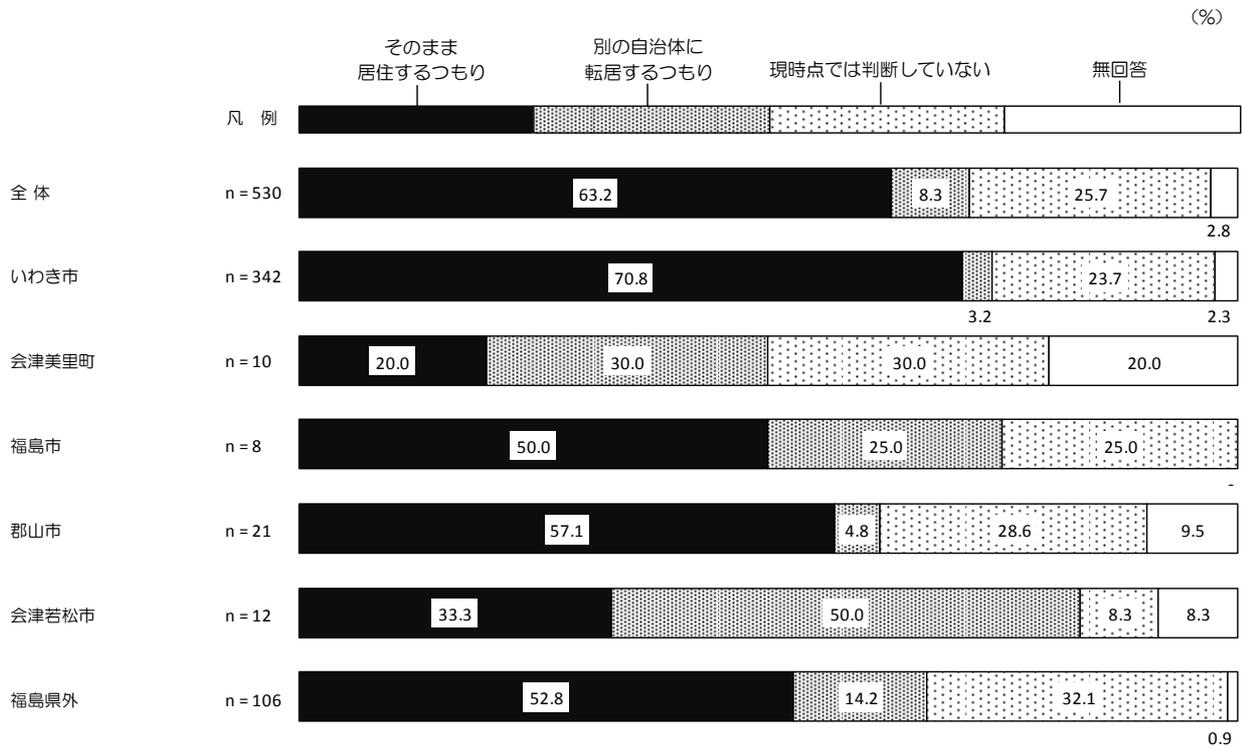


<図表3-3-11-2 帰還しない場合に居住したい自治体(世帯主の年齢別)>



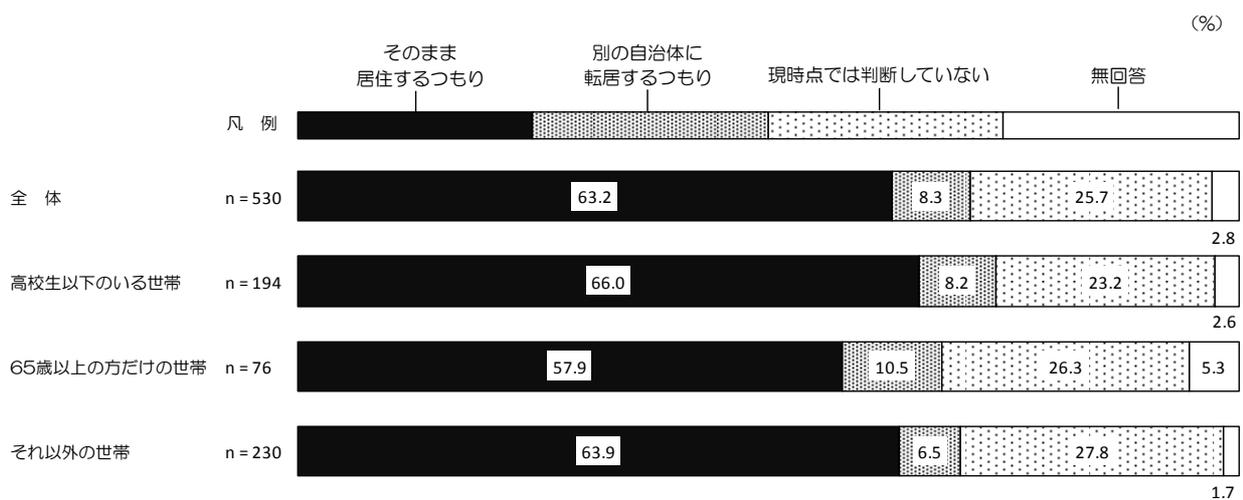
避難先自治体別でみると、いわき市では「そのまま居住するつもり」が70.8%と最も高い。

<図表3-3-1 1-3 帰還しない場合に居住したい自治体（主な避難先自治体別）>



現在の世帯構成別では、高校生以下のいる世帯で「そのまま居住するつもり」(66.0%)、65歳以上の方だけの世帯で「別の自治体に転居するつもり」(10.5%)が他の世帯構成と比べ高くなっている。

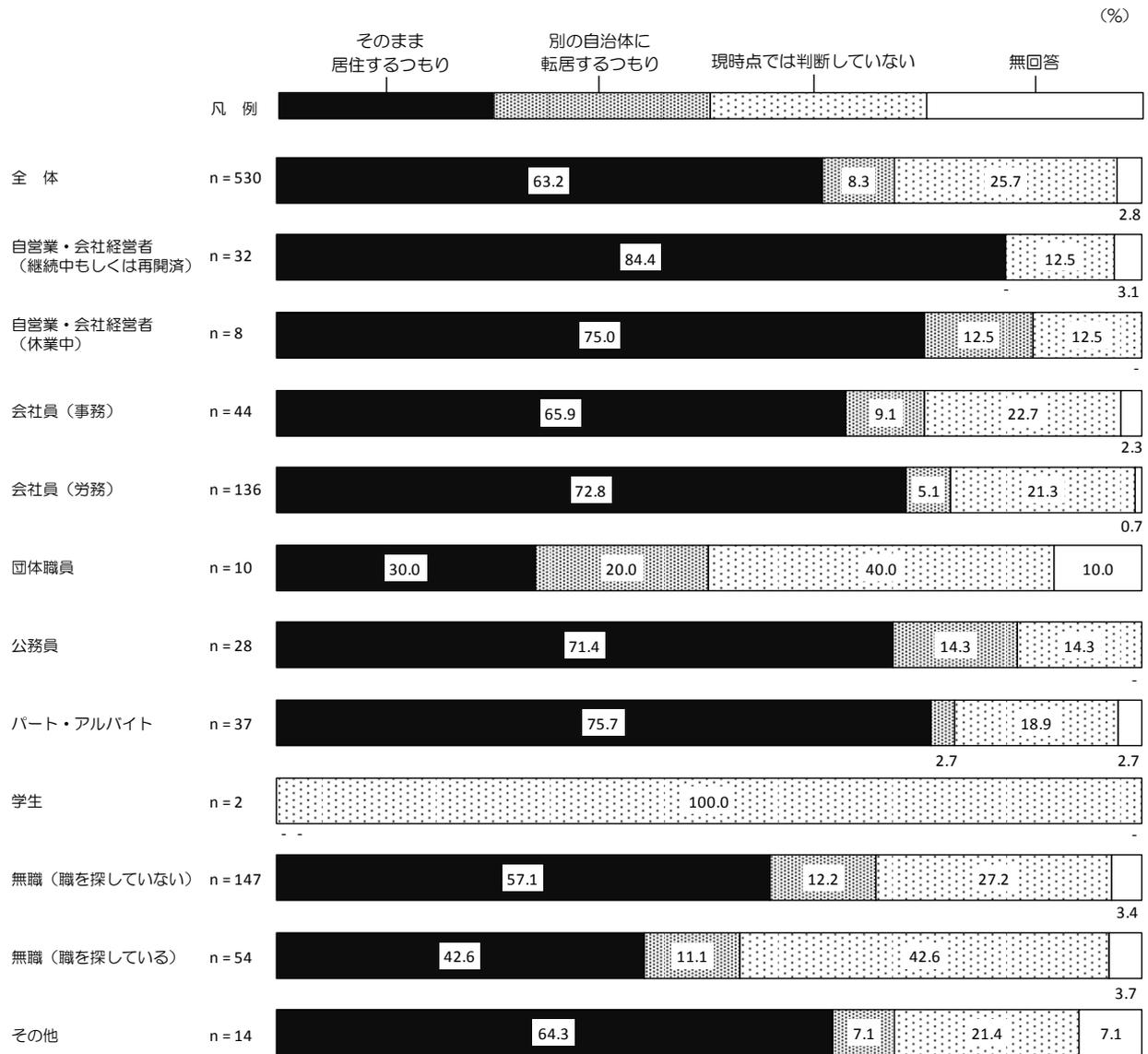
<図表3-3-1 1-4 帰還しない場合に居住したい自治体（現在の世帯構成別）>



III 調査結果

現在の職業別にみると、「そのまま居住するつもり」は、自営業・会社経営者（継続中もしくは再開済）は84.4%と最も高くなっており、会社員（労務）、パート・アルバイトでは7割を超えている。

<図表3-3-11-5 帰還しない場合に居住したい自治体（現在の就業形態別）>



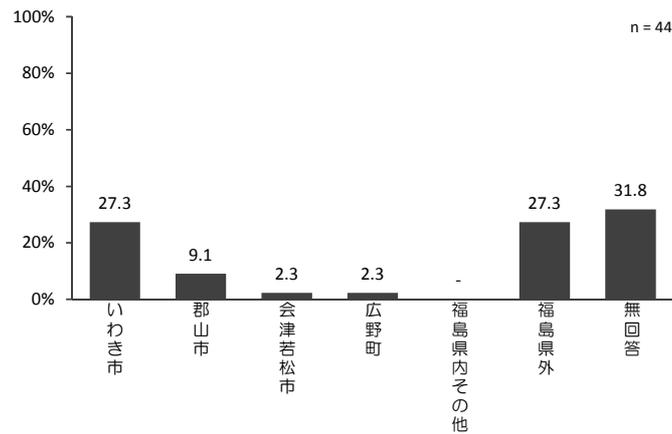
(2) 転居を希望する自治体

【問 13 で「3.楢葉町には戻らない」と回答した方にうかがいます。】

問 17 (2) 転居先として想定されている自治体名をご記入ください。

帰還しない場合に居住したい自治体は、「いわき市」と「福島県外」が 27.3%と最も高く、次いで「郡山市」が 9.1%となっている。

<図表3-3-1 1-6 転居を希望する自治体>



<図表3-3-1 1-7 転居を希望する自治体（主な避難先自治体別）>

(%)

	n	いわき市	郡山市	会津若松市	広野町	福島県内その他	福島県外
全体	44	27.3	9.1	2.3	2.3	-	27.3
いわき市	11	-	-	9.1	9.1	-	18.2
会津美里町	3	33.3	33.3	-	-	-	-
福島市	2	100.0	-	-	-	-	-
郡山市	1	-	-	-	-	-	100.0
会津若松市	6	50.0	16.7	-	-	-	-
福島県外	15	33.3	-	-	-	-	46.7

<図表3-3-11-8 転居を希望する自治体（現在の世帯構成別）>

(%)

	n	いわき市	郡山市	会津若松市	広野町	福島県内その他	福島県外
全 体	44	27.3	9.1	2.3	2.3	-	27.3
高校生以下のいる世帯	16	31.3	6.3	6.3	-	-	25.0
65歳以上の方だけの世帯	8	25.0	12.5	-	-	-	25.0
それ以外の世帯	15	26.7	6.7	-	6.7	-	33.3

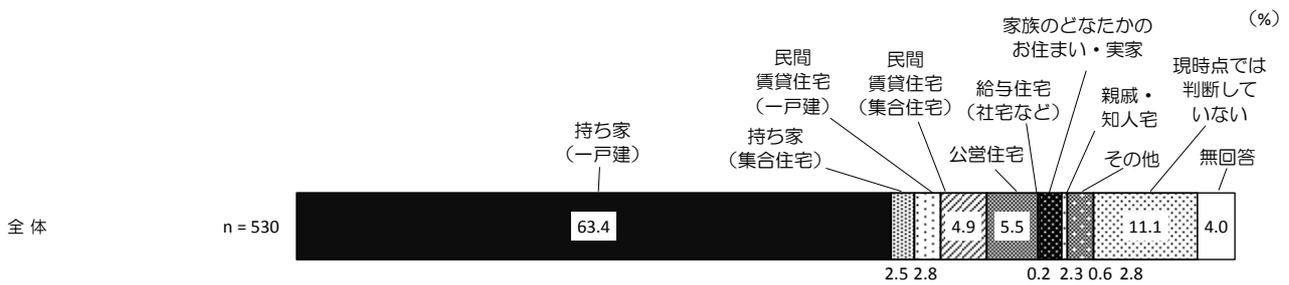
3-3-12 帰還せず別の自治体に転居する場合の住居形態

【問 13 で「3.榎葉町には戻らない」と回答した方にうかがいます。】

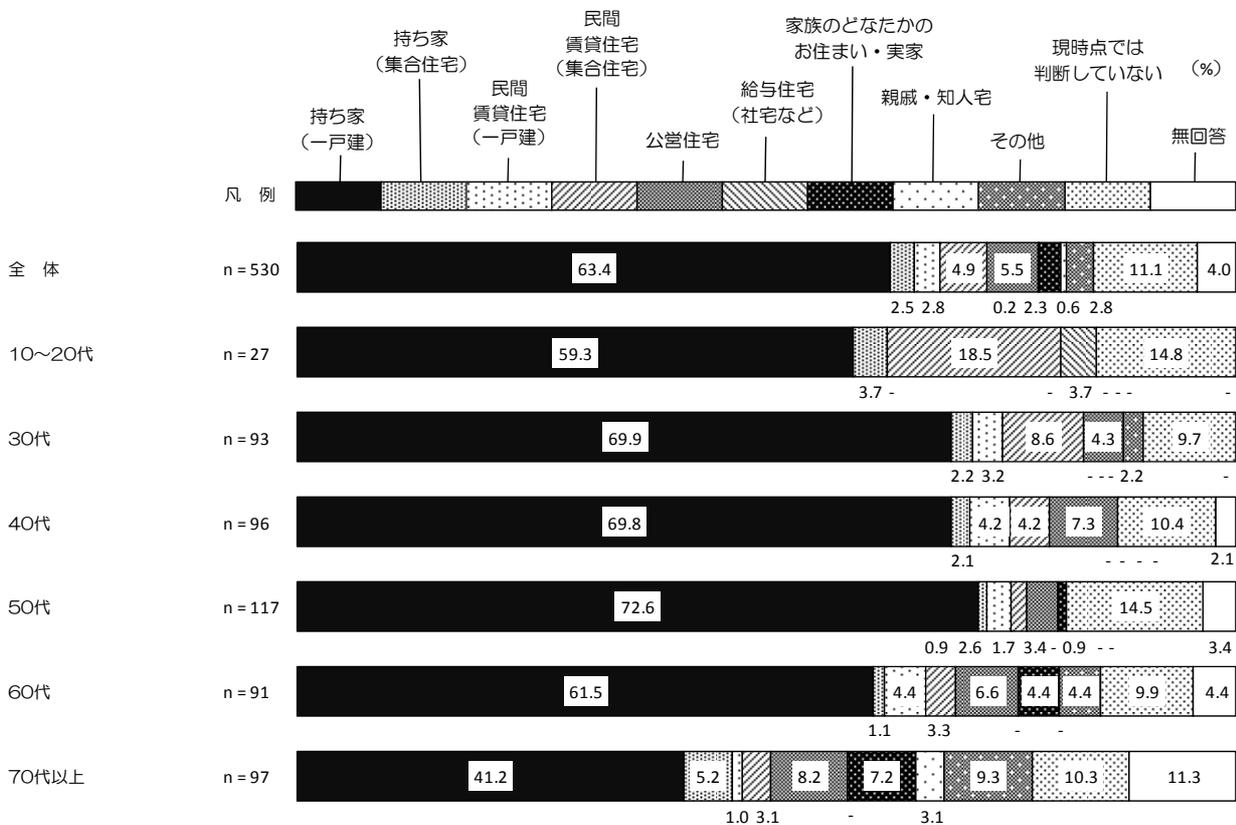
問 17 (3) 今後希望する住宅はどのような形態ですか。(〇は1つ)

帰還せず別の自治体に転居する場合の住居形態について、「持ち家（一戸建）」が63.4%を占めている。世帯主の年齢別にみると、「持ち家（一戸建）」は30代、40代、50代ではおよそ7割となっており、他の年齢と比べ高くなっている。

＜図表3-3-12-1 帰還せず別の自治体に転居する場合の住居形態＞

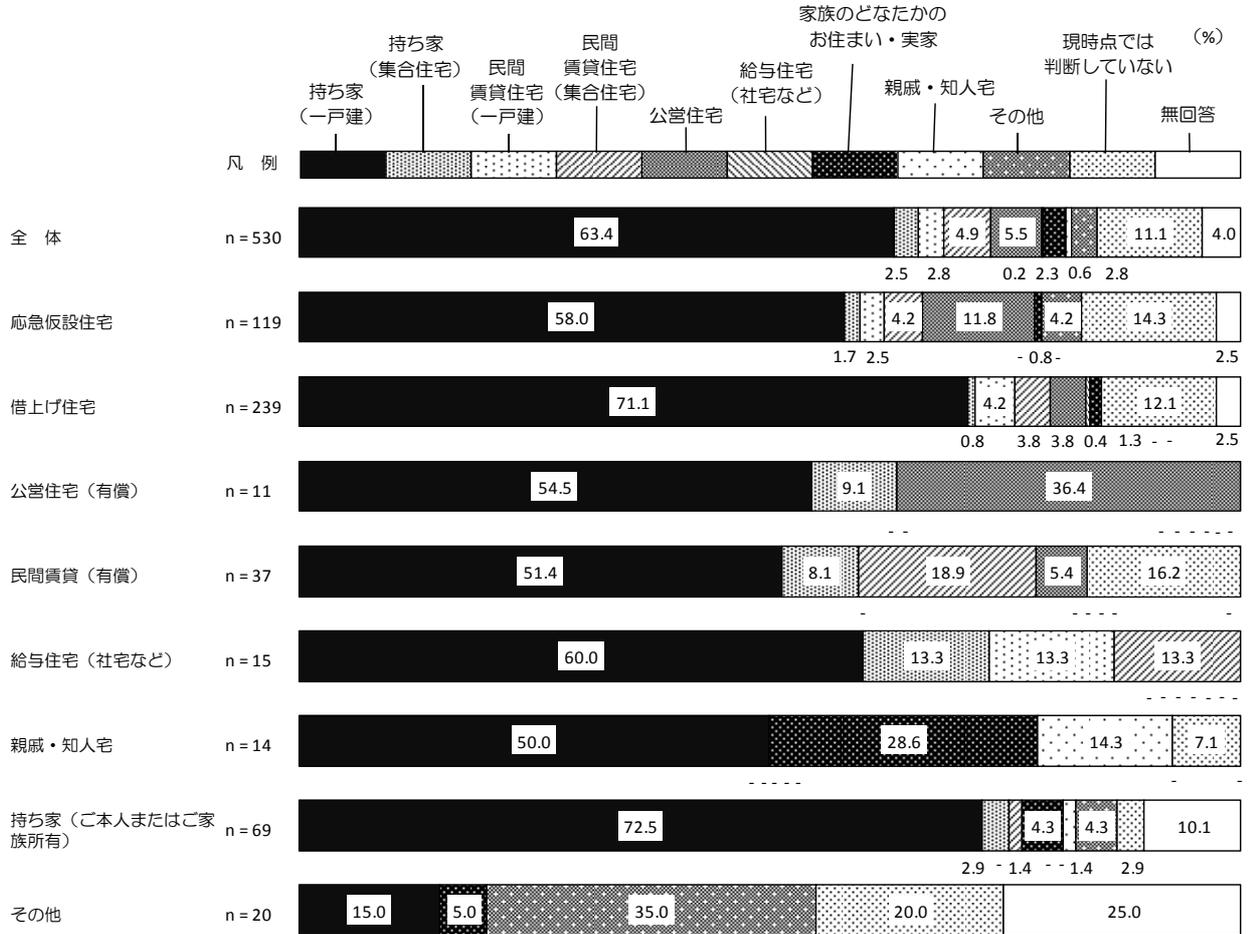


＜図表3-3-12-2 帰還せず別の自治体に転居する場合の住居形態（世帯主の年齢別）＞



現在の住居形態別でみると、いずれも「持ち家（一戸建）」の割合が最も高くなっている。

<図表3-3-1 2-3 帰還せず別の自治体に転居する場合の住居形態（現在の住居形態別）>



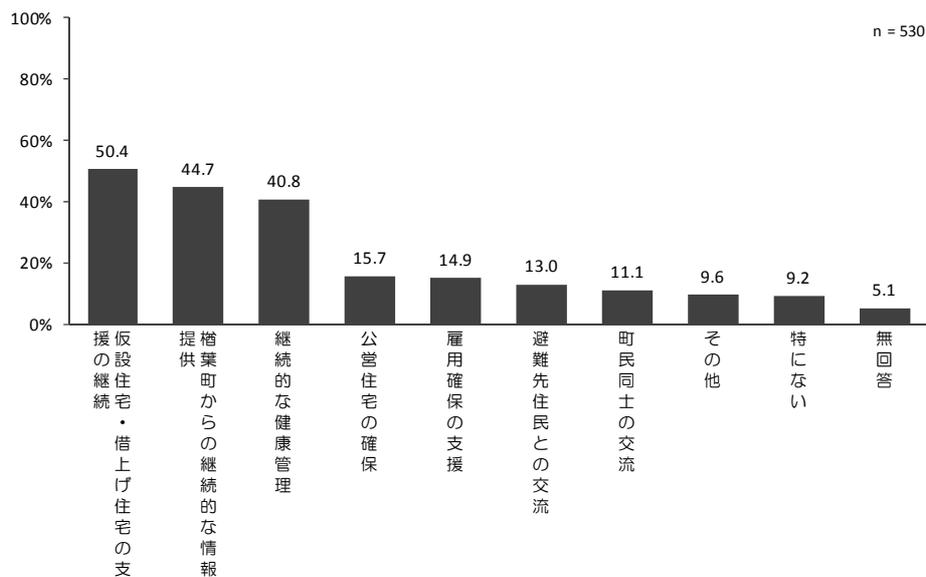
3-3-13 帰還しない場合に今後の生活において求める支援

【問 13 で「3.榎葉町には戻らない」と回答した方にうかがいます。】

問 17 (4) 今後の生活においてどのような支援を求めますか。(〇はいくつでも)

帰還しない場合に今後の生活に求める支援は、「仮設住宅・借上げ住宅の支援の継続」が 50.4%で最も高く、次いで「榎葉町からの継続的な情報提供」が 44.7%、「継続的な健康管理」が 40.8%となっている。

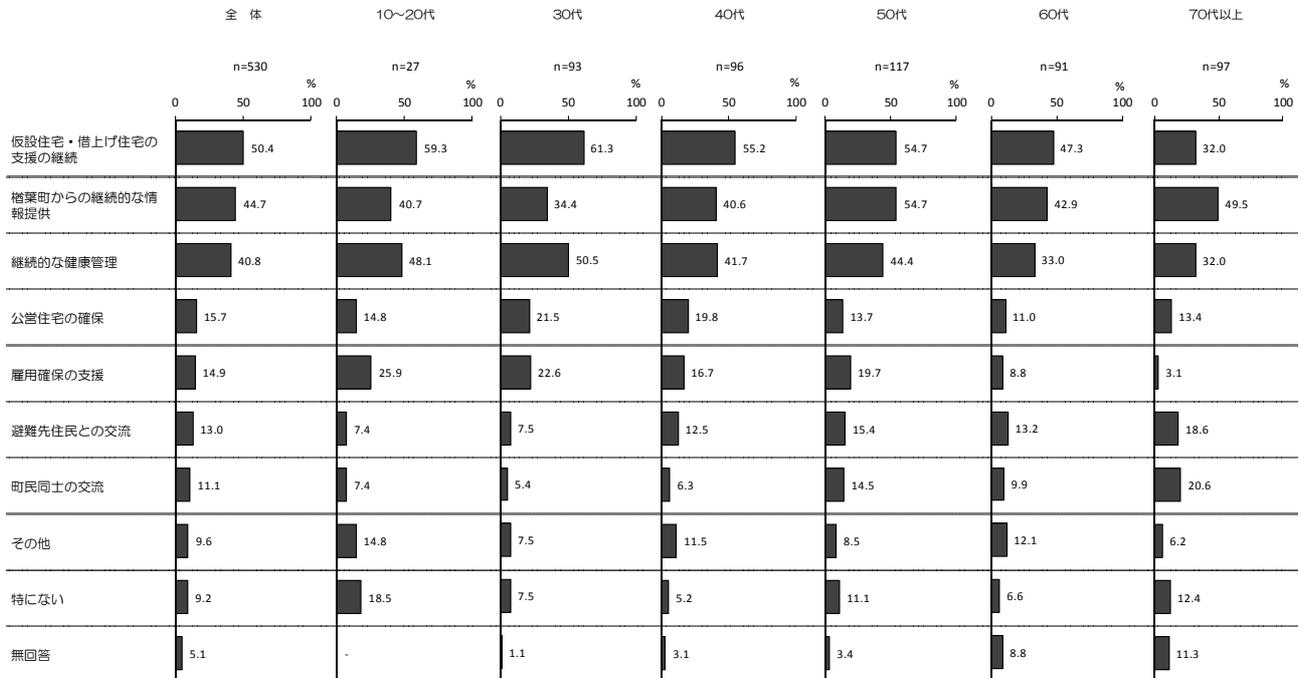
<図表3-3-13-1 帰還しない場合に今後の生活において求める支援>



III 調査結果

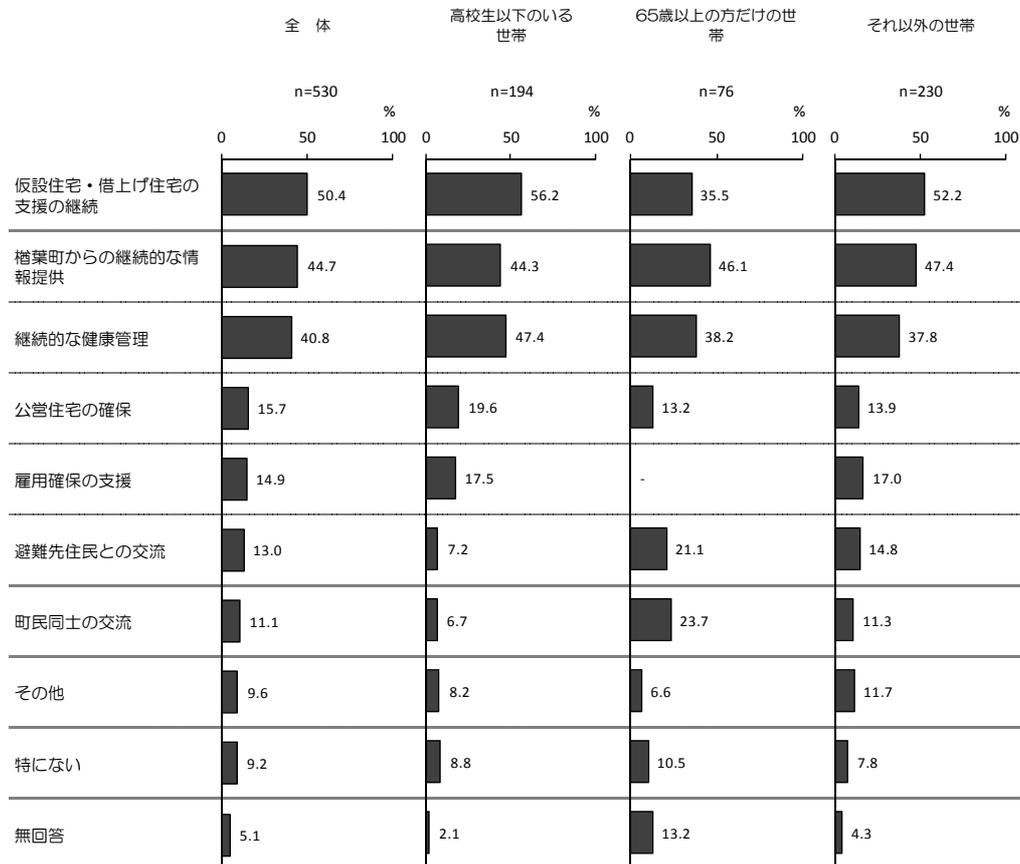
世帯主の年齢別にみると、「仮設住宅・借上げ住宅の支援の継続」は30代では61.3%、「檜葉町からの継続的な情報提供」は50代では54.7%、「継続的な健康管理」は30代では50.5%となっており他の年齢に比べ高くなっている。

<図表3-3-1 3-2 帰還しない場合に今後の生活において求める支援（世帯主の年齢別）>



現在の世帯構成別にみると、「仮設住宅・借上げ住宅の支援の継続」は高校生以下のいる世帯では56.2%、それ以外の世帯では52.2%、「継続的な健康管理」は高校生以下のいる世帯では47.4%で他の世帯構成と比べ高くなっている。また、65歳以上の方だけの世帯では「町民同士の交流」が23.7%、「避難先住民との交流」が21.1%で他の世帯構成と比べ高くなっている。

<図表3-3-1 3-3 帰還しない場合に今後の生活において求める支援（現在の世帯構成別）>



3-4 意見・要望

問 22 復興に対して、日頃お感じになっているお気持ちや今後のあなたの展望などを自由にお書きください。

国や自治体への要望、復興に対する展望や気持ちなどについて、1,197 世帯から回答があった。ここでは、記入された回答を下記項目に分類し、代表的なものを抜粋して掲載する。

<p>●生活について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難生活の長期化への不安 ・元の生活が取り戻せるかどうかの不安 ・元の生活、安定した生活の回復 ・元の生活に戻ることにあきらめ ・現在の生活の経済的な不安について ・現在の生活の健康に関する不安について ・現在の生活の仕事・学業に関する不安について ・その他現在の生活の不安について ・将来の生活の経済的な不安について ・将来の生活の健康に関する不安について ・将来の生活の仕事・学業に関する不安について ・その他将来の生活の不安について ・生活（再建）支援について ・その他 	<p>●除染について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・除染作業の意義について ・除染作業にかかる費用の他への活用について ・除染作業の効果などについて ・除染作業の実施箇所などについて ・除染作業の早期・迅速・的確な実施について ・除染作業スケジュール明確化について ・中間貯蔵施設について ・その他
<p>●震災発生前の居住地について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帰還困難区域への立入りについて ・帰還困難区域等の設定について ・所有する住まい・土地の買取りについて ・自宅の現状（被害状況）について ・自宅の再建・改築・解体について ・その他 	<p>●復旧・復興について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復旧・復興の遅れ、長期化について ・復旧・復興スケジュールについて ・復旧・復興の進め方（地域の開発、再編、その他）について ・町村合併について ・ライフライン・インフラの整備について ・社会福祉施設の整備について ・住民の参加・自助努力について ・早期の原状回復・復興実現について ・その他
<p>●賠償について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・賠償内容・方法について ・賠償の取り組みの迅速化、方針やスケジュール明確化について ・その他所有する住まい・土地に対する賠償について ・その他 	<p>●原発の安全性について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・廃炉作業の迅速な実施について ・その他廃炉作業について ・その他
<p>●帰還について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帰還への不安 ・帰還可能時期の明確化について ・帰還したい ・帰還しない ・帰還に関する施策について ・帰還を望まない人への対応について ・その他 	<p>●原発事故に対する対応について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政や東電の対応について ・対応の長期化、遅れについて ・情報の開示・発信について ・中長期的スケジュールについて ・その他
<p>●避難期間中及び将来の住宅について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復興公営住宅の早期・迅速な建設について ・復興公営住宅の建設地・形態等について ・復興公営住宅に係る経済的負担について ・復興公営住宅入居が可能かどうかの不安 ・復興公営住宅への入居について ・居住場所の確保について ・借上げ住宅について ・その他 	<p>●その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後のエネルギー政策について ・行政に対する謝意、励まし ・その他

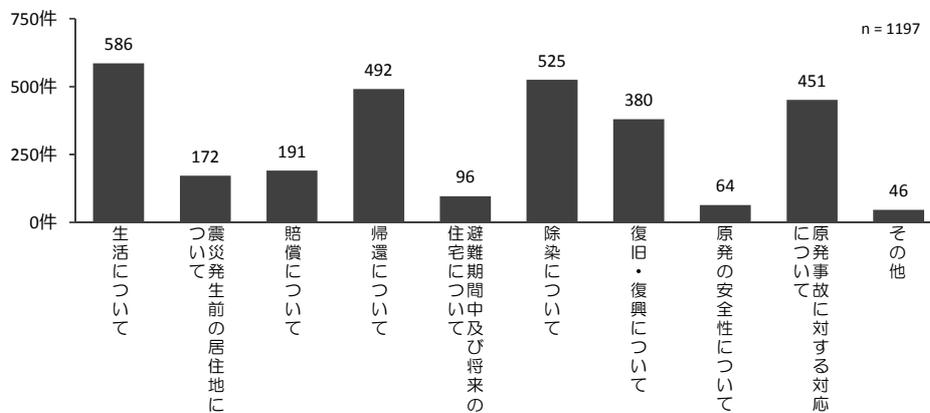
※掲載する文章は原文を基本とするが、固有名詞が含まれている場合や長文の場合などは、一部省略している。

※一世帯の回答の内容が、複数のテーマにわたる場合は、それぞれの項目へ分類している。

まず、10の大項目についての、分類結果は下図のとおりとなった。

「生活について」が586件と最も多く、次いで「除染について」が525件、「帰還について」が492件などとなっている。

<図表3-4-1 意見に係る記入内容の分類結果>

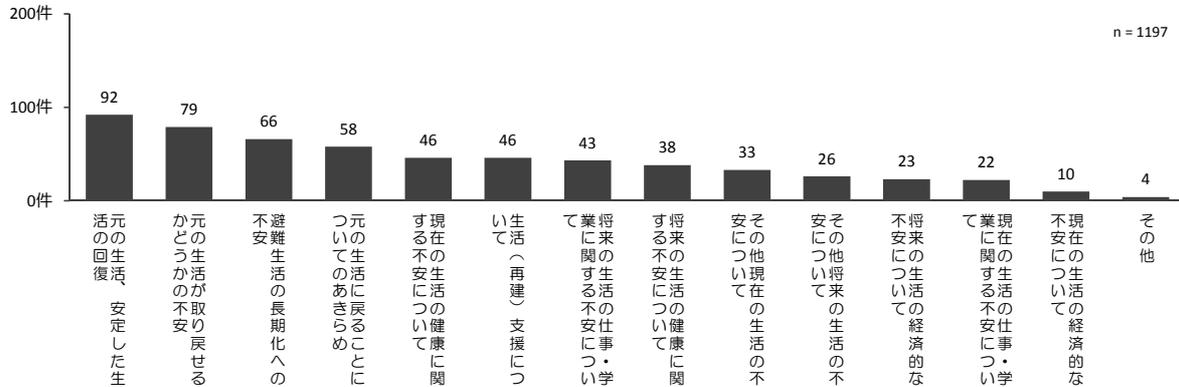


III 調査結果

(1) 生活について

生活についての具体的な意見としては、部屋の狭さなどの「元の生活、安定した生活の回復」が 92 件と最も多く、次いで「元の生活が取り戻せるかどうかの不安」が 79 件、「避難生活の長期化への不安」が 66 件などとなっている。

＜図表3-4-2 生活についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【元の生活、安定した生活の回復】

- 避難の為、生活の基盤を失われた事は承知して頂いている事と思います。再就職のむずかしい年令である事を察して頂き、帰還後の生活への不安を感じます。65才まで働こうとしていた矢先の出来事。現在56才、どうする事も出来ない状況です。賠償問題等、東京電力との交渉を自治体に委ねる。放射線量が下がったから、帰還する？＝生活の基盤を元に戻してほしい。元の生活より上は望みません。元の生活がほしい。(50代)
- 震災から三年になろうとしていますが、精神的にも特に肉体的な衰えが目立つようになって来ました。檜葉に居れば人間的な交流の場もあったし運動もやる機会が多くあり、ある面充実した生活を送っていた様な気がしています。一日も早い帰町を願っています。(70代以上)
- なるべく自分の町に帰り近所の人達と今まで通り毎日を送らせたいと考えている 家もいたみがすごいので高齢者でもあり復興の集合住宅等をつくってもらい、入居できたらと考えている。(70代以上)
- 事故の万般にわたる迅速な安全対策により、以前の様な古里での生活を願望します。(70代以上)

【元の生活が取り戻せるかどうかの不安】

- ここで子供を育てようと思っていたので残念です。似たような土地を探すのは大変ですが、探せばあるでしょう。檜葉町の復興については、急いで雑な形でしても、ひずみがでると思います。自然の浄化（山の自然な浄化）の速度にあわせ、もう少しじっくりと、腰をすえてやるのが、町への信頼へとつながり、人々が戻ってくるような気持ちになるのではと考えます。(10代～20代)
- 町が復興に向かって取り組んでいる中で、私たちも一緒に努力していきたいとは思っていますが、今の生活で精一杯です。1年後どうなっているのか、自分はどうしたいのか、自分でも分からない現状です。(10代～20代)
- 檜葉に帰るたびに、たんぼや、学校まわりが黒いコンベックスの山で気分がめいらいます。お店をしていた友人も、檜葉へはもどらないと常々言っているので、帰ることになっても、スーパーがなくて、こまるし病院が、すくなくてもこまるし（心配だし）、逆に子供達の学校が遠くになってしまうのも…経済的にどちらでも。半々な気持ちで生活をきづいてしまったので、どうしたらいいかわかりません。日々、また地震が来るたび、原子力を思いうかべるのもこわいです。とにかく、今は、ないものばかりで、心配がつきません。(30代)

〔避難生活の長期化への不安〕

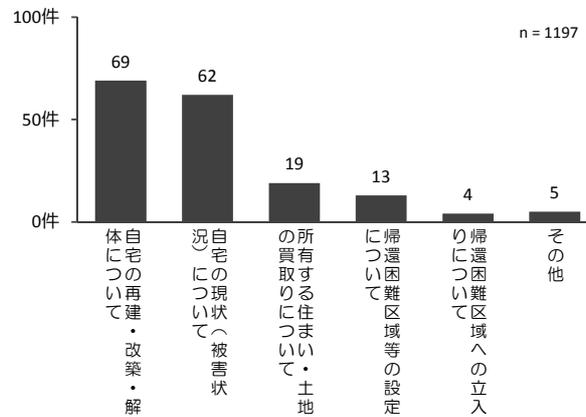
- 今、現在の生活、つまり足もと（住居）がきちんと定まらない生活が、今後どれくらい続くのか？そのときまでの時間も、私達の人生の大切な時間です。次へのステップをどう踏めばいいのかも迷います。（40代）
- 生活・居住が震災以外の原発災害により、多くの無形・有形の財産と生活設計がうばわれ、今後の生活の見通しが立たない状況であり、将来をどう考えて良いかわからない。（50代）
- 先が見えないのでとても不安！檜葉に帰っても年齢が高くなるので仕事があるかどうか不安！若い人が帰ってこないのではどのように生計を立てていけば良いか。（50代）
- 先が見えないわからない状態です。年が老いているばかりです。一日々生活が出来れば良いと思っています。（60代）

Ⅲ 調査結果

(2) 震災発生前の居住地について

震災発生前の居住地についての具体的な意見としては、「自宅の再建・改築・解体について」が69件と最も多く、次いで「自宅の現状（被害状況）について」が62件、「所有する住まい・土地の買取りについて」が19件などとなっている。

＜図表3-4-3 震災発生前の居住地についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

[自宅の再建・改築・解体について]

- 借りていた家は取り壊しにするとの連絡がありました。毎週片づけに檜葉と埼玉を往復しています。ネズミの被害もひどく、なかなか片づけが進みません。体力面も精神面も限界です。東京電力の方のお手伝いをまわっているところですが、自分の順番が来る前に倒れそうです。いったいだれがこの苦しみをすくってくれるのでしょうか。（40代）
- 離れていた期間中の居住地の荒れ、劣化、ねずみ等の被害により、屋内外がボロボロの状態、定期的に清掃、整理しても、また同じ状態のくり返しで、いっそ解体、撤去したいのだが、金銭面の問題や委託する業者等の確保が中々出来ない状態です。私の場合は、母を介護している状態なので自由に動き回る事が容易でない状態なので、仕事も中々できず、今後どうすれば良いか、本当、深刻に考えている所です。（40代）
- 住民が戻らなければ町の復興は難しいと思われる。戻るにしても、住宅の整備が先決となるが、いつ業者に頼むか判断がつかない。仮りに帰還宣言後に業者に依頼しても、順番待ちを考えなければならないと思っている。また、住宅の修繕を決めたとしても、現在のような通行規制が時除されない限り、避難先と自宅を行き来するのは時間的にも経済面からも負担が大きすぎるため思案しているのが現状である。（60代）
- 防犯上、安全面からも空家、廃家等は持主の希望をとり、復興予算で早期に解体処分すべきと思います。（60代）

[自宅の現状（被害状況）について]

- 檜葉の自宅は地震の被害もありましたが、住めないほどではありませんでした。しかし、昨年からネズミの被害がひどく、さまざまな所にネズミの食いちらかした跡やフンの被害があり、同居する両親が土日を利用して地震でズレたサッシの修理や片づけをしています。（40代）
- 自宅は、屋根はくずれ雨漏りし、壁、屋根裏はカビが生え、母屋、離れ、物置など全部修理、修繕しなければ住める状態ではない。今の状況だとまだまだ復興には時間がかかると思う（数年はかかると思う。）（60代）

- 国による除染が行なわれているが、家の内は除染されていない。国に内部も除染してほしい旨言ったが、家の内の賠物が陪浸されているので中はやらないとの事。実際にカベ、床、タタミ、障子、天井等の掃除は各自が行っている状況です。家族で行った除染、掃除等に対し、掛った日数に対し作業員と同等の賃金を支払ってほしい。(60代)

[所有する住まい・土地の買取りについて]

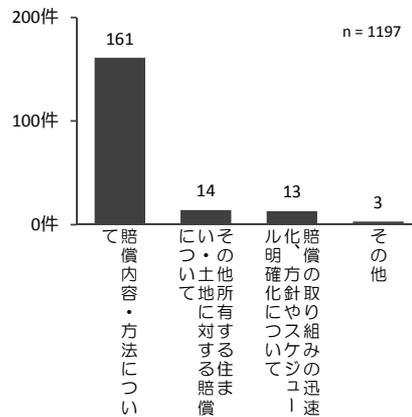
- 檜葉町の家は解体をお願いをしていますが、その後の土地の問題をどうしたらいいのか考えてしまいます。県又は町で買いとってもらいたいとも思っていますが難しい問題です。(60代)
- 家を解体しても土地は残るが、離れざるえない状況の中、今後の補償や、優遇処置がなくなった時の不安がある。かえって土地を東電もしくは、国に買いとってもらいたい。(60代)

Ⅲ 調査結果

(3) 賠償について

賠償についての具体的な意見としては、「賠償内容・方法について」が161件と最も多く、次いで「その他所有する住まい・土地に対する賠償について」が14件、「賠償の取り組みの迅速化、方針やスケジュール明確化について」が13件などとなっている。

＜図表3-4-4 賠償についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【賠償内容・方法について】

- ・ 檜葉町に帰還するというのは住民の意見なのかもしれないが、若い世代としては、子供も小さいのにすぐには帰還できない。仕事面でも、給料も下がってしまい、生活をしていくのに対してこれからが不安。そのため保障は継続的に行ってほしい。子供に対して、嫌な想いはさせたくない。(10代～20代)
- ・ 帰還する人だけを手あつく補償するのではなく、新しい土地で生活再建を計る人達にも同等の補償をして頂ける様に併せて交渉して頂ければ幸いです。(30代)
- ・ 震災前と同額位の仕事を探しているが見つからない。そんな状況の中で避難解除されて賠償が打ち切られてしまったらどうなるのか不安だ。復興も大事だが事故がなければ見えていた将来がなくなり先の見通しが立たない今の状況をどうすればいいのか…。(40代)
- ・ 帰町を考える場合、前の生活レベルと同等の暮らしをするためには相当の金額が必要になると思う。仕事、生活、買い物等のインフラが整備されるまでには、あと5～6年はかかると考えられるので、その生活レベルが確保されるまでは賠償をして欲しい。(50代)

【その他所有する住まい・土地に対する賠償について】

- ・ 今後、「持ち家」をどうしたら良いか不安。ローンをのこし、住めない人達の「持ち家」にたいしての良い解決法と具体的なアドバイスなどがあれば知りたいです。(30代)
- ・ 3才と4才の子供がいるため、檜葉町が避難解除になっても今後の健康的被害等が心配なため、檜葉町には戻れないと思っています。そういう状況の方も多いと思うので、避難解除を急ぐより、住宅の家賃免除の延長や、東電の損害金をできるだけ長期に渡って頂けた方が助かります。(30代)
- ・ 半解まで行かなくても、リフォームにより出る廃棄物の処分料位は補助してほしいと思っています。(50代)

【賠償の取り組みの迅速化、方針やスケジュール明確化について】

- ・ 中間貯蔵施設の設置を決めるや否やの問題があり、新土地・住居を求めるべきかどうかといった事があり、余計今後の生活を狂わせる要因となっている。体力がかなり落ちて、自信も失いかけている現実もあり、精神的賠償の継続が必要不可欠な事の一つとなる。(50代)
- ・ 修繕せず放置しておいた月・日があまりにも長く、痛みが大きくなりどの様にしたらいいか分からない。町内全てののみ水の安全を長期に渡ってしめして欲しい。賠償もしっかり決めて欲しい(60代)

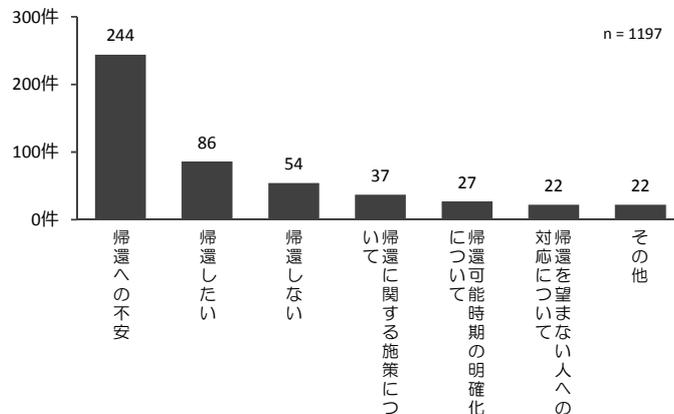
- 終の住処と決めていた榎葉町、そして我家を手放すことは苦渋だが、自分達の年齢や目途の立たない状況を考えて、別の地で落ちついた生活をしたいのが、今の希望。その為にも住宅や賠償について（戻らないと決めた人にも）速やかに進めてもらいたい。今の生活では、不安で眠れない。（70代以上）

Ⅲ 調査結果

(4) 帰還について

帰還についての具体的な意見としては、「帰還への不安」が244件と最も多く、次いで「帰還したい」が86件、「帰還しない」が54件などとなっている。

＜図表3-4-5 帰還についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【帰還への不安】

- ・ 檜葉には戻りたいが小さい子供がいて、戻れる気がしない。生まれも育ちも檜葉で生活してきたので死ぬ時は檜葉で最後をおくりたいと思ってます。(30代)
- ・ 家を3年近く放置し、傷んでいく状態の家に戻りたいという気持ちは日々衰えております。直してまで警戒区域ギリギリの町で住むべきか、とても考えられなくなってきました。(30代)
- ・ 帰町宣言すると同時に戻りたい。しかし安全性や家屋、仕事日常生活、その他諸々日が経つにつれ不安がたえない。その上中間貯蔵の問題これも移設先がなければ最終処分場になる。これから先孫達の時代とても不安。とにかく望むことは正しい情報、安心安全で生活出来る暮らしを第一と考える。(60代)
- ・ 若い女性と子供達が安心、安全な気持ちで戻れるのか？避難生活の中で出費がかさみ、持ち家の修繕等や新築するための費用が捻出できない状況が心配される。気持ちの中では生まれ故郷に戻りたいのは信実です。(60代)

【帰還したい】

- ・ 早く檜葉に戻りたいです。いわきは、やはり知らない土地なので気が休まりません。東電は口ばかりであてにならないので、行政にはとても頼っています。(10代~20代)
- ・ 帰還を早くして欲しい。とにかく帰還へ一歩踏み出して欲しい。もう三年近くになるのですから…帰還したく首を長くして待つ居る人もたくさん居る事を忘れないで欲しい。(50代)
- ・ 一日も早くかえりたい。近所に話し相手がない。一日がつまらない。散歩する気にもならない。やる気が出ない。(70代以上)

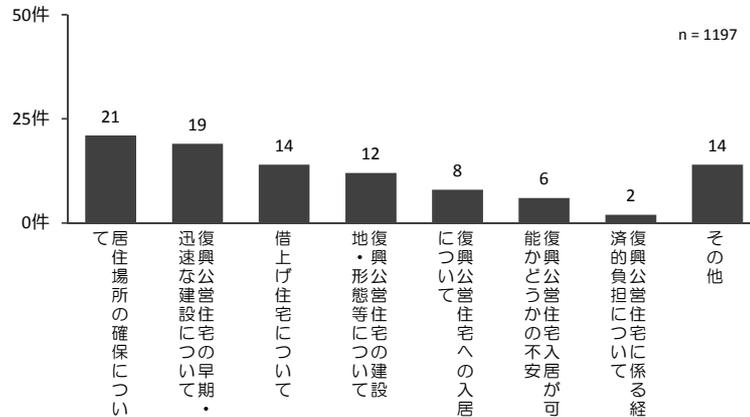
【帰還しない】

- ・ 正直なところ帰りたいたとは、思わない。原発がまだおさまっているとはおもえない。これから先二度と避難するような事態がおこらないのだろうか心配。インフラ等の物理的なことも必要とは思いますがまずは本当に安全に生活できるのかそれが一番だと思うが前の生活そのままの形にはもどりようがない。(50代)
- ・ 家族の中でも意見が分かれています。おふくろは自宅を建て直してもう一度住みたいと言い、かみさんや子供達はもう檜葉には戻りたくないと言い、間に入った私は困っている状態です。(60代)
- ・ 残念だがもどる気はない。生活がしづらいのでいわき市で住みたい。いまさらもどっても何も出来ないし、病院が近い方が生きて行くのに楽である。(70代以上)

(5) 避難期間中及び将来の住宅について

避難期間中及び将来の住宅についての具体的な意見としては、「居住場所の確保について」が21件と最も多く、次いで「復興公営住宅の早期・迅速な建設について」が19件、「借上げ住宅について」が14件などとなっている。

<図表3-4-6 避難期間中及び将来の住宅についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【居住場所の確保について】

- 自宅が解体しなければいけない為、住む所が確保出来ない。(10代～20代)
- 震災前に住んでいた所に、家が建てられないのであれば、放射能を心配しながら生活するより、他町村へ移転してより安全な地域へと思います。(50代)
- 今まで働く所が近くに(富岡、大熊、双葉)あったが、帰っても近くになく、いわきまで通うようになります。それであればいわきに住んだ方が良くなります。家は住める状態ではないので住宅の確保も必要になります。(50代)
- 櫛葉にもどるにしても、いつ又、避難指示があるかわからないので、すぐに避難出来る様、復興住宅など低価で入居できるなら申し込みたい。(60代)

【復興公営住宅の早期・迅速な建設について】

- 櫛葉町に戻るか戻らないかの選択以外にも、他の選択肢があったらいいです。戻らないと決めている住民用に、災害復興住宅を早く用意してもらえたら、新しい生活も早く始められると思う。仮設の生活をしている住民を思うと心が痛む。いわき市では、民間のアパートもなかなか見つからないので、やはり町で頑張って、いわき市などに土地を確保していただいて、住民が引け目を感じることなく新生活を送れるようにして頂きたいです。頑張ってください。(30代)
- 櫛葉町へ帰るといふ人たちと同じように、他町村に残らなければならない状況にある人たちにも目を向けて下さい。(子どもの進学先に左右され残らざるをえない状態です。)帰町する人を最優先するのではなく、戻れない人たちのためにも復興住宅の提供を望みます。(40代)
- 町においては、早急に復興住宅を整備し、町民はもとより町外の方も入居できるように配慮する取り組みを。※町営住宅ではなく国、県営住宅として提供するように。(50代)
- 避難指示解除を確定されると、賠償額が打ち切られると思うが、最低でもあと5年は無理だと思うし、インフラが整ったと言っても、帰る人は少ないだろう。広野の例もある様に今だに帰る人がいないのだから、櫛葉としても簡単に考えないでほしい。若い人達はほとんど帰ることはないのだから、よくよく考えて下さい。また、戻りたくても住居がなければ戻れないので、安く入れる住宅を確保してほしい。そうでなければ、一生仮設に居る様になるのではと思う。(50代)

Ⅲ 調査結果

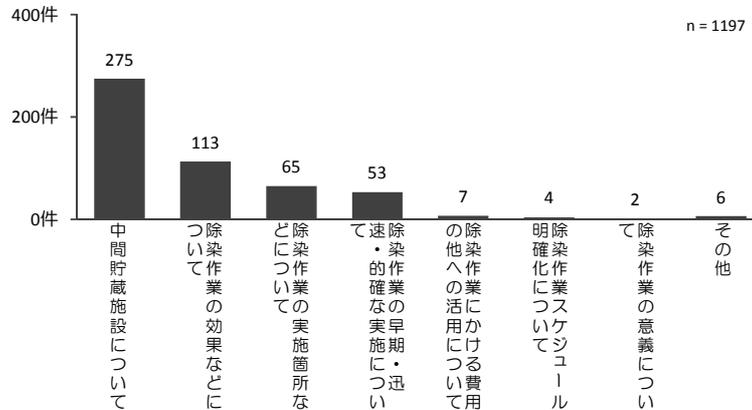
【借上げ住宅について】

- 一戸建てに住んでいたこともあり、アパート（借り上げ）は、音（足音）などの迷惑をかけないように気を
つかい子供達をしっかりとつけることもある。（40代）
- お年よりも大事ですが若い新婚さんの事も考えるべき、結婚したあとの住居引越しの認可を借り上げアパ
ートに移りたくても、一度まではおかしいです。狭い一間では、本当に気の毒である。（50代）
- 借上住宅の為、人と人との和がなくなりました。避難して2年以上もたつのに両どなりとの会話もありま
せん。元の檜葉にもどりたい。（60代）

(6) 除染について

除染についての具体的な意見としては、「中間貯蔵施設について」が 275 件と最も多く、次いで「除染作業の効果などについて」が 113 件、「除染作業の実施箇所などについて」が 65 件などとなっている。

<図表3-4-7 除染についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

[中間貯蔵施設について]

- 中間貯蔵施設がすぐそばにある町には正直帰りたくないし、どうしてもと言うなら、納得するだけの条件が必要と思われる。(10代~20代)
- 中間貯蔵施設建設は絶対に反対である。できれば帰町するのに大きな負担となる。又、富岡町が決めた最終貯蔵施設も反対、檜葉町側からは、搬入道路を通らせない！(60代)
- 中間貯蔵施設を決定し町にあふれてる除染で出たゴミを早く処理して頂きたい。(60代)
- 中間貯蔵施設(保管庫)の檜葉町への設置要望(国)についての経緯について納得がいかない。なぜ檜葉町なのか、第1原発周辺に作るべきだ。なにも放射能ゴミを拡散することはないと思う。中間といっても最終処分場になることは間違いないと思う。子々孫々に関わる問題である。(70代以上)

[除染作業の効果などについて]

- 除染の質がとても不安である。除染そのものがやっつけ仕事にしか思えない。(40代)
- 除染をすれば住める様になるのか？山野の除染をする事もなく戻って何をするのか。山に入る事も海に入る事も出来ず何のために戻るのかわからない。現状で戻る人は2~3割程、これで町として成立するのか？(50代)
- 農村部と町場では差がありすぎる。農村部では、高圧洗浄機で流すだけで水処理はしない。町場では、高圧洗浄機は使わず、特殊な機械で洗浄し、洗剤はその機械で吸い上げる。人通りの多い所ではきれいに、人のいない所は適当に、話にならない。(60代)
- 除染が徹底されていない。外壁など凹凸のある場所をふいただけでは除染されない。2階のベランダも同様である。除染結果も信用できない。山林の除染が終了しないかぎり帰町の判断できない。(60代)

[除染作業の実施箇所などについて]

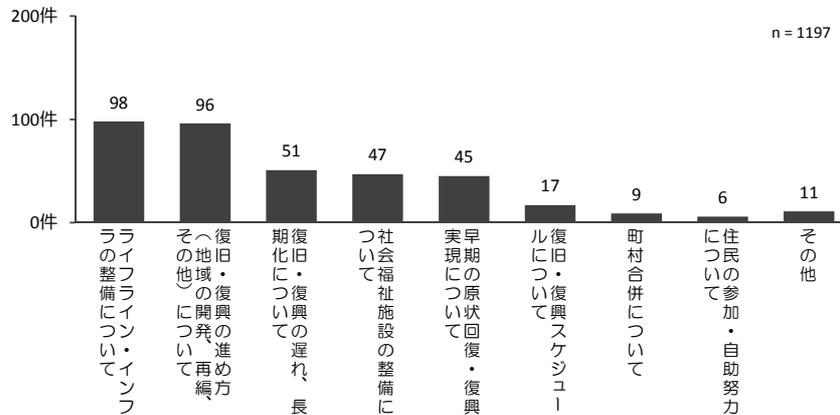
- 事故から約3年経ち線量もだいぶ低くなったが、まだ安心できるレベルにはなっていない。継続的な除染を進めてほしいのと、今まで除染しなかった山林とか町民の飲料水になる木戸ダム湖底の除染は必ず実施してほしい。(60代)
- 生活用水は大問題。木戸ダム湖底、木戸川の川底の除染はぜひ実施して下さい。年間1mmシーベルト以内の環境整備は確実に達成して下さい。(60代)
- 除染について、家より20m、道路より20mでは不安で帰る気にはなれない。集落全部山林も除染すべきである。(70代以上)

Ⅲ 調査結果

(7) 復旧・復興について

復旧・復興についての具体的な意見としては、「ライフライン・インフラの整備について」が98件と最も多く、次いで「復旧・復興の進め方（地域の開発、再編、その他）」について」が96件、「復旧・復興の遅れ、長期化について」が51件などとなっている。

＜図表3-4-8 復旧・復興についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【ライフライン・インフラの整備について】

- ・除染が全部終わってから戻った方が良くと思うし、町民の自由な出入りも同じで、インフラ整備（電気、ガス、水道）が全部整ってからにすべきです。そして、インフラ整備が遅すぎると思う。先に進めず、出入りできるのは（震災前の様に）いつになるのって、すごく感じます。（30代）
- ・除染が終了しても孫（幼児）を連れて帰れる線量まで下らず、檜葉町には戻れないし、道路、鉄道、インフラが整備されても、金融機関、生活の為に食料品の購入等、毎日の生活が不自由になります。（50代）
- ・ライフラインがもどりましたらすぐ帰りたいので何とか役場の方からも、お力添えをいただき一日も早い復興をお願いします。（50代）
- ・帰町の条件として、インフラ、若い世代の帰ってくる人数・世帯数・福祉、学校の再開、病院、郵便局、スーパー、宅急便等の充実をお願いしたい。（60代）

【復旧・復興の進め方（地域の開発、再編、その他）について】

- ・他の地域の人が檜葉町に移住したいと思える復興をすれば、自然と戻るのではないですか。魅力ある町づくり（優良な学校教育、大規模ショッピング施設）を行って、他の市町村から人が集まる町になると良いと思います。（50代）
- ・町の復興は檜葉町だけでは出来ない。双葉郡全体で行っていくことが肝要である。賠償も双葉、大熊と同等とするとかして、双葉郡全体が国と交渉するようにしてはどうか。除染はいつまで費用をかけても、完全にはならない。（50代）
- ・双葉郡全体の復興を見据えた取り組み。双葉郡8町村が支え合い、将来を見据えた取り組み。行政と住民が一体となり、新しい、双葉郡づくりが出来るような取り組み。（50代）

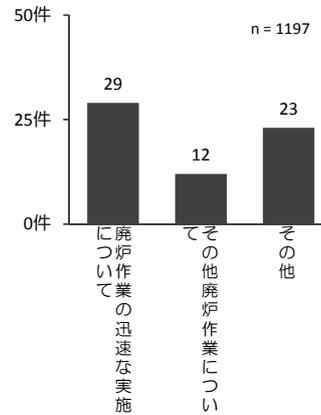
【復旧・復興の遅れ、長期化について】

- ・復興がおそい。除染も線量が思ったほど低くなってない。山林も除染が必要ではないか（20m以上）震災前は少しだが農業を行っていた。戻っても農業が出来なければ戻らなくてもよいと思う時がある。（70代以上）
- ・復興が遅く展望が実現しそうも無い。安全、安心の追求を何時の世も続けること。子等に託するのみです。（70代以上）

(8) 原発の安全性について

原発の安全性についての具体的な意見としては、「廃炉作業の迅速な実施について」が 29 件と最も多く、次いで「その他廃炉作業について」が 12 件などとなっている。

<図表3-4-9 原発の安全性についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【廃炉作業の迅速な実施について】

- 先づ原発本体の解体作業を、安全にトラブルもなくしっかり進めることが大事である。全ての根源はこれにかかっているなので、今後大きなトラブルが発生しないよう、正しい情報と共に進めてほしい。これが収束しない限り、本当の意味での復興なんてありえない。危ない所に急いで帰ってもしようがないです。(60代)
- 現在の状況では、一刻も早く廃炉に。若人、子ども達が安心して暮らしてゆける「ふるさと」にして欲しい！(70代以上)

【その他廃炉作業について】

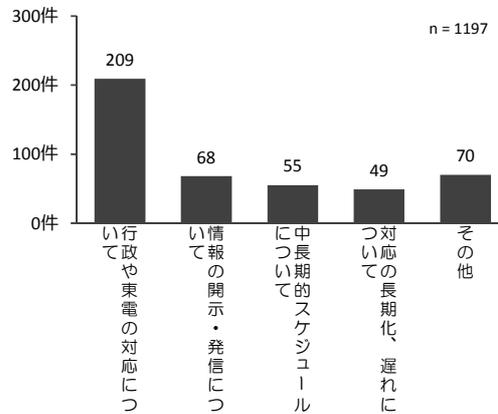
- これから長く続く原発の廃炉作業が安全に行われていくか疑問です。(50代)
- 原発の完全廃炉に向けた安定性に疑問がある。(50代)

Ⅲ 調査結果

(9) 原発事故に対する対応について

原発事故に対する対応についての具体的な意見としては、「行政や東電の対応について」は209件と最も多く、次いで「情報の開示・発信について」が68件、「中長期的スケジュールについて」が55件となっている。

＜図表3-4-10 原発事故に対する対応についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【行政や東電の対応について】

- 除染のやり方は、元の状態（震災前の状態）に戻すことでありここまでやったから良いという物ではないと考えている。国、東電の責任で起きた事故が全ての被災の原因であり、早期に、国、東電はその責任をはたすべきものである。（50代）
- 土地、家屋、心労他に対する補償が充分でない。町は強く東京電力及国に対して補償の態度を示すべきである。・残り人生年数から見ても先が明るいとは思えない。風評被害に対する作物を東京電力、国の家族は積極的に購入すべきである。他人事の様に見える。原子力被害者に対する補償などは災害ではないので都度その立場になって期限などを検討して欲しい。（50代）
- 未来のある子供達を放射線量のある場所に住む事が出来ますか（10年先、20年先の健康を安全と保障出来ますか）行政の為、町を存続させたい為に解除、戻るなどと言っているのでしょうか。町では一番未来のある子供達の為に放射線量のない町に安心して住めるように支援して国等に何度も働きかけてほしい。（60代）
- 櫛葉にもどりたくとも、若い人はだれももどらない為に仕事ももどりません。夫婦2人でいる人はいいが、私のように主人が亡くなってしまった人は帰れません。東電は帰る人も帰らない人も同じ補償をして下さい。（60代）

【情報の開示・発信について】

- 行政・復興計画を1日でも早くみんなにわかるよう説明して頂きたいものです。（70代以上）
- 除染の測定結果が早急に報告してほしい。（町全体、自宅の除染結果）（70代以上）
- 櫛葉町に戻るための避難指示解除時期であるが、その判断をする前に福島第一原子力発電所収束状況情報を東電に願います。（70代以上）

【中長期的スケジュールについて】

- 帰れる場所の住民ははっきりとした帰還の道筋を作ってほしいと思っている。帰らないで新しい場所で生活を始めた人達も、法律や制度が邪魔をしない様にしてほしい。（40代）
- 復旧に対する事業で復旧のためでなく、利益を求める事業者が散見するので、不正のない事業推進と早い復旧工事の完了を切に願う者です。（60代）

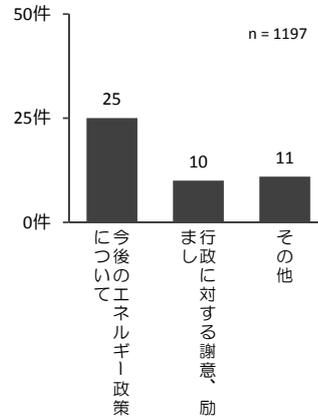
- 復旧、復興をめざして復興庁に書類申請をしたが決裁が遅いです。避難指示解除準備区域で事業を再開している事業所に勤める労働者の健康管理はどのように実施されているのでしょうか。町の職員も含め、国は労働行政上明確な指針を打ち出すべきではないかと思います。住民帰還後子供の甲状腺検査（超音波検査等）および全住民の内部および外部被曝検査はどのようになされるべきか、町は住民に健康管理の概要を説明すべきです。中間貯蔵施設の設置については避難指示解除準備区域および居住制限区域等、檜葉町以外にも候補地があるはずですが、なぜ檜葉町が選ばれたのか不透明に思われます。（60代）
- 復興に力をそそいで欲しいが、その場だけの対策ではなく国が長い目でみた将来の見取図を指示しない事には、後手、後手になってしまい、せっかくの税金が無駄になってしまう様な気がします。（60代）

Ⅲ 調査結果

(10) その他

その他の具体的な意見としては、「今後のエネルギー政策について」が25件と最も多く、次いで「行政に対する謝意、励まし」が10件となっている。

<図表3-4-11 その他についての意見>



主な意見は以下のとおり。

【今後のエネルギー政策について】

- 波力、風力発電など色々な自然エネルギーを利用し生活する町というクリーンなイメージを目指す。最先端のがんセンターの設置をするなど放射能問題はあるが他にはない『安全』があるなどの付加価値が何か必要。(40代)

【行政に対する謝意、励まし】

- 復興に向け、多くの人達の支援や協力に対し感謝致します。一日も早い復興の為、町民が一丸となって、ニューナラハをめざしたいです。(60代)
- 何時もながら御世話になっています。県町地域復興の為に日夜活躍くださって居る、皆さんに感謝しております。今後日健康に留意され地域復興の為、御活躍の程重ねて、お願いしたい一人です。(70代以上)

IV 參考資料

4-1 使用調査票

楡葉町 住民意向調査

記入上の注意

● 調査をお願いする方

- ▶ ご回答は、楡葉町住民の世帯の代表者の方をお願いいたします。
- ▶ 現在世帯が何か所かに分かれて避難されている場合には、それぞれの場所にお住まいの代表者の方にご回答をお願いいたします。

● ご回答方法

- ▶ ご回答は、あてはまる番号を選び、その番号に○をつけてください。
- ▶ 前から順番に回答を進めてください。途中、「問〇〇へ」などと質問を飛ばすように指定がある場合には、それに従って回答を進めてください。
- ▶ 「その他」に○をされた場合は、() 内に具体的な内容をご記入ください。
- ▶ の中に記入をお願いしている質問には、地名、数などを具体的にご記入ください。

※調査票はすべて無記名でお願いしております。

● ご提出方法

- ▶ ご記入済みの調査票は、1月23日(木)までに、同封の返信用封筒に入れ、郵便ポストに投函してください（切手は不要です）。

楡葉町 福島県 復興庁

【お問い合わせ先】

ご不明な点がございましたら、下記までご連絡ください。

■ 復興庁「住民意向調査」お問い合わせセンター

フリーダイヤル 0120-966-264

[設置期間： 1月10日（金）～1月23日（木） 平日10時～17時]

IV 参考資料

はじめに、ご記入いただくあなたご自身のことについて教えてください。

【すべての方にうかがいます。】

問1 性別（○は1つ）

- | | |
|------|------|
| 1 男性 | 2 女性 |
|------|------|

【すべての方にうかがいます。】

問2 あなたの現在の年齢（○は1つ）

- | | |
|----------|-----------|
| 1 ~19歳 | 8 50~54歳 |
| 2 20~24歳 | 9 55~59歳 |
| 3 25~29歳 | 10 60~64歳 |
| 4 30~34歳 | 11 65~69歳 |
| 5 35~39歳 | 12 70~74歳 |
| 6 40~44歳 | 13 75~79歳 |
| 7 45~49歳 | 14 80歳以上 |

東日本大震災発生当時のあなたの状況について教えてください。

【すべての方にうかがいます。】

問3 震災発生当時にお住まいだった地区を以下から教えてください。（○は1つ）

- | | | | |
|-------|--------|--------|-------------------------|
| 1 旭ヶ丘 | 8 山田岡 | 15 前原 | 22 その他 |
| 2 営団 | 9 山田浜 | 16 大坂 | ※わからない場合住所を
記載してください |
| 3 乙次郎 | 10 女平 | 17 大谷 | 〔 〕 |
| 4 下井出 | 11 松館 | 18 榎木下 | |
| 5 下小埜 | 12 上井出 | 19 波倉 | |
| 6 下繁岡 | 13 上小埜 | 20 繁岡 | |
| 7 山所布 | 14 上繁岡 | 21 北田 | |

問4 **震災発生当時の**あなたの職業を教えてください。当時、仕事に就いていた方は、業種及び就業先の所在自治体も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っていた場合には、主な収入源になっていたものを選択してください。

【すべての方にうかがいます。】

問4(1) 職業（就業形態）（○は1つ）

- | | | |
|-------------|------------------|--------|
| 1 自営業・会社経営者 | 7 学生 | →問5へ |
| 2 会社員（事務） | 8 無職（職を探していなかった） | →問5へ |
| 3 会社員（労務） | 9 無職（職を探していた） | →問5へ |
| 4 団体職員 | 10 その他 | 【具体的に】 |
| 5 公務員 | | |
| 6 パート・アルバイト | | |

【就業していた方にうかがいます。】

問4(2) 業種（○は1つ）

- | | | |
|-------------|------------------|--------|
| 1 農・林・漁・畜産業 | 6 運輸業 | 11 公務 |
| 2 建設業 | 7 卸・小売り・飲食・サービス業 | 12 その他 |
| 3 製造業 | 8 金融・保険業 | 【具体的に】 |
| 4 電気業 | 9 医療・福祉 | |
| 5 ガス・水道業 | 10 教育 | |

【就業していた方にうかがいます。】

問4(3) 就業先の所在自治体

（都・道・府・県）

（市・町・村・区）

【すべての方にうかがいます。】

問5 あなたは、震災発生当時、世帯主でしたか。（○は1つ）

- | | |
|------------|---------------|
| 1 当時世帯主だった | 2 当時世帯主ではなかった |
|------------|---------------|

現在のあなたの状況について教えてください。

【すべての方にうかがいます。】

問6 あなたが現在避難されている先の自治体名を教えてください。(○は1つ)

- | | |
|---------|---|
| 1 いわき市 | 6 福島県内のその他の市町村 (具体的にご記入ください。) |
| 2 会津美里町 | → <input type="text"/> (市・町・村) |
| 3 福島市 | 7 福島県外 (具体的にご記入ください。) |
| 4 郡山市 | → <input type="text"/> (都・道・府・県) <input type="text"/> (市・町・村・区) |
| 5 会津若松市 | |

【すべての方にうかがいます。】

問7 現在の世帯構成についてうかがいます。現在、あなたを含めて一緒に住んでいる方の人数を教えてください。あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

ア) 未就学児 (小学校入学前)	人	エ) 高校生	人
イ) 小学生	人	オ) 15～64 歳 (中学・高校生を除く)	人
ウ) 中学生	人	カ) 65 歳以上の方	人

【すべての方にうかがいます。】

問8 震災発生当時ご一緒にお住まいであった家族は、現在、何か所に分散してお住まいですか。(○は1つ)

- | | |
|------------------------|--------------|
| 1 世帯でまとまって避難 (一人暮らし含む) | 3 合計3か所に分散 |
| 2 合計2か所に分散 | 4 合計4か所以上に分散 |

【すべての方にうかがいます。】

問9 現在お住まいになっている住宅はどのような住居形態ですか。(○は1つ)

- | | |
|---------------|---------------------|
| 1 応急仮設住宅 | 7 持ち家 (ご本人またはご家族所有) |
| 2 借上げ住宅 | 8 その他 |
| 3 公営住宅 (有償) | 具体的に入力欄 |
| 4 民間賃貸 (有償) | |
| 5 給与住宅 (社宅など) | |
| 6 親戚・知人宅 | |

問 10 **現在のあなたの職業を教えてください。**現在、仕事に就いている方は、業種、就業先の所在自治体及び原子力発電所との関連性も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合には、主な収入源になっているものを選択してください。

【すべての方にかがいます。】

問 10(1) 職業（就業形態）（○は1つ）

- | | | |
|-----------------------------|----------------|---------|
| 1 自営業・会社経営者（継続中
もしくは再開済） | 7 パート・アルバイト | |
| 2 自営業・会社経営者（休業中） | 8 学生 | →問 11 へ |
| 3 会社員（事務） | 9 無職（職を探していない） | →問 11 へ |
| 4 会社員（労務） | 10 無職（職を探している） | →問 11 へ |
| 5 団体職員 | 11 その他 | |
| 6 公務員 | 〔具体的に〕 | |

【就業している方にかがいます。】

問 10(2) 業種（○は1つ）

- | | | |
|-------------|------------------|--------|
| 1 農・林・漁・畜産業 | 6 運輸業 | 11 公務 |
| 2 建設業 | 7 卸・小売り・飲食・サービス業 | 12 その他 |
| 3 製造業 | 8 金融・保険業 | 〔具体的に〕 |
| 4 電気業 | 9 医療・福祉 | |
| 5 ガス・水道業 | 10 教育 | |

【就業している方にかがいます。】

問 10(3) 就業先の所在自治体

（都・道・府・県）

（市・町・村・区）

【就業している方にかがいます。】

問 10(4) 現在の職業は、原子力発電所に関連していますか。（○は1つ）

- | | |
|--|---|
| 1 原子力発電所に勤務している | |
| 2 「主な取引先が原子力発電所である企業」に勤務している | |
| 3 「主に原子力発電所の従業員等を対象に商品やサービスを提供する企業」に勤務している | |
| 4 その他（具体的に | ） |
| 5 原子力発電所との関連はない | |

IV 参考資料

【すべての方にうかがいます。】

問 11 就労について、現在困っていることや不安なことはありますか。あてはまるものをすべて選んでください。(○はいくつでも)

- | | |
|---------------------------|------------------|
| 1 職場が遠くなった（通勤に時間がかかる） | 6 職を探しているが見つからない |
| 2 震災前と違う職であり、慣れない | 7 その他 |
| 3 給与が減った | （具体的に） |
| 4 長期雇用が保障されない | |
| 5 避難していることに対して職場の人の目が気になる | 8 特にない |

あなたの今後のご意向についてお聞かせください。

問 12 あなたの今後の仕事に関するご意向を教えてください。

【すべての方にうかがいます。】

問 12(1) 今後の職業について、どのようにお考えですか。震災発生当時、自営業・会社経営者だった方はB、それ以外の方はAにお答えください。(○は1つ)

【A 震災発生当時の職業が自営業・会社経営者以外の方は下記にご回答ください】

- 1 震災発生当時から同じ職場で働いており、今後も働きたい →問 13 へ
- 2 震災発生後に転職または就職し、今後も現在の職場で働きたい →問 13 へ
- 3 今後、檜葉町で職場が見つかるのなら、そこで働きたい →問 12(2) へ
- 4 今後、檜葉町以外*の職場で働きたい →問 12(2) へ

※希望地があれば、具体的にご記入ください。

(都・道・府・県) (市・町・村・区)

5 今後、働く予定はない →問 13 へ

6 その他 (具体的に
→問 13 へ

【B 震災発生当時の職業が自営業・会社経営者の方は下記にご回答ください】

- 1 現在仕事をしており、今後も働きたい
- 2 現在は休業しているが、震災発生当時の仕事の再開が元の場所で見通しが立っている
- 3 現在は休業しているが、震災発生当時の仕事の再開が元の場所以外で*見通しが立っている

※具体的にご記入ください。

(都・道・府・県) (市・町・村・区)

4 現在は休業しており、震災発生当時の仕事の再開の見通しは立っていないが、元の場所で再開させたい

5 現在は休業しており、震災発生当時の仕事の再開の見通しは立っていないが、元の場所以外で*再開させたい

※希望地があれば、具体的にご記入ください。

(都・道・府・県) (市・町・村・区)

6 今後、働く予定はない

7 その他 (具体的に

→問 13 へお進みください。

IV 参考資料

【問 12(1)のAで「3 今後、檜葉町で職場が見つかるのなら、そこで働きたい」「4 今後、檜葉町以外の職場で働きたい」と回答した方にうかがいます。】

問 12(2) 職場を選ぶ際に、重要視することを**3つまで**お選びください。(○は3つまで)

- | | |
|---------|-----------|
| 1 職種・業種 | 7 社会保険の有無 |
| 2 給料 | 8 所定労働時間 |
| 3 通勤時間 | 9 その他 |
| 4 勤務地 | 具体的に |
| 5 職場の規模 | |
| 6 雇用形態 | |

【問 12(1)のAで「3 今後、檜葉町で職場が見つかるのなら、そこで働きたい」と回答した方にうかがいます。】

問 12(3) 希望される業種を**3つまで**お選びください。(○は3つまで)

- | | | |
|-------------|------------------|-------------------|
| 1 農・林・漁・畜産業 | 7 卸・小売り・飲食・サービス業 | 12 その他
具体的に |
| 2 建設業 | 8 金融・保険業 | |
| 3 製造業 | 9 医療・福祉 | |
| 4 電気業 | 10 教育 | 13 現時点で判断
できない |
| 5 ガス・水道業 | 11 公務 | |
| 6 運輸業 | | |

【すべての方にうかがいます。】

問 13 将来、檜葉町の避難指示が解除され、戻ることができるようになった場合、あなたは檜葉町に戻りますか。(○は1つ)

- | | |
|-----------------|---------|
| 1 檜葉町にすぐに戻る | →問 14 へ |
| 2 条件が整えば、檜葉町に戻る | →問 15 へ |
| 3 檜葉町には戻らない | →問 17 へ |
| 4 今はまだ判断ができない | →問 18 へ |

【問 13 で「1 檜葉町にすぐに戻る」と回答した方にうかがいます。】

問 14 避難指示が解除され檜葉町に戻る時に、行政にどのような支援を望みますか。(〇はいくつでも)

1 自宅再建、確保の支援	9 放射線に対する不安解消への取組
2 公営住宅の整備	10 きめ細かいモニタリングとその継続 (空間線量率、水、食料品等)
3 継続的な健康管理の支援	11 行政区等のコミュニティ活動への支援
4 雇用確保の支援	12 イノシシ・ネズミ等の駆除
5 商店の再開	13 その他
6 鉄道等の公共交通機関の再開	〔具体的に〕
7 医療機関・介護・福祉サービスの再開	
8 学校や教育機関の再開	

→問 16 へお進みください。

【問 15 は、問 13 で「2 条件が整えば、檜葉町に戻る」と回答した方にうかがいます。】

問 15(1) 檜葉町に戻るにあたり、あなたがその条件として考慮する情報等について、あてはまるものをお選びください。(〇はいくつでも)

1 避難指示解除となる時期の目安	7 放射線の人体への影響
2 道路、鉄道、学校、病院などの社会 基盤（インフラ）の復旧時期の目安	8 働く場の確保の目安
3 どの程度の住民が戻るかの状況	9 受領する賠償額の確定
4 放射線量の低下の目安、除染成果の 状況	10 その他
5 中間貯蔵施設に関する情報	〔具体的に〕
6 原子力発電所の安全性（事故収束や 廃炉の状況）	

問 15(2) 上記（問 15(1)）で選んだ情報等のうち、特に重視するものを3つまで選んで、選択肢番号の欄にご記入下さい。そして、その情報等について、どのような条件が満たされたときに戻る予定ですか。具体的にお書きください。

問 15(1)の 選択肢番号	具体的な条件の内容
(例) 3	檜葉町で近所に住んでいた人たちが戻ってくる

→問 16 へお進みください。

IV 参考資料

【問 16 は、問 13 で「1 檜葉町にすぐに戻る」「2 条件が整えば、檜葉町に戻る」と回答した方にうかがいます。】

問 16(1) 檜葉町に戻る場合、避難指示解除から何年以内に戻りたいとお考えですか。(○は1つ)

- | | | | |
|--------|--------|--------|-------|
| 1 1年以内 | 2 3年以内 | 3 5年以内 | 4 5年超 |
|--------|--------|--------|-------|

問 16(2) 檜葉町への帰還後、どのような家族構成になると考えていますか。あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

ア) 未就学児 (小学校入学前)	人	エ) 高校生	人
イ) 小学生	人	オ) 15～64 歳 (中学・高校生を除く)	人
ウ) 中学生	人	カ) 65 歳以上の方	人

問 16(3) 檜葉町に帰町した場合のお住まいは、どのような形態を予定されていますか。(○は1つ)

1 元の持ち家 (自宅) (建て替える場合を含む) →問 19 へ 2 元の自宅とは別の町内の場所に、新たに一戸建の持ち家を建てる 3 元の自宅とは別の町内の場所に、新たに分譲集合住宅を購入する 4 民間賃貸住宅 (一戸建) 5 民間賃貸住宅 (集合住宅)	6 公営住宅 7 給与住宅 (社宅など) 8 家族のどなたかのお住まい・実家 9 親戚・知人宅 10 その他 (具体的に) 11 現時点では判断していない
--	--

【問 16(3)で、「2」～「11」のいずれかを回答した方にうかがいます。】

問 16(4) 元の持ち家以外をお住まいとされる理由は、何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。(○はいくつでも)

1 自宅が荒廃しているから 2 自宅周辺の放射線量が心配だから 3 津波の被害を受けることが心配だから 4 自宅周辺に住む人が少ないと思うから 5 檜葉町内の新たな場所で生活を開始したいから	6 その他 (具体的に) 7 元々民間賃貸住宅、公営住宅、給与住宅等に住んでいたから
---	---

→問 19 へお進みください。

【問17 は、問13で「3 檜葉町には戻らない」と回答した方にうかがいます。】

問17(1) 檜葉町に戻らないと決めている理由はどのようなことですか（○はいくつでも）

【帰還の前提・健康に関わるもの】

- 1 放射線量が低下せず不安だから
- 2 原子力発電所の安全性に不安があるから
- 3 水道水等の生活用水の安全性に不安があるから

【町内の復旧状況に関わるもの】

- 4 檜葉町に戻っても仕事がなさそうだから
- 5 檜葉町での事業の再開が難しいから
- 6 営農などができそうにないから
- 7 家が汚損・劣化し、住める状況ではないから
- 8 檜葉町外への移動交通が不便だから
- 9 道路、鉄道等の交通インフラに不安があるから
- 10 医療環境に不安があるから
- 11 介護・福祉サービスに不安があるから
- 12 教育環境に不安があるから
- 13 生活に必要な商業施設などが元に戻りそうにないから

【今後の生活に関わるもの】

- 14 高齢者・要介護者だけの世帯なので生活が不安だから
- 15 他の住民も戻りそうにないから
- 16 今後の津波被害が不安だから
- 17 帰還までに時間がかかるから
- 18 避難先で仕事を見つけているから
- 19 今の環境で子どもの教育を継続させたいから
- 20 その他

具体的に

問17(2) 現在避難している自治体にそのまま居住される予定ですか。

- 1 そのまま居住するつもり
- 2 別の自治体に転居するつもり

※転居先として想定されている自治体名をご記入ください。

(都・道・府・県)

(市・町・村・区)

- 3 現時点では判断していない

問17(3) 今後希望する住宅はどのような形態ですか。（○は1つ）

- | | |
|--|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1 持ち家（一戸建） 2 持ち家（集合住宅） 3 民間賃貸住宅（一戸建） 4 民間賃貸住宅（集合住宅） 5 公営住宅 6 給与住宅（社宅など） | <ol style="list-style-type: none"> 7 家族のどなたかのお住まい・実家 8 親戚・知人宅 9 その他 10 現時点では判断していない |
|--|---|

具体的に

IV 参考資料

問 17(4) 今後の生活においてどのような支援を求めますか。(〇はいくつでも)

1 公営住宅の確保	7 避難先住民との交流
2 継続的な健康管理	8 その他
3 雇用確保の支援	具体的に
4 仮設住宅・借上げ住宅の支援の継続	
5 檜葉町からの継続的な情報提供	
6 町民同士の交流	
	9 特にない

→問 19 へお進みください。

【問 18 は、問 13 で「4 今はまだ判断ができない」と回答した方にうかがいます。】

問 18(1) 檜葉町に戻るかどうかの判断をする際に、あなたが参考にする情報等について、あてはまるものをお選びください。(〇はいくつでも)

1 避難指示解除となる時期の目安	8 働く場の確保の目途
2 道路、鉄道、学校、病院などの社会基盤（インフラ）の復旧時期の目途	9 受領する賠償額の確定
3 どの程度の住民が戻るかの状況	具体的に
4 放射線量の低下の目途、除染成果の状況	
5 中間貯蔵施設に関する情報	
6 原子力発電所の安全性（事故収束や廃炉の状況）	
7 放射線の人体への影響	11 現時点ではどのような情報があれば判断できるかわからない →問 19 へ

【問 18(1)で、「1」～「10」のいずれかを回答した方にうかがいます。】

問 18(2) 上記（問 18(1)）で選んだ情報等のうち、特に重視するものを3つまで選んで、選択肢番号の欄にご記入下さい。そして、その情報等について、どのような条件が満たされたときに戻りたいと考えますか。具体的にお書きください。

問 18(1)の 選択肢番号	具体的な条件の内容
(例) 3	檜葉町で近所に住んでいた人たちが戻ってくる

→問 19 へお進みください。

震災発生当時にお住まいだった住宅の状況について詳しく教えてください。

【すべての方にうかがいます。】

問 19 震災発生当時にお住まいだった住宅は、どのような形態でしたか。(○は1つ)

- | | |
|------------------------|-------------------|
| 1 持ち家（一戸建） | 7 家族のどなたかのお住まい・実家 |
| 2 持ち家（集合住宅） | →問 22 へ |
| 3 民間賃貸住宅（一戸建） →問 22 へ | 8 親戚・知人宅 →問 22 へ |
| 4 民間賃貸住宅（集合住宅） →問 22 へ | 9 その他 →問 22 へ |
| 5 公営住宅 →問 22 へ | （具体的に |
| 6 給与住宅（社宅など） →問 22 へ | |

【問 19 で「1 持ち家（一戸建）」「2 持ち家（集合住宅）」と回答した方にうかがいます。】

問 20 震災発生当時にお住まいだった持ち家（自宅）は、現在どのような状況ですか。(○は1つ)

- | |
|----------------------------|
| 1 解体をせざるを得ないほどの被害、劣化等がみられる |
| 2 修理すれば住める状況 |
| 3 津波により、家が流出している →問 22 へ |
| 4 特に損傷はない →問 22 へ |
| 5 わからない →問 22 へ |

【**問 21** は、問 20 で「1 解体をせざるを得ないほどの被害、劣化等がみられる」「2 修理すれば住める状況」と回答した方にうかがいます。】

問 21(1) 震災発生当時にお住まいだった持ち家（自宅）は、現在具体的にどのような被害や劣化等がありますか。あてはまるものをすべて選んでください。(○はいくつでも)

- | | |
|---------------------|-------|
| 1 地震の影響と思われる損壊等がある | 7 その他 |
| 2 津波被害を受けている | （具体的に |
| 3 動物等が侵入した跡があり荒れている | |
| 4 雨漏りの形跡がみられる | |
| 5 カビが多く発生している | |
| 6 屋内の放射線量が高い | |

IV 参考資料

問 21(2) 震災発生当時にお住まいだった持ち家（自宅）は、今後どのようにされる予定ですか。

（○は1つ）

- 1 すでに修繕済み、または現在修繕中
- 2 今後すぐに修繕する予定
- 3 今後1～2年以内に修繕する予定
- 4 今後修繕を行う予定であるが、時期は未定
- 5 特に修繕を行わず、そのままにする →問 22 へ
- 6 修繕せずに解体する →問 22 へ
- 7 わからない →問 22 へ
- 8 その他 →問 22 へ

〔具体的に〕

【問 21(2)で、「1」～「4」のいずれかを回答した方にうかがいます。】

問 21(3) 震災発生当時にお住まいだった持ち家（自宅）に対して、どのような修繕などを行いますか（行いましたか）。あてはまるものをすべて選んでください。（○はいくつでも）

- | | |
|--------------|--------|
| 1 住宅外壁の修繕 | 6 その他 |
| 2 屋根などの修繕 | 〔具体的に〕 |
| 3 住宅内部のリフォーム | |
| 4 家財などの買換え | |
| 5 住宅の清掃・消毒 | |

→問 22 へお進みください。

【すべての方にうかがいます。】

問 22 復興に対して、日頃お感じになっているお気持ちや今後のあなたの展望などを自由にお書きください。

以上でご回答いただく内容は終わりです
調査にご協力いただきまして、誠にありがとうございました。
同封の返送用封筒にご記入済みの調査票を入れて、
1月23日(木)までに郵便ポストに投函してください(切手は不要です)。

**檜葉町 住民意向調査
報告書**

**平成26年3月
復興庁**

調査機関：株式会社サーベイリサーチセンター